

石川県立看護大学

年報

第16巻

平成27年度

巻頭言

平成 26 年度は、地方創生という新たな国の政策が全国に大きな動きをもたらし、文部科学省の競争的資金や総務省の施策も地方創生を中心にしたものに変更されました。

これにより、本学のような看護系単科大学にも地方創生に向けて何ができるかを検討することが課せられました。検討は平成 27 年度に入っても継続し、関係する石川県公立大学法人や石川県との会議が重ねられ、結果的には組織間の距離が縮まるという良い効果ももたらされました。本学は、開学時より地方創生の精神に基づく教育を心がけてきており、[新たに]、[直接的に]寄与出来ることは何かを考えると戸惑いもありましたが、合計特殊出生率向上への間接的貢献や高齢者が元気で長生きできる社会づくりへの貢献等、いくつかのテーマが行政との間で確認されたことは、本学にとっても意義あることと思われまます。平成 27 年度は、各自治体の地方創生に向けた計画もすでに固まり、包括連携協定を結んでいるかほく市との子育て支援の事業等、早速動きが感じられました。

また、地方創生とは別に、2025 年問題を見据えた医療再編の動きも平成 26 年頃から聞こえ始め、本学ではその方向性や求められる看護師像への検討を平成 27 年度に開始しました。また、平成 28 年度が現在の中期計画の最終年度であることから、次の中期計画を練り始めることも取り組むべき大きな事項でありました。

このように平成 27 年度は、(1)医療の再編に向けた看護教育の見直し、(2)地方創生に向けた大学としての貢献、そして(3)平成 29 年度からの 6 年間の中期計画の策定、という知恵と俯瞰的な見方をもって本学を方向づける節目の年となりました。これは平成 28 年度にも引き継がれ、時間をかけて検討する予定です。

さて、本学は、開学から 16 年経過する大学であります。近年、大学には教育内容の工夫や変化が必要となり、研究においては一層臨床現場や地域社会への貢献を意図した研究の推進が求められています。高校から入学してくる学生の変化も感じられ、現代の学生に適した教授方法を取り入れること、多様な学生の個性を見極めながら個別の支援も加味することが重要です。本学では、平成 27 年度は、初学年教育の充実に力を注ぎ、1 年次向けの科目において科目横断的な取り組みを試行したこと、グローバル人材育成に向けて民泊体験を取り入れ、かつ韓国での学生研修(大学院生を含む。)を行ったこと等、着実に一步一步教育の改善に努めています。大学院においては、新たな高度実践看護師教育の可能性も検討し始めました。大学運営としては、昨年度形にした教員評価の仕組みをさらに検証すること、自己点検評価を充実させ、それと連動するように年報を改革すること等を行っています。

このような背景の下に、この年報は、この 1 年の大学全体の様相、教職員一人ひとりの学内外での役割・活躍や、個人で努力したことの成果等が、ありのままにほぼ網羅的に掲載されています。皆様、是非 <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/> にもアクセスしてみてください。本学に対する忌憚のないご意見をお寄せいただけましたら幸甚です。

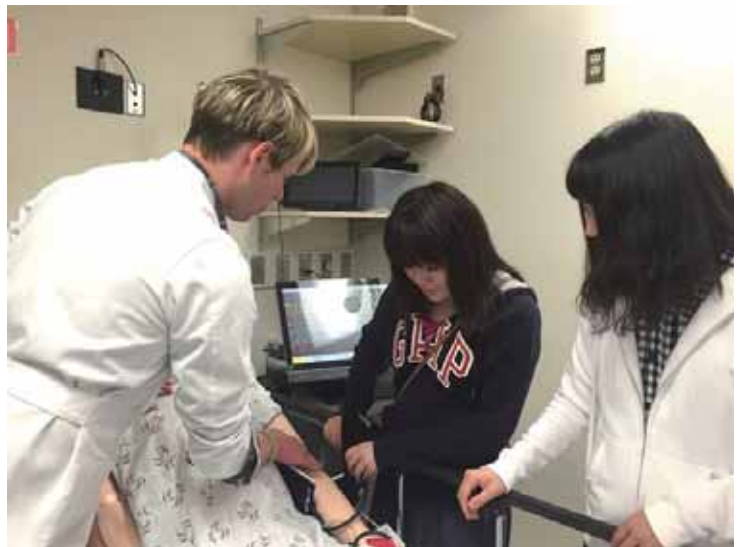
石川県立看護大学 学長 石垣和子



第 16 回入学式
(平成 27 年 4 月 3 日)



夏のオープンキャンパス
(平成 27 年 7 月 18 日)



第10回夏期アメリカ看護研修(平成27年8月25日～9月7日)



JICA 日系研修
(平成 27 年 7 月 14 日～8 月 7 日)



JICA 青年研修
(平成 27 年 11 月 25 日～12 月 8 日)



中国 南京中医薬大学との MOU 締結
(平成 28 年 3 月 28 日)



中国 吉林大学看護学院との MOU 締結
(平成 28 年 3 月 29 日)



全州市保健所



全北大学校看護大学
(実習室)

韓国 全北大学校看護大学 看護研修 (平成 28 年 3 月 20 日～3 月 27 日)



石川県保健師助産師看護師実習指導者講習会
(平成 27 年 8 月 12 日)



専門的看護実践力研修事業「管理者経営研修」
(平成 27 年 11 月 27 日)



第 12 回卒業式 (平成 28 年 3 月 19 日)

目次

巻頭言

| | |
|---------------------------------|----|
| 1. 学事 | 1 |
| 1.1 平成27年度学事暦 | 1 |
| 1.2 大学組織図 | 2 |
| 1.2.1 大学組織図 | 2 |
| 1.2.2 委員会構成 | 3 |
| 1.3 オープンキャンパス | 5 |
| 1.4 懇話会 | 6 |
| 2. 教員・職員紹介 | 8 |
| 2.1 教員紹介 | 8 |
| 2.2 特任教員等紹介 | 12 |
| 2.3 教員組織構成 | 12 |
| 2.4 職員紹介 | 14 |
| 3. 中期計画 | 15 |
| 4. 看護学部看護学科 | 17 |
| 4.1 理念・目標 | 17 |
| 4.1.1 教育理念 | 17 |
| 4.1.2 教育目標 | 17 |
| 4.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材） | 17 |
| 4.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針） | 18 |
| 4.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針） | 18 |
| 4.2 学部学生の入学・在学・卒業の状況 | 19 |
| 4.3 教育・履修体制 | 22 |
| 4.4 委員会活動 | 23 |
| 4.4.1 教務委員会 | 23 |
| 4.4.2 学生委員会 | 25 |
| 4.4.2.1 学生相談専門部会 | 27 |
| 4.4.2.2 進路支援専門部会 | 27 |
| 4.4.3 研究推進委員会 | 28 |
| 4.4.3.1 共同研究審査部会 | 29 |
| 4.4.4 情報システム委員会 | 30 |
| 4.4.5 広報委員会 | 30 |
| 4.4.6 入学試験委員会 | 32 |
| 4.4.6.1 入試実施部会 | 33 |
| 4.4.6.2 入試評価部会 | 33 |
| 4.4.7 自己点検・評価委員会 | 33 |
| 4.4.8 FD委員会 | 35 |

| | | |
|---------|---------------------------|----|
| 4.4.9 | ハラスメント委員会 | 35 |
| 4.4.10 | 情報セキュリティ委員会 | 36 |
| 4.4.11 | コンプライアンス委員会 | 36 |
| 4.4.12 | 遺伝子組換え実験等安全委員会 | 37 |
| 4.4.13 | 倫理委員会 | 37 |
| 4.4.14 | 衛生委員会 | 38 |
| 4.5 | 平成27年度 卒業研究論文題目一覧 | 39 |
| 5. | 大学院・看護学研究科 | 44 |
| 5.1 | 理念・目標 | 44 |
| 5.1.1 | 博士前期課程（修士） | 44 |
| 5.1.1.1 | 教育理念 | 44 |
| 5.1.1.2 | 教育目標 | 44 |
| 5.1.1.3 | アドミッション・ポリシー（求める人材） | 44 |
| 5.1.1.4 | カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針） | 45 |
| 5.1.1.5 | ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針） | 45 |
| 5.1.2 | 博士後期課程（博士） | 45 |
| 5.1.2.1 | 教育理念 | 45 |
| 5.1.2.2 | 教育目標 | 46 |
| 5.1.2.3 | アドミッション・ポリシー（求める人材） | 46 |
| 5.1.2.4 | カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針） | 46 |
| 5.1.2.5 | ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針） | 46 |
| 5.2 | 大学院生の入学・在学・修了の状況 | 47 |
| 5.3 | 大学院教務学生委員会 | 49 |
| 5.4 | 平成27年度 修士論文題目一覧 | 50 |
| 5.5 | 平成27年度 博士論文題目一覧 | 50 |
| 6. | 教員の業績 | 51 |
| 6.1 | 書籍 | 51 |
| 6.2 | 学術論文 | 51 |
| 6.3 | その他の原稿 | 55 |
| 6.4 | 学会発表 | 56 |
| 6.5 | 社会活動・地域貢献 | 65 |
| 6.6 | その他（受賞等） | 78 |
| 6.7 | 研究助成金 | 78 |
| 6.7.1 | 科学研究費助成事業（日本学術振興会） | 78 |
| 6.7.1.1 | 科学研究費補助金 | 78 |
| 6.7.1.2 | 学術研究助成基金助成金 | 79 |
| 6.7.2 | 学内研究助成費 | 81 |
| 6.7.3 | その他助成金等 | 82 |
| 7. | 国際交流 | 83 |

| | | |
|----------|--------------------------|-----|
| 7.1 | 国際交流委員会 | 83 |
| 7.2 | 夏期アメリカ看護研修（学部科目「国際看護演習」） | 84 |
| 7.3 | 韓国 全北大学校看護大学との交流 | 87 |
| 7.4 | 中国 南京中医薬大学との交流 | 88 |
| 7.5 | 中国 吉林大学看護学院との交流 | 88 |
| 8. | 大学施設の開放 | 89 |
| 9. | 附属図書館 | 90 |
| 9.1 | 図書館運営委員会 | 90 |
| 9.1.1 | 石川看護雑誌編集専門部会 | 90 |
| 9.2 | 今年度の主な活動概況 | 91 |
| 9.3 | 資料整備状況 | 91 |
| 9.4 | 利用統計 | 92 |
| 9.5 | 利用者サービス | 94 |
| 9.6 | 職員研修 | 95 |
| 10. | 附属地域ケア総合センター | 97 |
| 10.1 | 地域ケア総合センター運営委員会 | 97 |
| 10.1.1 | 人材育成事業 | 97 |
| 10.1.1.1 | 主催事業 | 97 |
| 10.1.1.2 | 本学教員主催の研究会・事例検討会 | 97 |
| 10.1.1.3 | 講師派遣事業 | 97 |
| 10.1.2 | 地域連携・貢献事業 | 97 |
| 10.1.2.1 | 地域連携事業 | 97 |
| 10.1.2.2 | 生涯学習講座 | 98 |
| 10.1.3 | 国際貢献事業 | 98 |
| 10.1.4 | かほく市との包括的連携 | 98 |
| 11. | 附属看護キャリア支援センター | 99 |
| 11.1 | 看護キャリア支援センター運営委員会 | 99 |
| 11.2 | 感染管理認定看護師教育課程 | 99 |
| 11.2.1 | 受講生の応募・受講・修了状況 | 99 |
| 11.2.2 | 入学試験・入試説明会の実施 | 99 |
| 11.2.3 | 感染管理部会（入試委員会） | 99 |
| 11.2.4 | 感染管理教務委員会（教員会） | 99 |
| 11.3 | 石川県委託事業の開催 | 100 |
| 11.3.1 | 感染管理研修 | 100 |
| 11.3.2 | 実習指導者講習会（特定分野） | 100 |
| 11.3.3 | 管理者経営研修 | 100 |
| 11.4 | 石川県高度・専門医療人材育成事業の後援 | 100 |
| 12. | 大学として取り組んでいる連携事業 | 101 |
| 12.1 | 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン | 101 |

| | | |
|----------|-------------------------------------|-----|
| 12.1.1 | がんプロ企画委員会 | 101 |
| 12.1.1.1 | がんプロ運営委員会 | 103 |
| 12.2 | 大学間連携共同教育推進事業ーヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクトー | 104 |
| 12.3 | 大学コンソーシアム石川関連事業 | 106 |
| 12.3.1 | いしかわシティカレッジ「地域と災害（基礎および実践）」 | 106 |
| 12.4 | 能登キャンパス構想事業 | 107 |
| 12.5 | 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業（COC+） | 108 |
| | 編集後記 | 109 |

1. 学事

1.1 平成27年度学事暦

平成27年

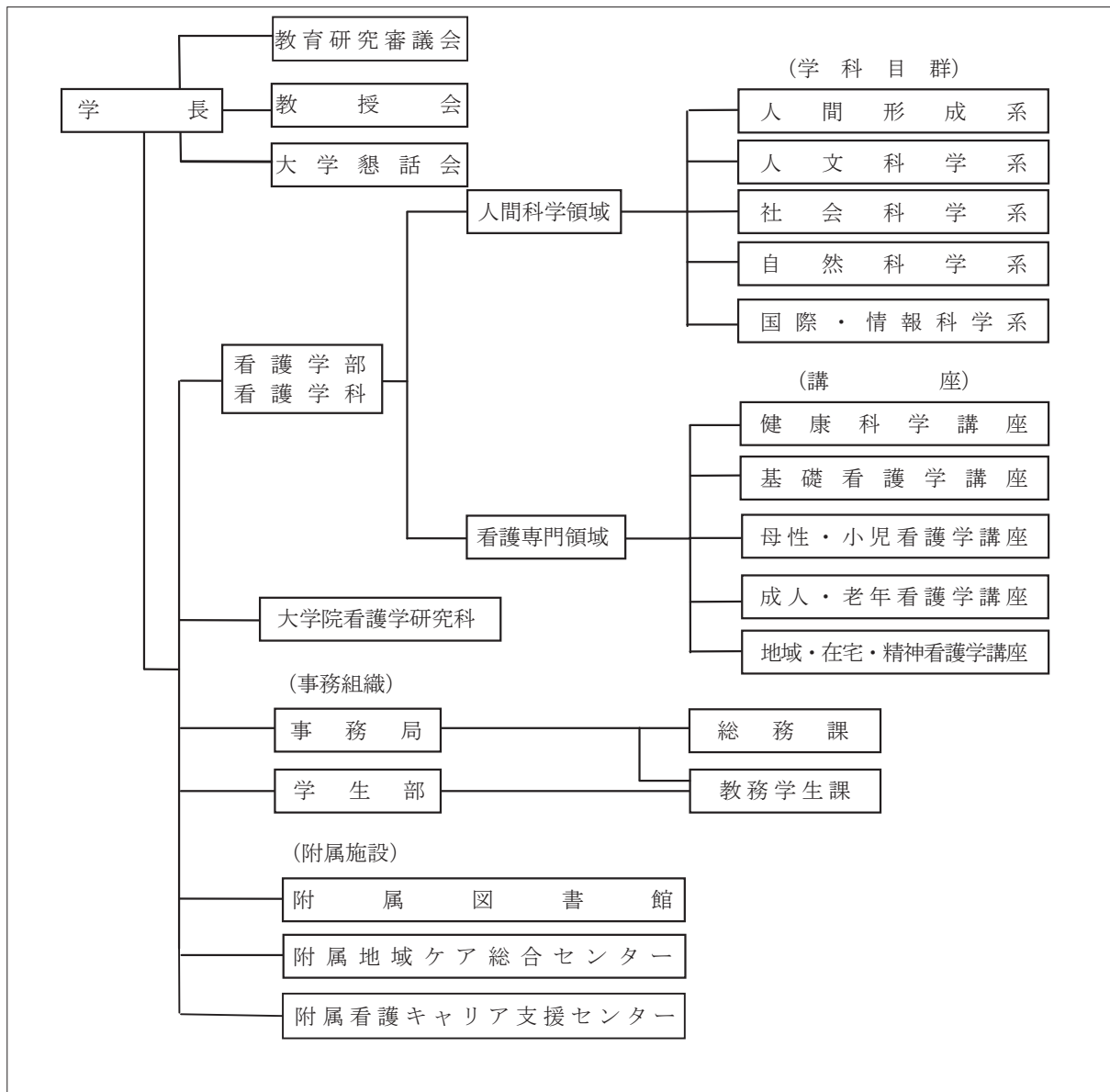
| | |
|------------------------|---------------------------------------|
| 4月 3日 (金) | 入学式 |
| 4月 6日 (月) ~ 4月 7日 (火) | ガイダンス 学生健康診断 |
| 4月 8日 (水) | 授業開始 |
| 4月 6日 (月) ~ 4月14日 (火) | 前期履修登録受付 |
| 5月29日 (金) | 開学記念日・開学記念講演会 |
| 7月18日 (土) | 夏のオープンキャンパス |
| 7月30日 (木) ~ 8月 7日 (金) | 前期補講・試験 |
| 8月 8日 (土) ~ 9月30日 (水) | 夏季休業 |
| 9月26日 (土) | 入学試験 (編入学試験) 入学試験 (大学院博士前期課程・後期課程) |
| 10月 1日 (木) | 後期授業開始 |
| 9月24日 (木) ~10月 6日 (火) | 後期履修登録受付 |
| 10月24日 (土) ~10月25日 (日) | 大学祭 24日(土) 秋のオープンキャンパス |
| 11月21日 (土) | 入学試験 (推薦入試・社会人入試) |
| 12月23日 (水) ~ 1月 4日 (月) | 冬季休業 |

平成28年

| | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1月16日 (土) ~ 1月17日 (日) | 大学入試センター試験 |
| 1月30日 (土) | 入学試験 (大学院博士前期課程 (第2次募集)) |
| 2月10日 (水) ~ 2月19日 (金) | 後期補講・試験 |
| 2月25日 (木) | 入学試験 (一般入試前期日程) |
| 3月12日 (土) | 入学試験 (一般入試後期日程) |
| 3月19日 (土) | 卒業式・学位授与式 |
| 2月20日 (土) ~ 3月31日 (木) | 春季休業 |

1.2 大学組織図

1.2.1 大学組織図



1.2.2 委員会構成

| 委員会・部会名 | 委員長 | 教員構成 | 掲載ページ |
|--------------------|-----------------|---|-------|
| 教務委員会* | 学長の指名 | 小講座から各1名（講師以上） +看護教授1名（平成26.27年度のみ） | 23 |
| 学生委員会* | 学生部長 | 大講座から各1名以上 （講師以上） +学年担任 | 25 |
| 学生相談専門部会 | 学生部長の指名 | 4名（助教以上） | 27 |
| 進路支援専門部会 | 学生部長の指名 | 看護の大講座から1名以上 （講師以上） | 27 |
| 図書館運営委員会 | 附属図書館長 | 大講座から各1名（講師以上） | 90 |
| 石川看護雑誌編集専門部会* | 図書館長の指名 | 大講座から各1名（准教授以上） +図書館長 | 90 |
| 研究推進委員会* | 附属図書館長 | 大講座から各1名（講師以上） +基礎・小児から2名（助手以上） | 28 |
| 共同研究審査部会 | 附属図書館長 | 6名（准教授以上） | 29 |
| 情報システム委員会 | 附属図書館長 | 大講座から各1名（助手以上） | 30 |
| 地域ケア総合センター運営委員会* | 附属地域ケア総合センター長 | 非看護系：小講座から1名、 看護系：大講座から1～2名 （講師以上） | 97 |
| 看護キャリア支援センター運営委員会* | 附属看護キャリア支援センター長 | センターの教員3名 その他学長が指名する者5名 | 99 |
| 感染管理教務委員会（教員会） | 附属看護キャリア支援センター長 | センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、 公益社団法人石川県看護協会の役員1名、 その他学長が指名する者2名、 医療機関の看護管理者1名 | 99 |
| 感染管理部会（入試委員会） | 附属看護キャリア支援センター長 | センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、 教育経験を有する感染管理認定看護師3名、 その他学長が指名する者1名 | 99 |

*委員会運営を助ける助手・助教1～2名が学長指名で追加される。

| 委員会・部会名 | 委員長 | 教員構成 | 掲載ページ |
|----------------|--------------------|--------------------------|-------|
| 国際交流委員会 | 学長の指名 | 大講座から各1名 (講師以上) | 83 |
| 広報委員会* | 学長の指名 | 役職者+HP への文章掲載の 役割を担う者 | 30 |
| 入学試験委員会 | 学長 | 大講座から各1名 (教授以上) | 32 |
| 入試実施部会 | 入試委員長の指名 | 小講座から各1名 (助手以上) | 33 |
| 入試評価部会 | 入試委員長の指名 | 大講座から各1名 (講師以上) | 33 |
| 問題編集部会 (非公表) | 学長の指名 | 必要数 | — |
| 自己点検・評価委員会* | 学長 | 役職者、学長指名3名 | 33 |
| FD委員会* | 学長の指名 | 大講座から各1名 (講師以上) | 35 |
| ハラスメント委員会 | 学長 | 学長5名 | 35 |
| 情報セキュリティ委員会 | 学長の指名 | 学長指名 | 36 |
| コンプライアンス委員会 | 研究科長 | 5名(教授以上) | 36 |
| 遺伝子組換え実験等安全委員会 | 学長の指名 | 5名程度 | 37 |
| 大学院教務学生委員会 | 研究科長 | 学長指名5名 | 49 |
| 倫理委員会 | 研究科長 | 学長指名6名程度+学外9 名 | 37 |
| がんプロ企画委員会 | 学長の指名 | 学長指名6名程度+研究科 長 | 101 |
| がんプロ運営委員会 | がんプロ企画委員 長の指名 | 必要数 | 103 |
| 大学コンソーシアム連絡会議 | 学長 | 必要とされる委員長 | — |
| 衛生委員会 | 衛生管理者の資格 を有する教員 | 学長指名+過半数代表者推 薦 | 38 |

*委員会運営を助ける助手・助教1～2名が学長指名で追加される。

1.3 オープンキャンパス

1.3.1 夏のオープンキャンパス

1. 日 時：平成27年7月18日(土) 10時00分～14時00分
2. 参加者：400名
3. 概 要：
 - 1) 大学説明会
 - ・オリエンテーション
 - ・本学の概要説明
 - ・入試説明
 - 2) 模擬授業 織田准教授「人々のやる気や行動に働きかける技術～健康教育」
 - 3) 保護者セミナー
 - ・カリキュラム、国家試験、進学・就職について
 - ・学費・奨学金、アパート情報について
 - 4) 学生によるキャンパスライフの紹介
 - ・看護学実習、アメリカ看護研修について
 - ・サークル・課外活動について
 - 5) 在学生・教職員による相談・交流コーナー
 - 6) 施設見学・看護学実習体験

1.3.2 秋のオープンキャンパス

1. 日 時：平成27年10月24日(土) 9時30分～12時00分
2. 参加者：152名
3. 概 要：
 - 1) 大学案内
 - ・学長からのメッセージ
 - 2) 学生によるキャンパスライフの紹介
 - 3) 入試準備セミナー 西村教授、村井教授、丸岡教授
 - 4) 在学生・教職員による相談・交流コーナー

1.4 懇話会

石川県立看護大学懇話会

1. 開催日時 平成28年2月26日（金）16時00分～
2. 開催場所 石川県立看護大学管理棟2階小会議室
3. 学外出席者
(6名)

| | |
|-------------------|---------|
| 石川県医師会長 | 近 藤 邦 夫 |
| 石川県立中央病院長 | 山 田 哲 司 |
| 金沢医科大学副院長兼看護部長 | 才 田 悦 子 |
| 金沢大学医薬保健研究域保健学系教授 | 稲 垣 美智子 |
| 会議通訳、翻訳者 | 早 川 芳 子 |
| かほく市長 | 油 野 和一郎 |

- 学内出席者 学長、学生部長、地域ケア総合センター長、
看護キャリア支援センター長、事務局長、総務課長、
教務学生課長

4. 主な内容 (1)看護大学の現況について
(2)学生の進路状況について
(3)学部教育・大学院教育・生涯教育について
(4)地域貢献及び国際貢献について
(5)意見交換

2 教員・職員紹介

2.1 教員紹介

| 領域 | 学科目群又は講座 | 科目群 | 職位 | 氏名 |
|--------|------------|--------|--------|--------|
| 人間科学領域 | 人間形成系群 | 健康体力科学 | 准教授 | 垣花 渉 |
| | 人文科学系群 | 哲学 | 教授 | 浅見 洋 |
| | | 心理学 | 教授 | 武山 雅志 |
| | 自然科学系群 | 人間工学 | 教授 | 小林 宏光 |
| | 国際・情報科学系群 | 情報科学 | 教授 | 松原 勇 |
| | | 英語 | 准教授 | 加藤 穰 |
| 看護専門領域 | 健康科学講座 | 機能・病態学 | 教授 | 長谷川 昇 |
| | | | 教授 | 今井 美和 |
| | | | 講師 | 市丸 徹 |
| | | 保健・治療学 | 教授 | 多久和 典子 |
| | | | 教授 | 大木 秀一 |
| | 基礎看護学講座 | 基礎看護学 | 教授 | 川島 和代 |
| | | | 教授 | 丸岡 直子 |
| | | | 准教授 | 中田 弘子 |
| | | | 講師 | 木森 佳子 |
| | | | 講師 | 林 静子 |
| | | | 助教 | 田村 幸恵 |
| | | | 助手 | 中嶋 知世 |
| | | | 助手 | 三輪 早苗 |
| | 母性・小児看護学講座 | 母性看護学 | 教授 | 吉田 和枝 |
| 准教授 | | | 山岸 映子 | |
| 講師 | | | 米田 昌代 | |
| 助教 | | | 曾山 小織 | |
| 小児看護学 | | 教授 | 西村 真実子 | |
| | | 講師 | 金谷 雅代 | |
| | | 助手 | 千原 裕香 | |
| | | 助手 | 坂本 洋子 | |

| 研 究 課 題 |
|--|
| 参加型健康教育が心身の健康に及ぼす影響、初年次教育の実践的研究、ヒト歩行の体力科学的研究 |
| 日本哲学の研究、医療倫理に関する研究、死生学に関する研究 |
| 新日本版 MMPI における基礎研究、看護学生のコミュニケーションに関する研究、被災地学生ボランティア活動に関する研究 |
| 心拍変動 (Heart rate variability) および唾液バイオマーカーの分布特性その応用研究 |
| 在宅ケア（特に脳卒中既往者）の疫学統計、THP（トータル・ヘルス・プロモーション）の疫学統計、情報処理教育方法の改善研究 |
| 医学・看護英語に関する研究、英語圏の医療制度に関する研究、医療倫理に関する研究 |
| 機能性食品による更年期症状緩和効果、ロコモティブシンドローム予防のための根拠に基づいた実践、ICTを用いた健康ケアシステムの構築と実践、新しい予防指標物質の探索 |
| 若年女性の子宮頸がん予防行動に関する研究 |
| 生殖機能の調節に関する研究 |
| (1) 生理活性脂質メデイエーターの生理学・病態生理学的意義の解明 (2) 現代のメディカルプロフェッショナル育成：新しい教育メソッドの構築 (3) 疾患の病態生理に立脚した生活習慣病の予防指導、分子と細胞の機能理解の看護学への応用 |
| ライフコース行動遺伝疫学研究、多胎児家庭に関する包括的な研究、当事者参加型の地域実践研究 |
| 看護理論の実践における検証（優れた実践の理論的検証）、看護技術の開発と実践への適用に関する研究 |
| 在宅療養移行支援（退院支援）に関する研究、看護管理に関する研究、転倒リスクマネジメントに関する研究 |
| 看護技術に関する研究、補完代替医療に関する研究、看護用具のデザイン・開発に関する研究 |
| 看護技術に関する基礎研究と開発、創傷アセスメント・リスクアセスメント、予防・創傷治癒促進の技術についての研究 |
| 看護師の視覚による観察に関する研究、看護技術による生理的反応に関する研究 |
| 看護学実習における教員と指導者の連携についての研究、基礎看護教育に関する研究 |
| 外国人住民における健康課題の研究、多文化共生のための保健医療サービスの研究 |
| 基礎看護教育に関する研究 |
| 女性のライフサイクル各期の健康問題とその看護に関する研究、産痛の受容と回避に関する研究、生殖に関する生命倫理の研究 |
| 母乳哺育に関する研究、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する研究、地域における子育て支援に関する研究、国際保健に関する研究 |
| 流産・死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族へのグリーフケアに関する研究、周産期のケアに関する研究、子育て支援に関する研究 |
| 周産期の看護に関する研究、子育て支援に関する研究、生殖補助医療の看護に関する研究 |
| 子どもの虐待予防に関する研究、育児不安・育児困難・虐待に悩む母親への支援に関する研究 子育て支援に関する研究 |
| 育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究 子どもへのレスエデュケーション・グリーフケアに関する研究 |
| 子育て支援に関する研究、次世代育成教育に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究 |
| 子育て支援に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究 |

| 領域 | 学科目群又は講座 | 科目群 | 職位 | 氏名 | |
|----------------|------------|---------------|--------|--------|--------|
| 看護専門領域 | 成人・老年看護学講座 | 成人看護学 | 教授 | 牧野 智恵 | |
| | | | 教授 | 村井 嘉子 | |
| | | | 准教授 | 北山 幸枝 | |
| | | | 准教授 | 岩城 直子 | |
| | | | 助教 | 寺井 梨恵子 | |
| | | | 助教 | 川端 京子 | |
| | | | 助教 | 松本 智里 | |
| | | | 助手 | 大西 陽子 | |
| | | 老年看護学 | 教授 | 高山 成子 | |
| | | | 講師 | 中道 淳子 | |
| | | | 助教 | 森田 聖子 | |
| | | | 助教 | 山田 ルミ | |
| | | 地域・在宅・精神看護学講座 | 地域看護学 | 教授 | 石垣 和子 |
| | | | | 准教授 | 阿部 智恵子 |
| | 准教授 | | | 塚田 久恵 | |
| | 准教授 | | | 織田 初江 | |
| | 助教 | | | 曾根 志穂 | |
| | 助手 | | | 金子 紀子 | |
| | 在宅看護学 | | | 教授 | 林 一美 |
| | | | | 准教授 | 彦 聖美 |
| 助教 | | | | 子吉 知恵美 | |
| 助手 | | | | 井上 智可 | |
| 精神看護学 | 准教授 | | 谷本 千恵 | | |
| | 講師 | | 川村 みどり | | |
| | 助教 | | 大江 真吾 | | |
| | 助教 | | 清水 暢子 | | |
| 附属看護キャリア支援センター | | | 准教授 | 石川 倫子 | |

| 研 究 課 題 |
|--|
| がん患者の「生きる意味」への支援、治療中および終末期がん患者への支援方法に関する研究 |
| クリティカルケア看護に関する研究、クリティカルケア看護におけるキュアとケアの融合を基盤とした看護実践に関する研究 |
| 皮膚・創傷の管理および看護技術に関する研究 栄養不良状態下における創傷発生時皮膚の組織学的検討 |
| がん患者の精神心理的ケアに関する研究、在宅緩和ケアに関する研究 |
| 転倒リスクマネジメントに関する研究、看護師の臨床判断における視覚情報の取り込みに関する研究 |
| 看護継続教育に関する研究 |
| 股関節疾患患者の歩容に関する研究 |
| クリティカルケア看護に関する研究 |
| 認知症高齢者の生活行動への看護方法の研究 治療が必要な疾患を有する認知症高齢者の看護（がん、大腿骨頸部骨折等） |
| 認知症高齢者ケアに関する研究、介護予防に関する研究 |
| 高齢糖尿病患者のセルフケア行動の実態と支援に関する研究、認知症高齢者ケアに関する研究 |
| 安静を余儀なくされる認知症高齢者への看護に関する研究 糖尿病患者のフットケアに関する研究 |
| 保健師活動に関する研究、僻地における看護に関する研究、家族看護に関する研究、異文化看護に関する研究 |
| 地域と暮らしと健康に関する研究 |
| 保健事業の評価に関する研究、保健事業とヘルスリテラシーに関する研究、介護予防に関する研究 |
| (1) 地域看護・公衆衛生看護活動の評価に関する研究 (2) 行動変容、地域ケアシステム、介護予防・地域包括支援に関する研究 (3) 保健指導能力の育成・評価に関する研究 |
| 乳幼児をもつ母親の育児支援に関する研究、難病疾患の在宅療養支援に関する研究、地域における防災・減災活動に関する研究 |
| 地域特性を踏まえた子育て支援に関する研究、保健活動に関する研究 |
| 慢性疾患をもつ療養者と家族の看護に関する研究、要介護者と家族介護者の在宅ケアに関する研究 |
| 根拠に基づいた男性介護者支援の研究、在宅終末期ケアに関する研究 |
| (1) 障害児とその保護者への支援方法の構築に関する研究 (2) 重症心身障害児のレスパイト施設の看護師の介護者への援助方法に関する研究 |
| (1) 精神科訪問看護に関する研究 (2) 地域における専門職間の連携に関する研究 |
| 長期入院精神障がい者の地域移行支援に関する研究、精神科病院におけるインシデントに関する研究、精神障がい者の就労支援を目指した園芸プログラムに関する基礎的研究、認知症高齢者訪問看護の効果に関する研究 |
| 長期入院を経験した精神障害者に関する研究、精神科看護の教育に関する研究 |
| 自閉症スペクトラム障害患者・患児への支援に関する研究 |
| 認知機能障害への介入とその効果測定、精神疾患患者における地域移行支援推進のための研究 |
| 看護師のキャリア支援に関する研究、看護教育に関する研究 |

2.2 特任教員等紹介

| 職 位 | 氏 名 | 担 当 | 任 期 |
|------|-----------|----------------------|---------------------------------------|
| 特任講師 | 近 藤 祐 子 | 附属看護キャリア支援センター | 平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日 |
| 特任講師 | 竹 村 美 和 | 附属看護キャリア支援センター | 平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日 |
| 特任助教 | 浅 田 優 也 | 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン | 平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日 |
| 特任助教 | 小 林 佐 知 子 | 老年看護学 | 平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日 |
| 臨時講師 | 小 清 水 明 子 | 附属看護キャリア支援センター | 平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日 |
| 臨時助教 | 磯 光 江 | 老年看護学 | 平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日 |
| 臨時助手 | 本 部 由 梨 | 小児看護学 | 平成 27 年 7 月 27 日～ 平成 28 年 3 月 31 日 |

2.3 教員組織構成（平成28年3月現在）

2.3.1 所属領域・講座と職位構成

単位（人）

| 領域 | 講座 | 計 | 教員 | 職位構成 | | | | |
|------|----------------|--------|--------|--------|--------|------|-------|-------|
| | | | | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 |
| 人間科学 | | 6(0) | 6(0) | 4(0) | 2(0) | | | |
| 看護専門 | 健康科学 | 5(2) | 5(2) | 4(2) | | 1(0) | | |
| | 基礎看護学 | 8(8) | 6(6) | 2(2) | 1(1) | 2(2) | 1(1) | 2(2) |
| | 母性・小児看護学 | 8(8) | 6(6) | 2(2) | 1(1) | 2(2) | 1(1) | 2(2) |
| | 成人・老年看護学 | 11(11) | 10(10) | 3(3) | 2(2) | 1(1) | 4(4) | 1(1) |
| | 地域・在宅・精神看護学 | 14(13) | 12(11) | 2(2) | 5(5) | 1(1) | 4(3) | 2(2) |
| | 附属看護キャリア支援センター | 1(1) | 1(1) | | 1(1) | | | |
| | 計 | 53(43) | 46(36) | 17(11) | 12(10) | 7(6) | 10(9) | 7(7) |

() の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.2 職位別年齢構成

単位 (人)

| 職位 | 計 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 平均年齢 |
|-----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 教授 | 17 (11) | | | | 8 | 8 | 1 | 59.5歳 |
| 准教授 | 12 (10) | | 1 | 3 | 6 | 2 | | 52.8歳 |
| 講師 | 7 (6) | | | 5 | 2 | | | 45.6歳 |
| 助教 | 10 (9) | | 5 | 5 | | | | 39.8歳 |
| 教員 | 46 (36) | | 6 | 13 | 16 | 10 | 1 | 51.3歳 |
| 助手 | 7 (7) | | 4 | 3 | | | | 36.9歳 |
| 計 | 53 (43) | | 10 | 16 | 16 | 10 | 1 | 49.4歳 |

() の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.3 大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員

単位 (人)

| 課程 | 計 | 研究指導教員 | 研究指導補助教員 |
|--------|---------|---------|----------|
| 博士前期課程 | 22 (17) | 16 (16) | 6 (1) |
| 博士後期課程 | 16 (16) | 9 (9) | 7 (7) |

() の数字は内数であり教授の数を示す

2.3.4 博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位 (人)

| 職位 | 計 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 平均年齢 |
|----------|---------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 研究指導教員 | 16 (11) | | 7 | 8 | 1 | 59.6歳 |
| 研究指導補助教員 | 6 (4) | 2 | 4 | | | 52.7歳 |
| 計 | 22 (15) | 2 | 11 | 8 | 1 | 57.7歳 |

() の数字は内数であり女性の数を示す

2.3.5 博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位 (人)

| 職位 | 計 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 平均年齢 |
|----------|---------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 研究指導教員 | 9 (9) | | 4 | 4 | 1 | 61.7歳 |
| 研究指導補助教員 | 7 (2) | | 3 | 4 | | 57.0歳 |
| 計 | 16 (11) | | 7 | 8 | 1 | 59.6歳 |

() の数字は内数であり女性の数を示す

2.4 職員紹介（平成28年3月現在）

| | |
|-------|-------|
| 事務局 長 | 魚 直 樹 |
|-------|-------|

<総務課>

| | |
|-----------|---------|
| 総務課 長 | 青 山 正 三 |
| 専 門 員 | 澤 本 保 子 |
| 専 門 員 | 細 川 智 恵 |
| 主 任 主 事 | 小 林 一 生 |
| 業 務 主 任 | 七 野 良 春 |
| 主 事 | 田 淵 幸 幾 |
| 非 常 勤 嘱 託 | 青 山 恵 |
| 事 務 員 | 安 達 幸 |
| 事 務 員 | 和 泉 秋 香 |

<教務学生課>

| | |
|---------|---------|
| 教務学生課 長 | 松 田 敏 広 |
| 課 長 補 佐 | 塚 本 晃 弘 |
| 専 門 員 | 納 橋 雅 代 |
| 専 門 員 | 山 岸 吉 輝 |
| 専 門 員 | 林 信 隆 |
| 事 務 員 | 折 戸 やよい |

<附属地域ケア総合センター>

| | |
|-----------|----------|
| セ ン タ ー 長 | (兼)長谷川 昇 |
| 課 長 補 佐 | (兼)塚本 晃弘 |

<附属図書館>

| | |
|-----------|----------|
| 館 長 | (兼)大木 秀一 |
| 主 幹 | 山 本 晃 暢 |
| 非常勤嘱託(司書) | 山 田 志 歩 |
| 非常勤嘱託(司書) | 東 加奈子 |

<附属看護キャリア支援センター>

| | |
|-----------|----------|
| セ ン タ ー 長 | (兼)丸岡 直子 |
| 非 常 勤 嘱 託 | 片 山 幸 美 |

3. 中期計画

3.1 中期計画における平成27年度目標と実績

3.1.1 年次目標の概略（石川県公立大学法人 平成27年度計画 概要版より）

■平成27年度は、引き続き「学生満足度の高い教育の提供」「地域貢献活動の充実」「学生確保に向けた広報活動の充実」「弾力的・機動的な法人運営」の4つを柱に掲げ、業務に取り組む。
■平成27年度は、第1期中期計画（6年間）の第5年度目であり、着実に中期計画を達成できるよう、この計画を実行していくとともに、地元企業等と連携した産業振興や学生の地元定着など「地方創生」に向けた取り組みについても、対策を講じていく。

看護大学

「地方創生」「地域貢献」に向けた取り組み（No.64-1.64-2.64-3）

かほく市をはじめとした県内市町との連携のもと、教職員、学生が一体となって、地域のニーズにこたえる教育研究・地域活動を行い、学生の社会人基礎力を育成するとともに地域医療の質の向上を図る。また、こうした活動を通じて、学生の地域への理解を深め、関わりを強化し、地元定着を図る。

自己点検評価システムの確立（No.39-1.50-1）

認証評価機関による7年ごとの評価だけではなく、社会貢献活動や教育研究活動を含めた大学全体の活動を2年ごとに自己点検できるような評価項目の選定やデータの蓄積方法等を検討し、評価体制の確立を目指す。

教員の研究能力の向上（No.37-1.50-1）

教員による研究の質を向上させ、保健医療福祉の発展に貢献できるよう、研究業績の点検評価を行って課題を把握するとともに、FD※研修など教員の研究能力を高めるための方策を実施する。

※ 大学の授業改革のための組織的な取り組み（FD=Faculty Development）

学習支援の充実（No.1-2.6-1.7-1.184-1）

・初学年学習支援

学生が大学教育へ早期に適応できるよう、アカデミックリテラシー※の取り組みを充実するとともに、生活相談、修学支援情報の周知等の充実や図書館による学習支援の方策を検討する。

※ 「調べる」「書く」「意見を述べる」など大学での学習方法や基礎的能力を身につけること

・異学年交流の促進

授業、地域貢献活動、サークル活動、自治会活動など様々な場面において、異なる学年間の交流機会を設けることにより、先輩の勉強方法や大学生活の知恵を学び、自学自習意欲を高めるとともに、社会人基礎力、自主的な問題解決能力の育成を図る。

大学院の教育の充実（No.19-1.34-2）

現状の研究指導や教育支援体制の改善、ディプロマ・ポリシーに沿った教育の展開に努める。さらに、今日の看護界における大学院修了者に期待される能力や役割の動向を把握し、本学の大学院の構成、分野についての将来像を検討する。

3.1.2 平成27年度実績の概略

(石川県公立大学法人 平成27年度実績 概要版より)

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 学部課程の充実 (No. 1-2, 2-1, 23-1, 28-1, 44-1, 69-1)

(1) 地域交流の推進

地域で生活する人との関わりを通じて、地域の暮らしや文化等の理解を深めるとともに社会人基礎力を育成するため、能登町と連携し、民泊を取り入れたフィールド実習を実施した。また、かほく市と連携した健康増進活動や被災地での災害ボランティア活動を通して、地域住民との交流・支援を行った。

(2) 学生支援の充実

学生が大学教育へ早期に適応できるよう、初学年学習支援の一環としてアカデミックリテラシーの取り組みを強化するとともに、学年担任を中心に全学生と個別面談・指導を行い、学習目標を達成できるよう支援を行った。

(3) 国際交流の推進

学生が国際看護研修(アメリカ・韓国)に参加するとともに、南京中医薬大学(中国江蘇省)および吉林大学看護学院(中国吉林省)と教育や学術面での交流及び協力を推進するための覚書(MOU)を新たに締結した。

2 大学院課程及び生涯学習支援の充実 (No. 34-2, 63-1, 68-1)

(1) 臨床現場との連携強化

専門看護師等の実践能力向上に向け、医療機関等の職員が集まる実習指導者会議や北陸三県看護部長懇談会等を通して情報交換を行い、臨床現場におけるニーズを把握するとともに実習の充実を図った。

(2) 人材育成及び地域貢献事業の推進

「看護キャリア支援センター事業」の一環として、『感染管理認定看護師教育課程』等において現場のリーダーとなる看護職者を育成するとともに、「地域ケア総合センター事業」では、看護実践力向上セミナーとして、看護師や助産師に対する各種事例検討会を開催した。

(3) 国際貢献事業の推進

JICAと連携し、海外研修員の受け入れを実施するとともに(パラグアイ2名、キルギス等、中央アジア・コーカサス地域12名)、フォローアップ研修としてパラグアイを訪問し、これまでの研修成果を確認した。

3 教育実施体制の改善 (No. 36-1~39-1)

(1) 教育活動の評価・改善

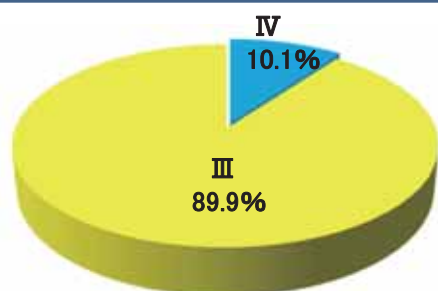
教員評価方法の改善や学生による授業評価の実施、FD研修への参加等を通して、教員のさらなる教育力向上を図った。

(2) 自己点検評価システムの検討

認証評価機関による7年ごとの評価だけではなく、社会貢献活動や教育研究活動を含めた大学全体の活動を2年ごとに自己点検できるよう、評価項目の選定やデータの蓄積方法等を検討した。

項目別評価の状況

I : 年度計画を実施していない。 II : 年度計画を十分には実施していない。
III : 年度計画を順調に実施している。 IV : 年度計画を上回って実施している。



| 項目 | IV | III | II | I | 計 |
|-------|----|-----|----|---|----|
| 教育 | 6 | 57 | 0 | 0 | 63 |
| 研究 | 0 | 11 | 0 | 0 | 11 |
| 地域貢献等 | 3 | 12 | 0 | 0 | 15 |
| 計 | 9 | 80 | 0 | 0 | 89 |

4. 看護学部看護学科

4.1 理念・目標

4.1.1 教育理念

人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する。

4.1.2 教育目標

1. 豊かな人間性と倫理観を備えた人材の育成

人間の生命、生活を尊重し、人の痛みや苦しみを共に分かち合える温かい心、豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育成する。

2. 看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材の育成

看護専門職として必要な知識、技術を修得し、人々の健康と生活に関わる諸問題に対して、科学的な根拠に基づく判断力と問題解決能力及び看護学研究に関する思考力と創造性を涵養し、看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材を育成する。

3. 調整・管理能力を有する人材の育成

保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協力して行われる看護実践を通して、調整・管理能力を有する人材を育成する。

4. 国際社会でも活躍できる人材の育成

国際的な視野から、健康問題や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる人材を育成する。

5. 将来の看護リーダーの役割を担う人材の育成

社会状況の変化を踏まえ、看護が担うべき役割を展望し発展させるため、自らの研鑽を重ねながら、その資質向上に努め、看護学の発展に寄与し、将来の看護リーダーとなることができる人材を育成する。

4.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験として、一般入試（「前期日程」「後期日程」）、推薦入試、社会人入試に加え、3年次への編入学試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 大学で学ぶ上で必要とされる基礎的学力を身につけている人
2. 主体的にものごとを考え、行動できる人
3. 自らの意見を表現でき、他者と積極的なコミュニケーションができる人
4. 看護分野の発展に貢献することを志す人

4.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

教育理念・教育目標を受け、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成している。

1. 看護職として必要な豊かな人間性と倫理観を育成するために、人間科学領域の科目と看護専門領域の科目を統合して学べるように、両者の科目を並行して配置する。
2. 看護職として必要な知識・技術およびそれらの科学的根拠を学ぶことができるように、看護専門領域の科目を健康・疾病・障害の理解、看護の基本、看護援助の方法、看護の実践、看護の発展の順に配置する。
3. 多様な場での多様な対象の健康レベルにあわせた看護実践能力を身に付けるために、人間の成長・発達段階別、健康の維持増進期から終末期にいたる健康段階別、施設内・地域・在宅という看護の提供場所別の看護を段階的に学べるように設定する。
4. 個人・家族・組織・地域の健康課題を解決する能力を育むために、大学の位置する石川県、能登地域を題材にして、文化や自然・暮らしを学ぶ科目、地域の保健・医療・福祉を学ぶ科目、地域の課題を解決しながら学ぶ科目を配置する。さらに、他の地域への応用力を養う看護専門領域の実習科目を配置する。
5. 複雑な状況に対応する能力と、多職種と連携・協働しながら看護の専門性を発揮できる能力を育むために、統合科目を設定する。
6. 将来の多様なキャリア発展の可能性を涵養するために、国際看護、看護マネジメント、政策形成に関連する科目を配置する。
7. 生涯学習能力を養うために、自学自習や討論する機会を積極的に取り入れる。

4.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

卒業までに所定の単位を修得し、看護の基盤を備え、個人・コミュニティ・社会の健康課題の発見と解決に貢献するために、様々な知識や技術を応用し援助する能力と、社会の要請に応じて新たな知識や技術を探求し創造していく意欲や能力を有する者に、学士（看護学）の学位を授与する。

このような能力を修得するためには、以下の学習成果をあげることが求められる。

1. 看護の対象となる人の人権を尊重する姿勢や共感的態度を通して援助関係を形成できる。
2. 人の命や暮らしを理解し、健康課題を科学的根拠に基づいて総合的にアセスメントし、課題解決に向けて適切な看護が実践できる。
3. 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。
4. 看護専門職としての価値観・専門性を生涯にわたり発展させる素地を身につける。

4.2 学部学生の入学・在学・卒業の状況

(1) 入学の状況

①入学定員・収容定員

| 単位 (人) | | |
|--------|----------|------|
| 入学定員 | 3年次編入学定員 | 収容定員 |
| 80 | 10 | 340 |

②試験実施日

| 実施日 | |
|------------|-----------------|
| 3年次編入学試験 | 平成27年 9月26日 (土) |
| 推薦入試・社会人入試 | 平成27年11月21日 (土) |
| 一般入試前期日程試験 | 平成28年 2月25日 (木) |
| 一般入試後期日程試験 | 平成28年 3月12日 (土) |

③受験状況等

| | 単位 (人、倍) | | | | | | | |
|--------|----------|------|------|------|------|------|------|---------|
| | 募集定員 | 志願者数 | 志願倍率 | 受験者数 | 受験倍率 | 合格者数 | 実質倍率 | 入学者数 |
| | A | B | B/A | C | C/A | D | C/D | |
| 3年次編入学 | 10 | 14 | 1.4 | 7 | 0.7 | 5 | 1.4 | 5 (5) |
| 推薦入試 | 30 | 57 | 1.9 | 57 | 1.9 | 30 | 1.9 | 30 (29) |
| 社会人入試 | 若干名 | 3 | — | 3 | — | 1 | 3.0 | 1 (1) |
| 一般入試前期 | 40 | 127 | 3.2 | 116 | 2.9 | 45 | 2.6 | 44 (40) |
| 一般入試後期 | 10 | 163 | 16.3 | 60 | 6.0 | 10 | 6.0 | 8 (8) |

() の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 在学の状況 (平成28年3月1日現在)

| | | 単位 (人) | | | | |
|------|----|--------|-----|--------|--------|----------|
| 学 年 | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 計 |
| 在学者数 | 男性 | 3 | 6 | 3 (0) | 5 (1) | 17 (1) |
| | 女性 | 81 | 76 | 87 (6) | 94 (8) | 338 (14) |
| | 計 | 84 | 82 | 90 (6) | 99 (9) | 355 (15) |

() の数字は内数であり編入学者の数を示す

(3) 卒業の状況

①卒業者数 第13期生

単位 (人)

| 区 分 | 計 | 入学年度別卒業者数 | | |
|------|---------|-------------------|-----------------|----------------|
| | | 平成23年度以前 入 学 者 | 平成24年度 入 学 者 | 平成26年度 編入学者 |
| 卒業者数 | 88 (84) | 3(3) | 77(73) | 8(8) |

() の数字は内数であり女性の数を示す

②卒業後の進路状況 第13期生 (平成28年3月31日現在)

単位 (人)

| 区 分 | 県 内 | | 県 外 | | 合 計 | | |
|-----|----------------------|----|-------|----|-------|---------|--------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | |
| 就 職 | 看護師 | 55 | 62.5% | 17 | 19.3% | 72 (68) | 81.8% |
| | 国公立病院(独立 行政法人を含む) | 45 | 51.1% | 11 | 12.5% | 56 (53) | 63.6% |
| | 上記以外の病院 | 10 | 11.4% | 6 | 6.8% | 16 (15) | 18.2% |
| | 保健師 | 4 | 4.5% | 1 | 1.1% | 5 (5) | 5.7% |
| | その他 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 (0) | 0.0% |
| | 計 | 59 | 67.0% | 18 | 20.5% | 77 (73) | 87.5% |
| 進 学 | 大学院博士前期課程 | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 0 (0) | 0.0% |
| | 養護教諭特別別科 | 4 | 4.5% | 2 | 2.3% | 6 (6) | 6.8% |
| | その他 | 1 | 1.1% | 2 | 2.3% | 3 (3) | 3.4% |
| | 計 | 5 | 5.7% | 4 | 4.5% | 9 (9) | 10.2% |
| 未 定 | | 1 | 1.1% | 1 | 1.1% | 2 (2) | 2.3% |
| 合 計 | | 65 | 73.9% | 23 | 26.1% | 88 (84) | 100.0% |

() の数字は内数であり女性の数を示す；割合は、総数88人を100%としたもの

③主な就職先 第13期生 (平成28年3月31日現在)

| 県内 | 県外 |
|-----------------|-------------------|
| 石川県立中央病院 | 富山県立中央病院 |
| 金沢大学附属病院 | 富山大学附属病院 |
| JCHO 金沢病院 | 富山県赤十字病院 |
| 金沢医科大学病院 | 福井県立病院 |
| 国立病院機構 金沢医療センター | 名古屋第一赤十字病院 |
| 金沢赤十字病院 | J A岐阜厚生連 久美愛厚生病院 |
| 公立松任石川中央病院 | 市立恵那病院 |
| 小松市民病院 | 岐阜県総合医療センター |
| 市立輪島病院 | 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 |
| 金沢市立病院 | 東京慈恵会医科大学附属病院 |
| 国立病院機構 医王病院 | 国立国際医療研究センター |
| 公立能登総合病院 | がん研有明病院 |
| 公立穴水総合病院 | 千葉大学医学部附属病院 |
| 公立宇出津総合病院 | 国立循環器病研究センター |
| みずほ病院 | 福井県勝山市保健師 など |
| 石川県保健師 | |
| 七尾市保健師 | |
| 穴水町保健師 など | |

4.3 教育・履修体制

本学の教育は、人間科学領域の5学科目群と看護専門領域の5講座に属する教員が担当します。

| 領域 | 学科目群又は講座 | 科目群 | 教育内容 |
|---------------|------------|---|---|
| 人間科学領域 | 人間形成系群 | 健康体力科学 | 自己の健康・体力づくりを生涯にわたり実践していくための理論と方法を修得させるとともに、看護の対象者の健康獲得を目指すための知識と技術について教授する。 |
| | 人文科学系群 | 哲学 | 哲学・心理学的な思考を通して、人間の本質と存在の意義について理解を深めるとともに、看護職者として悩める人を理解し援助するための知識と方法、態度について教授する。 |
| | | 心理学 | |
| | 社会科学系群 | | 人々の生活を支える社会のしくみと人間と社会環境との関わりについて理解を深めさせるとともに、社会科学的視点から保健・医療・福祉・看護が抱える諸問題について教授する。 |
| | 自然科学系群 | 人間工学 | 人々の生活と環境との関わりや人間と環境との共生について理解を深めさせるとともに、人間の日常生活行動や看護現場での諸問題について人間工学的側面から教授する。 |
| 国際・情報科学系群 | 英語 | | 国際的な視野から健康や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる思考力と語学力を教授する。また、高度情報社会に対応できる基礎力と看護情報の統計処理能力を教授する。 |
| | 情報科学 | | |
| 看護専門領域 | 健康科学講座 | 機能・病態学 | 人間の生命現象や身体の構造・機能と心身の健康の保持・増進、疾病・障害の発症と回復のしくみに関する理論と知識、技術を科学的根拠に基づいて系統的に教授する。 |
| | | 保健・治療学 | |
| | 基礎看護学講座 | 基礎看護学 | 「看護とはなにか」という看護の概念・本質と看護の基本となる理論と知識・技術、及び看護職者として必要な態度について教授する。 |
| | 母性・小児看護学講座 | 母性看護学 | ライフサイクルのうち、妊娠・分娩・出産から思春期にわたる母子とその家族に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。 |
| | | 小児看護学 | |
| | 成人・老年看護学講座 | 成人看護学 | ライフサイクルのうち、成人期から老年期にわたる対象に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。 |
| 老年看護学 | | | |
| 地域・在宅・精神看護学講座 | 地域看護学 | 地域で生活する個人・家族・特定集団・地域住民全体を対象とした地域看護の特徴を踏まえ、活動の場(学校、職場、在宅、地域全体)とその対象の特性に応じた看護援助、及びライフサイクル各期のメンタルヘルスの課題や精神的な健康問題をもつ対象への看護援助に必要な知識や理論と実践の方法を教授する。 | |
| | 在宅看護学 | | |
| | 精神看護学 | | |

4.4 委員会活動

4.4.1 教務委員会

委員長：村井嘉子 教授

委員：川島教授、西村教授、林教授、多久和教授、織田准教授、山岸准教授、北山准教授、
垣花准教授、中道講師、川村講師、木森講師、松田教務学生課長

委員補助：曾山助教、子吉助教、寺井助教

事務局：山岸専門員

活動内容：

1. 広い視野と人間性を育成するとともに、専門教育の基礎となるような教養教育を実施した。
 - 1) 新入生及び各学年に対して新年度学習ガイダンス等の機会を得て、教養科目・専門科目の関連性について説明し、看護学における学習の意義について説明し理解を深めた。
 - 2) 昨年度に引き続き能登地区において、地域とそこに住む人々の生活を理解することを目的に民泊を実施した。住民との活動、寝食を共にすることで目的を達成することができた。
2. 「フィールド実習」科目に初年次教育の試みをスタートした。

前年度までの1年次必修科目「フィールド実習」を通して学生の学習状況・課題を受けて、「フィールド実習」科目に「調べる」スキル、「書く」スキル、「自分の意見を述べる」スキルを教授する academic literacy 講義を実施した。大学生・専門教育の基礎となる能力を定着させ、学習の改善を目指すものである。今年度、学生の提出されたフィールド実習報告書において、自身の学びをまとめて記述するという点で質的改善の変化が見られた。しかし、「読む」スキルについても教授が必要と考えられたことより、次年度に向けて新たな教育方法を検討した。
3. プレゼンテーション能力向上に向けての取り組みと評価
 - 1) この取り組みは、継続的・経年的な取り組みであり、授業科目「表現学」の履修、及びフィールド実習報告会、卒業研究発表会、看護学実習におけるカンファレンス等を通して、全学年の学生がその学年において自己の学びを複数回において発表する機会を経験した。また、その都度他者の学びを傾聴することで、その能力の向上に努めた。
 - 2) 卒業研究発表会においては、これまで以上に学生が積極的に運営・参画できるように、発表会の座長の役割を経験させた。指導下においてしっかりと役割を遂行し、成功裡に終了した。
4. 授業内容を精選・スリム化することにより授業時間数を減少させ、学生の更なる自学自習を推進することを試みた。

本取り組みの初年度であり、各領域における授業科目の独自内容と他科目の関連性を考慮しながら講義を再構築し、これまでの教授内容において重複や統合の可能性について検討しながらの授業展開であった。授業進行に合わせて学生へ課題提示、事前学習の促しを試み、学生は真摯に取り組んでいたと考えられる。次年度の学生の理解の状況、学びの蓄積状況を

把握しながら経年的な取り組みを継続する必要がある。

5. 模擬患者を活用した教育方法の試み

県内模擬患者の協力により、4回の授業を実施した。学生は、状況のリアル感を得ることが出来ることに加え、看護計画が立案で終わることなく実践を行うことで、看護援助方法に自信を得ること、課題を明らかにすることができた。次年度以降も模擬患者を活用した授業・演習を継続する予定である。

6. 新規科目「ヒューマンヘルスケア」を展開し、学年進行に伴い定着させた。

- 1) 県内市町村と連携・協力し、これまでのサービ斯拉ーニングを基盤として、地域の健康課題や地域づくりの課題などをテーマに課題解決型学習に取り組んだ。
- 2) サークル活動や災害ボランティア実践活動等においてフィールドワークを継続した。その過程において異学年交流の促進を図ることを目指して、昼食時間の活用、放課後、土日の有効活用等活用した。
- 3) 科目担当教員会議を開催において授業進行における課題を明らかにし、本科目における発表会（場）の確保、異学年交流が促進するための打開策を提示し試行中である。
- 4) 本年度、新たに66名の履修学生が増加し、各班に分かれて活動を行っている。
- 5) 平成26年後期、今年度前期および後期の3期間において授業を進行した結果、27年度卒業予定者4名を含む8名を単位認定した。

7. 臨床現場や保健所等の実習指導者の意見を反映させるための実習指導者会議を開催した。

- 1) 昨年に引き続き、市町・保健所・医療機関等の実習指導者との連絡・協働による実習、また現場の看護職の非常勤教員としての活用を行った。
- 2) 初めての試みとして、臨床教授等の指導者会議において看護学実習指導の在り方、看護現場の実態に即した教育方法の工夫についてグループ単位に分かれて意見交換した。他施設における実習指導方法の工夫、他指導者の意見等を聞く機会となったこと等、おれからの指導方法の参考になったと言う概ね肯定的な意見であった。会議に参加してよかったという感想が聞ける会議運営の工夫をしていく必要がある。
- 3) 前年度の臨床教授等の称号付与に関する内規の変更、称号付与の手続き文書郵送の時期を変更したことで、スムーズな付与が実施できた。

8. 英語教育充実への取り組み

英語eラーニングは、音声教材ファイルをアップロードし試験準備に活用を促し、各期の試験前には全員が利用している。

TOEFL や TOEIC 等の英語評価の意味について継続的教授により、複数の学生より受験を試みたという報告を受けている。これまで全くそのような行動が見られなかったことを踏まえれば英語学習に対する意欲は高まっていると言える。

CALL システムは、基本的には試験時に活用している。しかし、英語力が極端に低い学生が一定数いるために頻回に活用することが難しいことが課題である。

9. 履修規程に関わる詳細事項の明文化、既修得単位認定の見直し、新しい成績評価方法導入に

ついて整備した。

- 1) 学則12条に基づき、本学が協定を締結している放送大学及びシティカレッジにおける履修において、本学の人間科学領域の選択科目1科目2単位までを卒業要件として認めることを明文化した。
- 2) 平成28年度3年次編入学生より、「フィールド実習」を既修得単位認定を行う科目とした。
- 3) 平成28年度入学生より成績評価においてGPA制度を導入することを決定した上で、その具体的な内容を決定し履修規程に明文化した。

10. 大学間連携共同教育推進事業において、平成27年度卒業生より3名に対してグローバル人材「修了証」(ヤングリーダーの称号)が授与された。

4.4.2 学生委員会

委員長：牧野智恵 教授 (学生部長)

委員：今井教授、阿部准教授、彦准教授、加藤准教授、岩城准教授、中田准教授、川村講師、木森講師、金谷講師、米田講師、市丸講師、松田教務学生課長

委員補助：松本助教、金子助手

事務局：納橋専門員

活動内容：

1. 自学自習能力と自律的な判断力・行動力の育成にむけて、生涯にわたって自学自習していく能力と看護職者としての自律的な判断力・行動力を育成した。
 - 1) 大学行事、自治会、課外活動における学生の自主的運営を推進するために、大学祭の企画・運営を学生の主体性を尊重した。昨年度の実行委員からの引き継ぎを早めるなど指導することで、主体的に実践していたように思う。
 - 2) 自治会が自主的に学生の要望調査を行い、学長等との懇談会を3月に実施し、その内容を、教員及び各学年に周知した。
 - 3) 看護の発展に資する能力の育成として、学会等での卒業研究成果の発表を促進した。本年度は学会発表11件と、論文掲載が1編であった。
 - 4) 災害ボランティアサークルの活動を紹介するサイトを大学ホームページにリンクすることにより、学生の自主活動を支援した。
2. 高校教育から大学教育への適応のため、学生が自ら能動的に学ぶことの習慣化を支援した。
 - 1) 新入生歓迎会、開学記念式典、地域連携事業やボランティア活動、さらに8月と9月に学生全体会を開催し、異学年交流を促進した。
 - 2) 地域へのボランティア活動を単位化した科目「ヒューマンヘルスケア」などカリキュラムの改革を行い、自学自習、異学年交流を促進した。
 - 3) 幅広い教養を深める機会を提供するために、入学式ガイダンス、各学年ガイダンスにおいて石川コンソーシアム活動を紹介し、活動を促した結果、大学コンソーシアム石川「大学間共同教育推進事業」の本学提供プロジェクト民泊に22名が参加し、「学都いしかわグローバル人材育成プログラム」の修了生が本学から2名出た(武田悠花は修了証A.B.C、

星川亜由美は修了証 A. B)。

3. 教育環境の充実

- 1) 実習環境の充実に向けて臨床教授 17 名、臨床准教授 50 名、臨床講師 56 名を任命し、臨床教授等と本学教員の合同会議を 2016 年 2 月 29 日に実施した。今年度は、臨床教員のみグループでそれぞれの指導上の問題や困っている点、工夫している点についてグループワークし、全体発表していただいた。活発な意見交換ができ、発達障がい者への指導についても意見交換できた。
- 2) 学生が主体となって、学生の学主幹今日に関するニーズ調査を行った。その結果を基に、学長、局長、学生部長、総務課と学生代表とで座談会を行い、教室の改善を行った。要望内容に対して、情報処理室のヘッドホン、トイレの荷物置き場、食堂の有効利用など、改善・対処の可能な点は早急にに応じていくことが学生に伝えられた。

4. 学生支援の充実

- 1) 相談体制を充実するため、各学生相談窓口の一覧を示したパンフレットを作成し、ガイダンス時に別紙で配布すると共に、学生便覧に掲載した。
- 2) 1～3 年の各学生担任は、学生と教員の相互のコミュニケーションや学習支援を強化するために、当該学年の授業担当者から選任した。4 年の学年担任は持ち上がり。また、各学年クラスアワーにおいて複数担任による相談体制を周知し、担任・副担任間で連携しながら生活面、精神面、学業面等へのサポートに努めた。また、1 学年には入学ガイダンス後、2、3、4 年には新学期当初にクラスアワーを実施し、学生への学習支援を行った。
- 3) 2 ヶ月に 1 回学生相談部会を開催し、学習支援が必要な学生を確認するとともに、必要時は個別に相談支援を行った。特に、適応障害、抑うつ傾向、進路に悩んでいる学生には、保護者を含め、担任と学生部長が面談し、学習支援を行った。
- 4) 学生の学習意欲の向上のため、開学記念日で 3 団体（音楽サークル、華サークル、いきいき交流サークル興津チーム）に学長表彰を行った。3 月の卒業式には 7 名の卒業生に学長表彰の授与を行った。
- 5) 大学生活に必要な生活環境を整えるために、保健室を通じた健康管理を実施。年度当初の健康診断、抗体価検査、予防接種の接種勧奨、それらのデータ管理を実施。また、個別保健指導に加え、定期的な保健だよりの発行や掲示板の活用にて保健指導や健康情報を配信し、健康管理・感染症管理に努めた。学校医と連携し、7 月に今年度 1 回目の健康相談会を実施した。随時学生相談を受け、学生の状況把握に努め、学生相談員や担任と連携をとりながら学生支援を行った。来年の編入生への B 型肝炎ワクチン接種前の検査の実施を検討し、実施することとなった。
- 6) 学生の経済状況に応じた支援のための授業料減免制度および各種奨学金制度について、入学式のガイダンスおよびホームページにて周知斡旋を行った。また、学生の家庭事情に応じて、随時、授業料減免、奨学金貸与を行った。
- 7) 卒業生・修了生へホームページや卒業生会（さくら会）新聞等で行い、情報提供の強化をはかった。また、卒業生会（さくら会）では同窓会の機関紙「さくら」で、本年度の卒業生、修了生への図書館利用について周知した。

5. 地域の保健、医療及び福祉の向上に貢献できる人材を輩出し、地元定着を推進した。
 - 1) 県内の保健医療福祉施設や看護系教員からの情報収集を行い、病院説明会就職説明会の情報を学生に提供するなど、県内の病院の紹介に勤めた。今年度は、県内就職60名、県外就職18名、進学9名である。
 - 2) 卒業後に看護師等として石川県内で一定期間勤務することにより返還が免除される、看護師等修学資金制度の周知を図った。
6. 本学の卒業生・修了生とのネットワークの維持強化を図り、広報活動を積極的に行った。

4.4.2.1 学生相談専門部会

部会長：牧野智恵 教授

部会員：武山教授、中田准教授、米田講師、大江助教、井上囑託

事務局：松田教務学生課長

活動内容：

1. 学習支援として相談体制の強化

近年、大学生活の中で、友人関係、学業等の悩み、さらに発達障がい気づかないまま入学し本学で演習や実習がはじまると、学習に支障を来している学生が増えてきている。さらに来年度から障がいを持った学生への合理的配慮が義務づけられることを念頭に、その対応を強化した。

- 1) 学生相談窓口のパンフレットを作成し、新年度ガイダンス時に別紙で配布した。また学年担任の存在についてもガイダンスで紹介し、学生が相談しやすい体制を整えた。
- 2) また、各学年クラスアワーにおいて複数担任による相談体制について周知し、担任・副担任間で連携しながら生活面、精神面、学業面等へのサポートに努めた。
- 3) 担任によるクラスアワーを適宜開催するとともに、拡大学生委員会、学生相談部会等で学習支援等が必要な学生を確認し、個別相談を実施した。
1学年には、4月、5月、7月、10月にクラスアワーを実施し、2、3、4年においても新学期当初にクラスアワーを実施し、学生への学習支援および体調不良学生の把握を行った。また、2ヶ月に1回学生相談部会を開催し、学習支援が必要な学生を確認し、必要時相談支援を行っている。特に、心に悩みを抱えている学生や進路にとまどいを示している学生に対しては、担任と学生部長が本人または保護者と相談し面談を行った。
- 4) 発達障がいの学生に対しては、随時、専門家の指導を仰げる体制を整えるとともに、対応を統一できるよう情報の共有をはかり、支援体制を整えた。

4.4.2.2 進路支援専門部会

部会長：林 一美 教授

部会員：川島教授、岩城准教授、織田准教授、北山准教授、中田准教授、米田講師

活動内容：

進路支援担当制のもと、7名の進路アドバイザー教員が学生支援を学生個別に行った。4年生全体への情報提供等は4年クラスアワーなどをとおして、適時期におこなった。学生が早期か

らのキャリア形成を計画できるように、3年生への進路支援ガイダンスや卒業生との進路セミナーを3年クラス担任と連携しながら実施した。医療機関や保健師募集などの求人には情報収集につとめた。その結果、看護師国家試験は100.0%(全国平均89.4%)、保健師は95.5%(全国89.8%)であった。就職率は国家試験不合格者をのぞくと100%の就職率と目標を達成した。引き続き、学生の個別性に対応したきめ細かい進路支援を継続して行う。

4.4.3 研究推進委員会

委員長：大木秀一 教授（附属図書館長）

委員：高山教授、小林教授、彦准教授、米田講師、木森講師

委員補助：千原助手、中嶋助手

事務局：田淵主事

活動内容：

1. 学内研究助成について

平成27年度は研究成果に見合った適切な予算執行計画と研究成果の発表促進を主旨として、平成28年度学内研究助成募集要項によりA)研究プロジェクト、B)研究成果公表の2枠で募集した。研究費は外部資金から獲得するものという意識を醸成しつつ、機動的かつ適切な研究費の配分に努めた。重点課題（少子高齢化、がん看護、在宅ケア）を設定した。これまでの研究の成果について、自己点検評価を行い、研究の質の向上に努めた。本学教員が大会長となり開催する学術集会等への助成として、学会開催助成を開始した。

2. 教育・研究推進に係るフォーラム等の開催

平成27年度は、学内研究集会の時期やあり方について平成26年度に実施したアンケート結果を反映させ、教員と学生の積極的な参加をさらに促進した。

以下は平成27年度に本委員会が主催となり開催した学内集会である。

1) 研究フォーラム

開催日時：平成27年6月24日（水）16:30～17:40

参加者：45名

場所：管理棟1階 地域ケア総合センター研修室

内容および講師：

「Sally Clark 事件と Lucia de B. 事件 裁判における 統計的誤謬」

小林宏光教授（人間科学）

「クリティカルケア看護に関する研究の軌跡」

村井嘉子教授（成人看護学）

2) 研究サポート集会

対象者：学内教員および大学院生

1回目開催日時：平成27年8月5日（水）16:20～17:20 参加者：47名

2回目開催日時：平成27年10月7日（水）16:15～17:10 参加者：37名

場所：管理棟1階 地域ケア総合センター研修室

内容および講師：

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 1 回目：石川看護雑誌の論文投稿について | 小林宏光教授（人間科学） |
| 原稿作成の基本的な技術 | 同上 |
| 2 回目：本学における科研費取得の動向 | 大木秀一教授（健康科学） |
| 科研費申請の事務手続きについて | 小林宏光教授（人間科学） |
| 科研費獲得者による申請のポイントと獲得後の研究遂行について | |
| 基盤研究 B について | 浅見洋教授（人間科学） |
| 挑戦的萌芽研究について | 米田昌代講師（母性看護学） |
| 基盤研究 C について | 丸岡直子教授（基礎看護学） |

3) 平成 27 年度学内研究助成成果報告会の開催

21 課題の発表がなされた。

開催日時：平成 27 年 9 月 16 日（水）13:00～15:00 参加者：41 名

平成 27 年 9 月 25 日（金）10:00～12:10 参加者：50 名

場 所：教育研究棟 1 階 大講義室

4) 石川県立大学との研究交流会の開催

石川県公立大学法人 2 大学の学術交流を目的とした研究交流会を実施した。

開催日時：平成 27 年 8 月 7 日（金）16:30～17:55 参加者：34 名

場 所：金沢都ホテル 7 階 鳳凰 西の間

演題・講師：

「目視困難な末梢静脈可視化装置の開発」

木森佳子講師（本学 基礎看護学）

「ゼニゴケ、遺伝子、役に立つ？」

竹村美保准教授（石川県立大学 附属生物資源工学研究所）

「転倒リスク場面観察時における看護師の眼球運動とキャリア形成」

寺井梨恵子助教（本学 成人看護学）

「チェコの事例にみる女性の教育機会とキャリア形成」

石倉瑞恵准教授（石川県立大学 教養教育センター）

3. 研究内容・研究成果の情報発信

平成 27 年度は、本学ホームページの教員活動紹介における研究成果の公表と更新を積極的に行うように教員に促した。

4.4.3.1 共同研究審査部会

部 会 長：大木秀一 教授（附属図書館長）

部 会 員：丸岡教授、吉田教授、長谷川教授、小林教授、彦准教授、加藤准教授

活動内容：

平成 27 年度学内研究助成（2 次募集）申請・海外研究発表旅費に関する助成申請の審査を行

い、採択案を決定し、研究推進委員会に採択案の審議を付託した。教育研究審議会で採択が決定した。平成 28 年度学内研究助成申請の審査を行い、採択案を決定した。研究推進委員会に採択案の審議を付託した。

4.4.4 情報システム委員会

委員長：大木秀一 教授

委員：浅見教授、田村助教、川端助教、大江助教、千原助手

事務局：小林主任主事

開催頻度：随時

活動内容：

本委員会は本学情報システムの管理・運営、および本学における情報環境の改善を担当している。現在、定例の委員会開催は行っておらず、石川県立大学と合同で石川県公立大学法人情報ネットワークシステム保守委託業務の作業実績報告を 2 か月に一回受けている。その際に法人本部・両大学・業者の間で意見交換を行っている。今年度は学内における無線 LAN 設置に向けて教員から意見を収集し、その結果を反映させた提案を行った。

4.4.5 広報委員会

委員長：武山雅志 教授

委員：吉田教授（研究科長）、牧野教授（学生部長）、丸岡教授（看護キャリア支援センター長）、長谷川教授（地域ケア総合センター長）、大木教授（附属図書館長）、高山教授、村井教授、林教授、松原教授、魚事務局長

委員補助：曾根助教、清水助教、千原助手

事務局：塚本課長補佐

活動内容：

1. オープンキャンパス

1) 第 16 回 平成 27 年度 オープンキャンパス 2014 の企画立案・準備・実施

夏：開催日時 平成 27 年 7 月 18 日（土）10：00～14:00

秋：開催日時 平成 27 年 10 月 24 日（日）10：00～12:00

2) 第 17 回 平成 28 年度 オープンキャンパスの検討

日程 夏 平成 28 年 7 月 16 日（土）、秋 10 月 29 日（土）午前 開催予定

2. キャンパスネット IPNU（大学新聞）

1) 第 28 巻 2015. 10 の企画立案・編集・発行

2) 第 29 巻 2016. 3 の企画立案・編集・発行

3. ホームページ

1) ホームページの運用

2) 新着情報コーナーの変更

- 3) 教員用 HP に関する研修会 平成 28 年 2 月 22 日 (月) 14:40~16:10
講師：仲上豪二郎先生 (東京大学)、山本隆一郎先生 (上越教育大学)
- 4) 大学案内 DVD に関するコンセプトの検討
- 5) 英文ホームページ修正の検討

4. 大学案内 (学部・大学院)

- 1) 2015 (学部・大学院) の企画立案・編集・発行
- 2) 2016 (学部・大学院) の企画立案・編集

5. 大学コンソーシアム石川

- 1) 情報発信専門部会 第 1 回 平成 27 年 4 月 23 日 (木)
第 2 回 平成 27 年 12 月 10 日 (木)
第 3 回 平成 28 年 3 月 7 日 (月)
- 2) 高大連携セミナー 平成 27 年 10 月 6 日 (火)
- 3) 県外進学説明会 長野市 平成 27 年 9 月 10 日 (木)
- 4) 出張オープンキャンパス担当講師の調整と依頼 2015 年度、2016 年度
- 5) 石川の大学ガイドブックの編集 2015 年度版、2016 年度版

6. 学生広報委員活動のサポート

- 1) オープンキャンパス
- 2) ナース・ステーション (医心発行)
- 3) 石川大学のガイドブック

7. メールマガジン登録システム構築

平成27年度のオープンキャンパスは早めの周知が功を奏したのか、若干名だが参加者が増えた。

本学ホームページの更新については昨年度よりは増加したものの、まだすべての活動がアップされているわけではない。平成28年度からは各委員会にホームページ係を置き、更新を促すようにすることになった。また「お知らせ・新着情報」を見やすい形に変更した。さらに講座または研究室単位での教員用ホームページの設置の準備として研修会を開催した。「大学院生を募集するためにも必須のアイテム」、「取っつきにくいけど始めてみると意外に簡単」という講師の言葉に触発されて早速作ってみようという動きが出ている。

大学案内 DVD はしばらく更新されていないため、他大学の DVD をいくつか委員会で視聴しどのような形がよいのか議論し、平成 28 年度の取組の参考になるコンセプトづくりを行った。本学においては地域ケア総合センター、看護キャリア支援センター、北陸がんプロなどに関係した多くの研修会や行事が開催されている。しかし中には参加者の少ないものもあり広報の十分行き届いていないのではないかと懸念される。そのためメールマガジン登録システムを構築し、平成 28 年度からの運用に備えた。

4.4.6 入学試験委員会

委員長：石垣和子 教授(学長)

委員：松原教授、今井教授、丸岡教授、西村教授、村井教授、林教授、魚事務局長

事務局：林専門員

活動内容：

1. 前年度の実情及び問題点・課題

前年度の各入学試験の募集、実施準備、当日運営、合格発表にいたる一連の事務作業は円滑に実施できた。編入学試験継続の是非、面接評価方法の見直しが継続検討課題として持ち越された。

2. 今年度の目標

- 1) 各入学試験の募集、実施準備、当日運営、合格発表にいたる一連の事務作業を円滑に実施する。
- 2) 課題となっている編入学試験の定員見直しを検討する。
- 3) 課題となっている面接試験の採点方法の見直しを行う。
- 4) 作問体制について作問委員に周知し、適切な作問、採点を保証する。
- 5) その他の入試委員会が担当する作業を確実に行う。課題を発見し、その解決につなげる。

3. 今年度の活動内容・その評価・次年度以降に向けた課題

- 1) 各入学試験の募集、実施準備、当日運営、合格発表にいたる一連の事務作業は円滑に実施できた。実施体制において事務職員と教員との協働がスムーズに行えた。
- 2) センター試験において身障対応の別室対応試験室を設けたため、本学教職員だけでは人員不足となり、法人から2名の応援を得た。
- 3) センター試験の際に試験区域内に部外者が立ち入った。実害はなかったが、今後に向けてセンター試験実施体制を見直すことになった。
- 4) 編入学生の出身校へ調査を行い、その資料をもとに本学で編入学試験を行う意義を検討した結果、募集停止という結論を得た。教育研究審議会での審議、法人への説明と報告を経て平成28年3月にホームページにてその旨を公表した。編入学生の入学は平成29年度が最後となり、平成30年度からゼロとなる予定。
- 5) 面接試験の採点方法はABDまたはABCDの段階評価とし、実際の入試に適用した。次年度以降にその課題の有無、課題があれば解決方法を検討する。
- 6) 入学試験の作問は、アドミッションポリシーに照らした作問基準に則って行われた。
- 7) 7月開催のオープンキャンパス、10月学園祭時のオープンキャンパスへの協力を行った。
- 8) 入試情報のホームページ上での公開と管理を行った。
- 9) 入試方法と入学者の特徴との関連に関する調査(入試評価部会)を入試評価部会で行った。
- 10) 学生募集に関する活動として、高等学校等への入試説明会、模擬授業等を円滑に分担し、可能な限りすべての要望・申し込みに対応した。北陸新幹線開通に伴う長野県における学生募集に昨年に続き参加した。
- 11) 高校教育の見直しやセンター入試方法の見直しが行われていることから、本学も高大接続

に関連した高校の先生との交流機会を増やす必要性が高まっていると思われた。次年度以降の課題とする。

4. 入学試験の実績

| | |
|-----------------------|------------------------------|
| 平成27年 9月 | 3年次編入学試験／看護学研究科博士前期・後期課程入学試験 |
| 平成27年11月 | 推薦・社会人入学試験 |
| 平成28年 1月16日(土)・17日(日) | 大学入試センター試験 |
| 平成28年 1月 | 看護学研究科博士前期課程(第2次募集)入学試験 |
| 平成28年 2月 | 一般選抜前期日程試験 |
| 平成28年 3月 | 一般選抜後期日程試験 |

4.4.6.1 入試実施部会

部会長：非公開

部会員：非公開

活動内容：

1. 看護学部入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
2. 研究科入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
3. 大学入試センター試験の会場準備・実施体制およびそれに付随する業務

4.4.6.2 入試評価部会

部会長：非公開

部会員：非公開

活動内容：

以下について検討した。

1. 全国の国公立看護系大学、近隣の看護系大学の3年次編入学試験に関すること
2. 平成26年度からの本学3年次編入学試験科目変更後の状況に関すること
3. 本学入学試験の各選抜方法と入学後の修学状況、資格取得状況に関すること
4. 本学推薦入学試験入学者の入学後の修学状況、資格取得状況に関すること

4.4.7 自己点検・評価委員会

委員長：石垣和子 教授(学長)

委員：浅見教授(学長補佐)、小林教授、大木教授(附属図書館長)、
長谷川教授(地域ケア総合センター長)、丸岡教授(看護キャリア支援センター長)、
西村教授、吉田教授(研究科長)、牧野教授(学生部長)、高山教授(学長補佐)、
魚事務局長

委員補助：田村助教、松本助教、森田助教

事務局：田淵主事

活動内容：

1. 前年度の実情及び問題点・課題

前年度は、隔月に委員会を開催し、自己点検評価に関連するテーマを認証評価、研究の評価方法、社会貢献の評価方法、蓄積すべき経年情報、年報、教員評価等に分けて大まかな評価方法の検討を行った。

今年度は、前年度の検討をさらに進めて評価視点や基準を具体化することが課題となる。

今年度も前年度と同様に、委員会規程にある部会は暫定的に吸収し、たとえば年報における研究業績を、教員評価の研究成果と同じ基準にするにはどのようにしたらいいか等、相互に齟齬のないように一堂に会して関連させながら検討する方法を継続することとした。

2. 今年度の目標

- 1) 委員一人ひとりの役割認識を確実にし、各回ごとに計画的に審議案が提出されるような体制を整える。
- 2) 教員評価の試行をさらに行い、評価方法を決定する。
- 3) 教学に関連する実績、研究実績、社会貢献実績について、経年的な蓄積項目を明示する。
- 4) 年報原稿転出時期と教員の1年の振り返り評価時期が同期できるよう工夫する。
- 5) 認証評価（7年ごと）、法人評価（毎年）以外の外部評価を取り入れる方法を検討する。

3. 今年度の活動内容・その評価・次年度以降に向けた課題

1) 委員会体制について

委員補助として3人を任命し、資料収集や細かい作業の手伝い等を依頼した。

前年度に続き、今年度の委員会の作業を下記の8つに分類し、分担を決め、計画的に審議事項とその資料を準備した。委員補助の存在によって、効率よく準備が整い、それぞれの検討が順調に行えた。

| 平成26-27年度 | A 経年評価方法 | B 年報作成 | C 教員個人評価方法 | D 教育評価(全体)方法 | E 研究評価(全体)方法 | F 社会貢献評価(全体)方法 | G 法人評価 | H 認証評価 |
|-----------|-------------|-------------|-------------------|-----------------------|-----------------------|-------------------|-----------|-------------------------|
| 主な目標 | IR探求 | 行程に添った年報の作成 | 第1段評価の振り返りと第2段の実施 | プロセス評価/アウトカム評価項目の検討など | 研究業績の量と質評価/研究業績獲得評価など | 評価方法 など | 中期計画実績、計画 | 7年ごとの報告書作成/認証評価内容の検討 など |
| 連携する委員会 | | | FD委員会 | FD委員会 教務委員会 | 研究推進委員会 | 地域ケア総合センター運営委員会 | 教育研究審議会 | 教育研究審議会 |
| 連携する役職 | 事務局長・学長 | 学長(西村・小林) | 学長・局長 | 研究科長・学生部長 | 図書館長 | センター長(地)看) | 学長補佐 | 公大協連携研究員(大木) |

2) 教員評価について

目標シート、振り返りシートを1枚に収めた教員評価シートを完成させた。教員評価規程を作成した。2度目の教員評価の試行を行った。

3) 年報提出原稿について

研究業績、社会貢献業績を中心に年報原稿の提出様式を見直し、教員評価にも資料としてつけられるように作成し、教員全体会議にて周知した。

4) 経年評価のための蓄積データの決定について

A, D, E, F について大まかに蓄積データの案が明示された。次年度に自己点検評価書を作成することにしたことから、その際にこの蓄積データの適否も点検されることとなる。

5) 外部評価について

公大協のピア評価を平成28年度に受けることが決定された。

ピア評価委員長に奥野武敏大阪府立大学元学長、看護代表として大分県立看護科学大学村嶋学長に依頼し、残りの評価者は公大協事務局に選出していただくことになった。

4.4.8 FD委員会

委員長：多久和典子 教授

委員：武山教授、川島教授、谷本准教授、中道講師、金谷講師

委員補助：川端助教、小林特任助教

事務局：山岸専門員

活動内容：

1. 学生による授業評価の実施

現行の授業評価項目を継続して各科目の学生による授業評価を授業最終日に行い、科目担当者に結果を開示した。

2. 授業評価・授業参観、および、教育・研究のFDに関する教員を対象としたアンケート

学生による授業評価は現在まで科目担当者に開示されているのみで、その結果が授業改善に活かしきれていない可能性がある。年度末に教員を対象にアンケートを行い、授業評価の開示や教員同士の授業参観に関する教員の意向を調査した。また、教員自身の教育・研究両面でのFDのニーズや課題についても併せて調査を行った。来年度初頭にその結果を取りまとめ、活動方針決定への根拠とする予定である。

3. 新任教職員オリエンテーションについて

27年度はじめに新任教員・職員対象のオリエンテーションを行った。

4. FD研修会について

学内教員による情報共有と学外講師によるミニレクチャーを組み合わせたFD研修会を2回開催した。第1回(7月9日)：学内教員の実習指導に関する情報共有と和住淑子先生(千葉大学看護実践研究指導センター)によるミニレクチャー「マザーマップの活用」；第2回(3月25日)学内教員によるグループワーク形式の授業の取り組みに関する情報共有と中島英博先生(昨年に引き続き2回め；名古屋大学高等教育研究センター)による協働教育に関するミニレクチャー。特に第2回研修会は、「有意義であった」・「次年度に活かせる」との感想や、「今回のように学内教員どうしの情報共有と学外講師によるレクチャーを組み合わせた形式での研修会」を希望する意見が多く聞かれた。

5. FD委員の学外研修について

大学コンソーシアム石川およびコンソーシアム京都の研修に積極的に参加し、FDについての知見を深めた。

4.4.9 ハラスメント委員会

委員長：石垣和子 教授(学長)

委員：浅見教授、多久和教授、川島教授、牧野教授、高山教授、魚事務局長

相談員：武山教授、中田弘子准教授、米田講師、森田助教

活動内容：

1. 前年度の実情及び問題点・課題

前年度は委員会への訴えもなく、問題点・課題の申し送りはなかった。

2. 今年度の目標

ハラスメント案件が発生した場合には適切に対処する。

ハラスメントを予防するような職場環境を醸成する。

3. 今年度の活動内容・その評価・次年度以降に向けた課題

1) ハラスメント自案は発生しなかったことから委員会は開催しなかった。

2) ハラスメントをテーマとした研修会は行わなかった。次年度に研修会開催を検討することになった。

4.4.10 情報セキュリティ委員会

委員長：小林宏光 教授

委員：大木教授、長谷川教授、吉田教授、牧野教授、石川准教授

事務局：小林主任主事

活動内容：学内へのWi-Fi設置に関するセキュリティーポリシーについて検討を行った。

4.4.11 コンプライアンス委員会

委員長：吉田和枝 教授（研究科長）

委員：魚事務局長、村井教授、長谷川教授、林教授、谷本准教授、垣花准教授

事務局：小林主任主事

活動内容：

1. 平成27年6月22日に第一回コンプライアンス委員会が開催され、法人本部からあらためて文部科学省からガイドラインが示されたことに伴う、本学での規定、公的研究費不正使用、研究活動上の不正行為について説明された。また本学の各機関の役割として、研究活動上の不正行為（故意、捏造、改ざん、盗用、二重投稿など）については、コンプライアンス委員会がその防止にあたることが明確化された。公的研究費使用については学長、事務局長が管理、統括し、主に事務部門がこれらの予防及び問題のあった場合調査等を行う。調査等が必要等の場合は、コンプライアンス委員会が諮問機関として機能する。
2. 平成27年7月27日の第二回コンプライアンス委員会では、研究活動上の不正行為の予防のための、CITI Japan e-learning 教材の受講コースの選定が話し合わせ、最終的に必須7単元+オプション4単元の合計11単元と決定した。また、本委員会と倫理委員会の合同研修会開催について必要性が確認され予定された。
3. 平成27年9月29日、不正防止に関する合同研修会（不正防止対策室、コンプライアンス委員会、倫理委員会）を開催した。出席数は42名。法人本部からの研究不正使用、研究活動における不正行為についてのガイドラインについての説明、魚局長の不正防止計画の説明、コンプライアンス委員会からは研究活動上の不正行為の予防、e-learning 受講の奨励

の説明を行い、また倫理委員会からは適切な研究活動のための申請書の記入方法等の説明をおこなった。なお、欠席者のために研修会の録音を取り全員がアクセスできるファイルに収めた。

4. CITI Japan e-learning 教材の受講に関しては教員だけではなく本学の大学院生にもパスワードが発行され受講することができ、教員、大学院生とも是非受講するように勧奨している。3月の時点で受講率は70%以上である。(別ルートで受講したものを含めず)
5. 本委員会は研究活動上の不正行為の予防に努めなければならないが、倫理委員会とのつながりは重要であり、今後さらに合同研修会の充実を図っていく必要がある。

4.4.12 遺伝子組換え実験等安全委員会

委員長：今井美和 教授

委員：小林教授、吉田教授、北山准教授

事務局：細川専門員

活動内容：

平成27年度は申請案件がなかったため、委員会は開催されなかった。

4.4.13 倫理委員会

委員長：吉田和枝 教授（研究科長）

委員：浅見教授、大木教授、村井教授、塚田准教授、加藤准教授、外部委員（9名）

事務局：澤本専門員

活動内容：

1. 平成27年度は学長が委嘱する学識経験者として9名の外部委員の参加を得て、計11回の委員会を行った（1回の委員会に2名の外部委員が出席）。
2. 昨年度に続き卒業研究のみに「付議不要」制度を適用した。6～9月まで12件の付議不要確認を行った。
3. 同意書および倫理申請書について、昨年度様式を改定したが、さらに記入しやすい、審査しやすい方向に暫時修正を加えた。
4. 平成27年9月29日に合同研修会（不正防止対策室、コンプライアンス委員会、倫理委員会）、を開催した。本委員会は、記載方法を理解してもらうことは研究倫理を理解してもらうことに直結しており研究活動防止につながっているという認識のもと、倫理審査の理解の促進を目的とした倫理申請書の記載方法についての説明を行った（合同研修会の概略はコンプライアンス委員会を参照のこと）。
5. 平成28年2月に休学中の学生からの倫理委員会の申請の是非をめぐる話し合いが、倫理委員会および研究科委員会で行われた。結果、休学中の学生の倫理審査の申請はおこなってもよいが、本学の休学制度の意味も踏まえ、指導教員との十分な話し合いのもとで責任ある行動をとるようにとされた。
6. 平成27年度の申請数（付議不要を含む）は、教員27件、前期課程生15件、後期課程生5件、卒業論文16件、付議不要申請12件で合計75件であった（昨年74）。審査の結果は、承認21%

(昨年50%)、条件付き承認73% (昨年41%)、変更の勧告2% (昨年5%)、不承認0% (昨年3%)、非該当5% (昨年2%) であった。条件付承認は、修正された申請の再審査で、100%承認となった。

4.4.14 衛生委員会

委員長：今井美和 教授

委員：大木教授、西村教授、川村講師、中嶋助手、魚事務局長、井上囑託、茶谷隆 産業医

事務局：細川専門員

活動内容：

本学の喫煙場所（管理棟、厚生棟の2箇所）の必要性について、①石川県内大学の喫煙場所設置状況・敷地内全面禁煙の取り組みの調査、②本学教職員対象の「禁煙・分煙に関する意識調査」、③本学学生の喫煙者数の調査を実施し、現在検討中である。

平成27年12月より労働安全衛生法が改正され、ストレスチェック制度が創設、職場でのストレスチェックが義務付けられた。そこで本学では法人の方針に従いストレスチェックを実施することになった。運用の詳細は次年度初めに検討する。

その他、職場巡視、定期健康診断受診状況調査、労働時間に関する実態調査、消防訓練、労働安全衛生研修会を実施した。

4.5 平成27年度 卒業研究論文題目一覧

| 領域または科目群 | 学籍番号 | 氏 名 | 論 文 題 目 |
|-----------------|---------|------------|--|
| 人間科学領域 (18人) | 1201010 | 桂川 鮎子 | 自死遺族の悲嘆過程についてー子どもを自死で亡くした親の手記を通してー |
| | 1201018 | 小石奈津妃 | 心拍数測定によるウォーキングの運動強度の測定 |
| | 1201022 | 近藤 愉架 | 心拍数計測による登山・ハイキング中の身体負担の評価 |
| | 1201028 | 常林坊優香 | 小学校低学年での「いのち」の教育について |
| | 1201031 | 砂田 絢乃 | 身体障がい者の性支援に対する医療福祉関係者の意識調査 |
| | 1201037 | 竹川 詩織 | 歩くことを意識した生活習慣が感情や気分及ぼす影響 |
| | 1201039 | 武田 悠花 | 心因が背景にあると考えられる児童生徒への養護教諭の関わり |
| | 1201044 | 常廣 明里 | 精神的悩みを抱え保健室に来室する生徒への支援における校内での連携方法 |
| | 1201045 | 東城 美希 | ドラッグラグ短縮に向けた取り組みー文献を用いた日本とシンガポールの比較ー |
| | 1201059 | 野村 奈生 | 路面状態が歩行中の心拍に与える影響 |
| | 1201060 | 濱端 楓 | 訪問看護師が行っている在宅終末期ケアにおける支援について |
| | 1201069 | 松田 麻佑 | 保健室登校生徒に対する養護教諭の支援の実際ー対人関係スキル向上の支援に着目してー |
| | 1201074 | 水本 菜々 | 地域の課題解決力の向上を図るサービス・ラーニングの検討 |
| | 1201078 | 山内 絢子 | 看護大学生の住居環境の違いによる食生活と健康管理に関する研究 |
| | 1201081 | 山田 純子 | 北陸の在留外国人の受診行動に関する研究 |
| | 1201082 | 山本 秀実 | アンクルウェイト装着による心拍数の変動について |
| | 1401103 | 川上優希乃 | 看護学生の実習におけるストレスと実習段階との関連 |
| 1401105 | 川邊英里奈 | 家族介護者の性別特徴 | |

| 領域または科目群 | 学籍番号 | 氏 名 | 論 文 題 目 |
|-----------------|----------------------|---------|---|
| 健康科学領域 (12人) | 1001050 | 中村 優里 | 不妊・不妊治療による女性への心理的影響 |
| | 1201008 | 小川 真奈 | A 看護大学女子大学生の体型認識とダイエットに関する研究 |
| | 1201023 | 坂井 里帆 | 看護学生の糖尿病・高血圧の患者教育への意欲に影響を与える要因 |
| | 1201032 | 清女谷亜樹 | 不妊治療が男性に与える心理的影響と必要な支援に関する文献レビュー |
| | 1201033 | 善野由希栄 | 看護大学生による女子高校生への子宮頸がん予防啓発活動の効果 —調査対象者の知識状況に焦点をあてて— |
| | 1201046 | 徳能 萌 | 看護学生のがんに対する認識と生活習慣の関連について |
| | 1201049 | 長田 菜摘 | 小児肥満の要因についての文献検討 |
| | 1201051 | 中原 春香 | 破骨細胞の未分化と分化初期における細胞増殖に及ぼすビタミンDの効果 |
| | 1201052 | 中町 陽菜 | 破骨細胞の未分化と分化初期における細胞増殖に及ぼすビタミンDの効果 |
| | 1201054 | 中村 瑠乃 | 看護大学生による女子高校生への子宮頸がん予防啓発活動の効果 —調査対象者の特徴と参加者の啓発活動の評価に焦点をあてて— |
| | 1201067 | 牧島 愛 | ビタミンDの破骨細胞の分化初期における細胞増殖抑制効果 |
| | 1201073 | 水野 珠里 | 看護大学生による女子高校生への子宮頸がん予防啓発活動の効果 —調査対象者の意識状況に焦点をあてて— |
| | 看護専門領域 基礎看護学(15人) | 1201002 | 家中 昭乃 |
| 1201004 | | 上田 桃子 | 認知症高齢者のライフヒストリーを活かした関わりがケアスタッフに与える影響 |
| 1201006 | | 近江 翔子 | 看護学生の転倒リスク場面に対する視覚による観察とアセスメント—IV段階実習前の看護学生に焦点をあてて— |
| 1201007 | | 大野里彩絵 | 車椅子移乗における補助具使用に関する文献レビュー |
| 1201015 | | 北村 日菜 | 外来看護師による在宅療養移行支援の実態 —入院決定から入院するまでに焦点を当てて— |
| 1201025 | | 沢田 眸 | 鼻腔カニューレ装着による皮膚バリア機能への影響—医療関連機器による皮膚障害のケア— |
| 1201030 | | 菅池明日美 | 看護学生の滅菌手袋装着時における視線軌跡の特徴 |

| 領域または科目群 | 学籍番号 | 氏 名 | 論 文 題 目 |
|-----------------------|---------|-------|--|
| 看護専門領域 基礎看護学 (15人) | 1201034 | 高本奈瑠美 | 認知症高齢者のライフヒストリーを活かした関わりが本人に与える影響 —自分史アルバム作成過程を通して他者との交流が拡大した1事例の考察— |
| | 1201036 | 竹内 香織 | 外来看護師による在宅療養移行支援の実態—患者の入院中・退院後の支援に焦点をあてて— |
| | 1201041 | 田中麻奈美 | アロマハンドマッサージがもたらす前頭葉酸素化ヘモグロビンの変化 —近赤外分光法 (near-infrared spectroscopy : NIRS) による検討— |
| | 1201055 | 中家菜々望 | アロマハンドマッサージが脳活動に与える影響 —前頭葉酸素化ヘモグロビンの変化と心理・主観的評価— |
| | 1201058 | 野田咲央里 | 看護職者の手荒れが患者とその療養環境に与える影響 |
| | 1201068 | 松井 久美 | 認知症高齢者のライフヒストリーを活かした関わりが本人に与える影響 |
| | 1201070 | 松山 未佳 | 入院患者の清潔方法の違いによる皮膚バリア機能への影響 —医療関連機器による皮膚障害のケア— |
| | 1201080 | 山崎 祥絵 | 精油を用いたハンドマッサージが脳活動に及ぼす影響 —前頭葉酸素化ヘモグロビンの変化と心理・主観的評価— |
| 看護専門領域 母性看護学 (7人) | 1201005 | 鵜島 咲 | 乳幼児突然死症候群 (SIDS) の予防活動の現状と SIDS で子どもを亡くした家族へのケアについての文献検討 |
| | 1201017 | 楠 茉悠 | 若年女性の子宮頸がん検診受診率向上に関する文献研究 |
| | 1201020 | 小浦理紗子 | 学童の肥満に関する看護系文献の研究 |
| | 1201021 | 小林 千恵 | 潰瘍性大腸炎の緩解期の維持と向上のための看護支援 |
| | 1201026 | 芝田 由衣 | 高齢初産婦の看護に関する文献検討 |
| | 1201040 | 立中由里子 | マタニティブルーズ・産後うつ病に対する妊娠期のスクリーニング方法についての文献検討 |
| | 1201066 | 星川亜由美 | 文献検討からみた学童の効果的なう蝕予防の在り方 |
| 看護専門領域 小児看護学 (6人) | 1201012 | 川崎麻友美 | NICU 入院児の親子関係を良好にするために行われている支援の母親にとっての効果についての文献研究 |
| | 1201029 | 末岡 弓奈 | 不登校児をもつ母親の行動変容を促す支援に関する文献検討 |
| | 1201048 | 中嶋 佳奈 | NICU に入院している児をもつ母親の不安軽減につながった医療者の支援に関する文献検討 |
| | 1201072 | 水野 綾子 | 先天性障がい児の母親がわが子を受け入れられるようになる要因に関する文献検討 |

| 領域または科目群 | 学籍番号 | 氏 名 | 論 文 題 目 |
|----------------------|---------|-------|--|
| 看護専門領域 小児看護学 (6人) | 1201077 | 谷内 愛香 | 患児のきょうだいへの情報提供の実態と情報提供前後の変化に関する文献検討 |
| | 1401108 | 谷口 莉菜 | 低出生体重児に対して受容困難な父親の心理とその関連要因 |
| 看護専門領域 成人看護学 (8人) | 1201001 | 浅香 朋美 | 入院中の終末期がん患者に付き添う家族の心理についての文献研究 |
| | 1201009 | 蚊爪 悠花 | 子どもをもつがん体験者同士の対話から見えてくるもの —親子参加型プログラム後の母親同士の対話から— |
| | 1201043 | 田端 杏衣 | 一時的ストーマ閉鎖術後の患者に対する看護の実態 |
| | 1201065 | 府中 明香 | せん妄と睡眠障害に対する看護援助の文献的考察 |
| | 1201079 | 山岸まどか | 手術室看護に関する研究の歴史的変遷の文献的考察 —災害対策・災害看護、チーム連携に焦点を当てて— |
| | 1201083 | 米浜有佳里 | サポートブックを用いた乳がん患者とその子どもへの支援の検討 |
| | 1401108 | 北野 千里 | ICUに緊急入室した患者の家族心理に関する研究 |
| | 1401110 | 森 夕希子 | 富山県におけるオストメイトの防災意識と災害対策の現状 |
| 看護専門領域 老年看護学 (7人) | 1201011 | 河口 祐介 | 認知症高齢者との笑いヨガを実施した大学生ボランティアの脳血流の状態 |
| | 1201013 | 河内 芳水 | 認知症の介護家族の立場からみた病院の適切性 |
| | 1201016 | 城戸口雅子 | 笑いヨガを構成する感覚刺激が脳血流に及ぼす影響—高齢者と若者の比較— |
| | 1201019 | 小泉 花奈 | 笑いヨガと感覚刺激が脳血流に与える影響についての文献検討 |
| | 1201047 | 中川実乃里 | 医療現場における認知症高齢者の身体拘束の実態と家族の思い |
| | 1201056 | 鍋野 杏奈 | 一般病院に入院した認知症高齢者に対する療養環境及び対応の実態とそれに対する家族の思い |
| | 1201064 | 藤沢 愛里 | 笑いヨガが高齢者の脳血流に与える影響—高齢者と若者の比較— |

| 領域または科目群 | 学籍番号 | 氏 名 | 論 文 題 目 |
|----------------------|---------|-------|--|
| 看護専門領域 地域看護学 (8人) | 1001068 | 南 陽香 | 特定健診の受診率向上のための対策と保健師の役割 |
| | 1201014 | 川野なぎさ | 肥満男性の食習慣の特徴と介入方法に関する検討 |
| | 1201035 | 高山 優也 | 労働者に対する効果的なメンタルヘルス対策の検討 —労働者のメンタルヘルスへの介入研究の方法別効果に関する文献検討— |
| | 1201050 | 中谷 朱里 | 石川県内市町における災害時避難行動要支援者支援制度の現状と保健師活動との連携について |
| | 1201071 | 的場 郁未 | 高齢者の自殺の現状と課題—自殺率の地域差についての文献検討から— |
| | 1401101 | 石元さと子 | 人口減少と高齢化が進むA市における介護予防事業の意義と課題 —いきいき百歳体操参加者のアンケート通しての考察— |
| | 1401102 | 折川 翼 | 都道府県別自殺率と社会環境要因の関連に関する一考察 |
| | 1401107 | 久保 雪乃 | 2型糖尿病患者の治療中断の促進要因と阻害要因に関する文献レビュー |
| 看護専門領域 在宅看護学 (5人) | 1001060 | 福島 涼野 | 難病患者会のグループ活動を継続する上での課題 |
| | 1201027 | 島田 葉子 | 在宅パーキンソン病女性患者の日常生活上の困難と工夫 |
| | 1201057 | 新田 大貴 | 能登地域の家族介護者の家族会等の活動・社会的ネットワークシステムの現状と男性介護者に対する支援 |
| | 1201076 | 森口 梨子 | 日本の終末期医療における事前指示のあり方 |
| | 1401104 | 川西 早苗 | 能登地域における家族介護者支援の現状と支援者が捉える |
| 看護専門領域 精神看護学 (4人) | 1201003 | 五十嵐一美 | 一般病棟におけるメンタルケアが必要な患者への看護についての文献検討 —リエゾン看護に着目して— |
| | 1201024 | 佐藤 舞香 | 発達障害児支援の多職種連携における養護教諭の意識に関する調査 |
| | 1201053 | 中邨 美菜 | 小規模事業所におけるメンタルヘルス対策についての文献レビュー |
| | 1201062 | 東山 佳苗 | うつ病を有する休職者の職場復帰を評価するための尺度に関する文献検討 |

5. 大学院・看護学研究科

5.1 理念・目標

5.1.1 博士前期課程（修士）

5.1.1.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.1.2 教育目標

1. 看護教育を支える教育・研究職の育成

本課程では、学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化・発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護学分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育・研究職の人材を育成する。

2. 高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者の育成

実践現場において当面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、専門看護師（CNS:Certified Nurse Specialist）の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与できる高度専門職業人を育成する。

3. 生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部の社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、適宜適切な社会人の再教育の場を提供する必要がある。本課程は、このような向上心旺盛な学部卒業生や社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

5.1.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人

2. 看護の専門的知識・実践力と研究能力を自ら発展させる意志を有する人
3. 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
4. 看護学を通じて地域社会および国際社会に貢献する意志を有する人

5.1.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士前期課程では、学際的で深い科学的知識と高い研究能力を有し看護学の研究や教育、実践に携わることのできる研究者・教育者・高度看護実践者を育成するために、研究コースと専門看護師コースを設け、次のような教育課程を編成している。

1. 広い視野で看護を学ぶための学際的な科目から構成されている「共通科目 A」「共通科目 B」各研究教育分野におけるより深い専門性を学ぶ「看護専門科目」を置いている。
「共通科目 A」は研究コース・専門看護師コースのどちらの学生でも履修できるように配置している。
2. 論文作成にあたっては、中間報告会などにより研究プロセスを段階的に学んでいくことができるように、全学的な指導体制をとっている。
3. 専門看護師コースでは、特定分野におけるケアとキュアを融合した看護実践力、保健医療福祉チーム内の調整力などの育成をめざし、看護実践力の高い専門看護師とタイアップして日本看護系大学協議会で認定された専門看護師教育を展開している。
4. 国際的な視野をもち、より効果的な看護を探求し提供していくために、海外の招聘教員による国際看護を学ぶ科目を置いている。

5.1.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、学際的で深い科学的知識と高い研究能力・実践能力を有する者に修士（看護学）の学位を授与する。そのためには、以下の学習成果をあげることが求められる。

1. 各分野における修士論文の作成を通して、体系的な研究方法を身に付ける。
2. 専門看護師コースの修了者は、特定の看護分野における高度な知識と技術を身に付ける。
さらに、総合的な判断力をもって組織的に問題解決をはかる能力を身に付ける。

5.1.2 博士後期課程（博士）

5.1.2.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.2.2 教育目標

1. 看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成

看護・保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化や地域の要請に対応することができる高度で専門的な知識・技術と、総合的判断力、リーダーシップを備えた看護職を養成する。また、これまで蓄積された経験知や実践知に基づいてより効果的な看護ケアプログラムを開発していくとともに、健康に関する人々の反応や看護援助にまつわる専門的知識を系統的に理解し、諸科学の知見と関わらせながら看護学をさらに体系化し、かつ現代社会の変化や趨勢に照らして看護が果たすべき役割を発展的、科学的、体系的かつ原理的に探求していくことができる教育者・研究者を育成する。

2. 科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成

地域社会並びにそこで生活するあらゆる健康レベルの人々やその家族に対して総合的なヘルスケアをデザインするために、高度な理論・方法など学際的な知識体系を修得・活用して新しい看護実践方法、環境、用具等の開発を行なう。さらに、それらの実践の場における有用性の検証を図り、実践に活かせるエビデンスを明らかにできる研究者を育成する。

3. 対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の育成

効果的な看護ケアプログラムの開発、あるいは対象者個々の個別性を踏まえ、その人たちが帰属する地域の文化的特性を踏まえた看護援助の開発、エビデンスに基づいた看護援助法の確立をめざした高度の研究を継続的に推進していくことのできる研究者を育成する。

5.1.2.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人
2. 看護の専門的知識・実践力と研究能力を自ら発展させる意志を有する人
3. 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
4. 看護学を通じて地域社会および国際社会に貢献する意志を有する人

5.1.2.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士後期課程では、看護学や看護実践の発展に寄与する研究者・教育者を育成するために、教育課程においては次のような点を重視している。

1. 広い視野で看護をとらえ、看護プログラムなどをデザインし発展させる能力、看護実践のもととなる原理を解明する能力を身につけるために、組織的な研究指導をする。
2. 学位論文の審査にあたっては、他の大学院等の教員を審査委員に加える等、論文の質の向上と客観性の確保に努める。

5.1.2.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、学位論文において新しい知見を産出して、看護学や看護実践の発展に寄与する研究能力を有する者に博士(看護学)の学位を授与する。

5.2 大学院生の入学・在学・修了の状況

1. 入学の状況

1) 入学定員・収容定員

| 課 程 | 単位 (人) | |
|--------|--------|------|
| | 入学定員 | 収容定員 |
| 博士前期課程 | 10 | 20 |
| 博士後期課程 | 3 | 9 |

2) 試験実施日

| | 実施日 |
|--------------------|-----------------|
| 博士前期課程入学試験 | 平成27年 9月26日 (土) |
| 博士前期課程入学試験 (第2次募集) | 平成28年 1月30日 (土) |
| 博士後期課程入学試験 | 平成27年 9月26日 (土) |

3) 受験状況等

| 課 程 | 単位 (人、倍) | | | | | | | |
|----------|----------|------|------|------|------|------|------|-------|
| | 募集定員 | 志願者数 | 志願倍率 | 受験者数 | 受験倍率 | 合格者数 | 実質倍率 | 入学者数 |
| | A | B | B/A | C | C/A | D | C/D | |
| 博士前期課程 | 10 | 4 | 0.4 | 4 | 0.4 | 2 | 2.0 | 2 (2) |
| 博士前期課程2次 | 若干名 | 6 | - | 6 | - | 5 | 1.2 | 5 (5) |
| 博士後期課程 | 3 | 4 | 1.3 | 4 | 1.3 | 3 | 1.3 | 3 (3) |

() の数字は内数であり女性の数を示す

2. 在学の状況 (平成 28 年 3 月 1 日現在)

| 課 程 | 単位 (人) | | |
|--------|---------|---------|---------|
| | 1 年次 | 2 年次 | 計 |
| 博士前期課程 | 10 (10) | 17 (16) | 27 (26) |

| 課 程 | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 計 |
|-----|--------|-------|-------|-------|
| | 博士後期課程 | 0 (0) | 4 (4) | 8 (7) |

() の数字は内数であり女性の数を示す

3. 修了の状況

1) 修了者数と修了後の進路状況 (平成28年3月31日現在)

| 課 程 | 単位 (人) | |
|---------------|---------|-----------|
| | 修了者数 | 修了後の進路 |
| 博士前期課程第 11 期生 | 12 (11) | 医療機関、教育機関 |
| 博士後期課程第 8 期生 | 1 (1) | |

() の数字は内数であり女性の数を示す

2) 修了後の進路状況（平成 28 年 3 月 31 日現在）

(1) 博士前期課程（第 11 期生）

単位（人）

| 区 分 | | 県内 人数 | 県外 人数 | 合計 人数 |
|-----|-------------|----------|----------|----------|
| 就 職 | 医 療 機 関 | 6 | 3 | 9(8) |
| | 研 究 機 関 | 0 | 0 | 0(0) |
| | 教 育 機 関 | 2 | 0 | 2(2) |
| | 保 健・福 祉 機 関 | 0 | 0 | 0(0) |
| 合 計 | | 8 | 3 | 11(10) |

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

単位（人）

| 区 分 | | 県内 人数 | 県外 人数 | 合計 人数 |
|-----|-----------|----------|----------|----------|
| 進 学 | 大学院博士後期課程 | 1 | 0 | 1(1) |
| | そ の 他 | 0 | 0 | 0(0) |
| 合 計 | | 1 | 0 | 1(1) |

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 博士後期課程（第 8 期生）

単位（人）

| 区 分 | | 県内 人数 | 県外 人数 | 合計 人数 |
|-----|-------------|----------|----------|----------|
| 就 職 | 医 療 機 関 | 0 | 0 | 0(0) |
| | 研 究 機 関 | 0 | 0 | 0(0) |
| | 教 育 機 関 | 0 | 0 | 0(0) |
| | 保 健・福 祉 機 関 | 0 | 0 | 0(0) |
| 未 定 | | 1 | 0 | 1(1) |
| 合 計 | | 1 | 0 | 1(1) |

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

5.3 大学院教務学生委員会

委員長：吉田和枝 教授(研究科長)

委員：丸岡教授、大木教授、牧野教授、西村教授、小林教授

事務局：松田教務学生課長、納橋専門員

活動内容：

1. 大学院教務に関する以下の事項について審議・実施し、必要事項は研究科委員会に提出し、承認を得て教務を行った。
 - 1) 新入生および在校生へのガイダンスを行った。
 - 2) 修士論文・博士論文に関し、修士（10名）の中間評価委員・博士論文（2名）の予備審査委員決定、修士中間報告会（10名発表.参加者55名）、修士論文発表会（12名発表.参加者78名）、博士中間報告会（3名発表.参加者55名）、博士論文発表会（1名発表.参加者61名）を行った。
 - 3) 既修得単位、14条学生、長期履修生、科目等履修生、休学・復学の認定を行った。
 - 4) 前期・後期成績判定、学位授与・修了判定を行った。
 - 5) 非常勤講師、院内講義担当者、実習施設に関する事項の申請を受けて検討した。
 - 6) 時間割の作成、大学院便覧の作成を実施した。
2. 「院生との懇談会（9月、2月）」開催、院生のニーズの把握に努め、連絡徹底、必要物品購入、早期の時間割作成など対応をした。また、大学院生から個別の連絡先表作成の許可を得た。
3. 専門看護師の受験・実習場所拡大を目的に、昨年に続き4回目の「北陸3県看護部長との懇談会」を実施し、14名の看護部長等の参加のもとに意見交換をした。
4. 昨年度から検討していた大学院での英語看護論文購読の新規開設科目については、本委員会および研究科員会で最終的に、国際看護特論Ⅰおよび国際看護特論Ⅱの2科目が平成28年度より各々隔年で開講されることとなり主担当は加藤准教授となった。
5. 今年度から博士論文の全文公開となっているが、7月に本学で過去修了した人に博士論文・修士論文の公表等に関するアンケートを行った。その結果を踏まえて検討した後、リポジットリへの全文公表について、「著作権に問題がなければ全文公表してもよい」と回答した人の博士論文を掲載することとなった。修士論文に関しては、全文公開は行わないこととなった。
6. 博士論文の審査において、ガイドラインでは審査の条件として審査までに学術雑誌に原著論文が掲載されていることが条件となっているが、表記があいまいであることから、「予備審査までに」が来年度より明確に記され施行されることに決定した。（本年度申請分に関しては、適用しない）
7. 平成28年度の便覧作成において、表の様式が検討され、研究科コースとCNSコースとを別にした表となった。表は改良されても複雑な履修形態をすべて盛り込むことは困難であり、かつ見にくい点が指摘され、今後以前の便覧（分野ごとのモデル表）の復活も含めて、来年度再検討される可能性がある。
8. 学部の9月卒業が認められたことから、大学院においても9月修了の可能性についての話し合いが若干なされた。その後、教育研究審議会での検討事項となり、いまのところ大学院博士前期課程は9月修了も「有り」となったが制度として春修了と同様に行うものではない。大学院博士後期課程については現状どおりとなった。

5.4 平成27年度 修士論文題目一覧

| 分野 | 氏名 | 論文題目 | 担当教員 |
|-----------|--------|--|-------|
| 成人看護学 | 中野 泰規 | クリティカルケア看護師の ICU/CCU に緊急入室した患者の家族に対するアプローチの特徴 | 村井 嘉子 |
| 看護管理学 | 田村 幸恵 | 看護学実習における大学教員の調整行動の構造 | 丸岡 直子 |
| 地域・精神・保健学 | 北野 浩子 | 発達障害の子どもを持つ母親の育児体験と母親が認識する保健師による支援 | 石垣 和子 |
| 成人看護学 | 久保 博子 | がん患者への就労支援プログラムの検討 | 牧野 智恵 |
| 成人看護学 | 高野 智早 | がん患者のセクシュアリティに対する看護師の態度尺度の開発 | 牧野 智恵 |
| 成人看護学 | 時山 麻美 | ピアサポートを受けたがん患者の体験 | 牧野 智恵 |
| 老年看護学 | 北山 礼子 | パーキンソン病高齢者における低栄養の関連要因 | 高山 成子 |
| 老年看護学 | 宮川 充子 | 参加観察法を用いた認知症高齢者における「服薬についての認識」に関する研究 | 高山 成子 |
| 看護デザイン | 河端 久美子 | 死産を経験した家族に対するグリーフケアの現状と課題 ー臨床現場で活用されている用具に焦点をあててー | 浅見 洋 |
| 看護管理学 | 仙本 禎恵 | 新人看護師の車椅子移乗援助における戸惑いの実態とその関連要因 | 丸岡 直子 |
| 看護管理学 | 中川いずみ | 看護師の自己教育力尺度の作成および信頼性・妥当性の検討 | 武山 雅志 |
| 看護管理学 | 林 真砂美 | 急性期病棟の看護師による患者・家族の退院後の療養生活の予測に基づく退院支援 | 丸岡 直子 |

5.5 平成27年度 博士論文題目一覧

| 氏名 | 論文題目 | 担当教員 |
|--------|---|--------|
| 伊達岡 五月 | 育児不安・育児困難の予防を目指した妊娠期からのグループ支援「妊婦プログラム」の評価 | 西村 真実子 |

6. 教員の業績

*は、筆頭著者・発表者が本学学生であることを指す。

6.1 書籍

6.1.1 書籍（著書）

浅見洋（分担執筆）：1章コメント①日本におけるグリーフケアカウンセラー — 臨床心理学と日本的心性の狭間で. 竹之内裕文（編著）：喪失とともに生きる——対話する死生学. 弓箭書院, 東京, 2016. 3

浅見洋（分担執筆）：2章コメント①寄り添いの変容 — 一世紀を経た二つの手記より. 竹之内裕文（編著）：喪失とともに生きる——対話する死生学. 弓箭書院, 東京, 2016. 3
塚本容子, 石川倫子, 福田広美（編著）：症状別アセスメント. メジカルフレンド社, 東京, 2016. 1

石川倫子（分担執筆）：症状アセスメントにおける患者へのアプローチ. 塚本容子, 福田広美：症状別アセスメント. メジカルフレンド社, 東京, 2016. 1

今井美和（分担執筆）：VI. 生殖器疾患 A. 男性生殖器. 梶原博毅, 神山隆一（監修）, 沢辺元司, 長坂徹郎（編集）：スタンダード病理学 【第4版】. 文光堂, 東京, 2015. 12

加藤穰（単著）：English Fundamentals for Nursing Students (Second Edition). 三恵社, 愛知, 2016. 3

加藤穰（分担執筆）：1章 生命倫理とは何か, 8章 再生医療をめぐる法と倫理, 10章 臨床倫理. 栗屋剛, 山下登, 宍戸圭介, 加藤穰編：生命倫理学/医療と法 講義スライドノート. ふくろう出版, 岡山, 2016. 3

川島和代（分担執筆）：基礎知識編、実践編. 介護職員関係要請研修テキスト作成委員会編集：医療的ケア 介護職員による喀痰吸引、経管栄養 第2版. 長寿社会開発センター, 東京, 2015. 6

川島和代（分担執筆）：コミュニケーション、性、感覚機能障害. 真田弘美, 正木治恵編集：老年看護学技術. 南江堂, 東京, 2015

Takuwa N, Okamoto Y, Yoshioka K and Takuwa Y.（分担執筆）：Vascular endothelial S1P2 receptor limits tumor angiogenesis and hyperpermeability. Yokomizo T & Murakami M eds. : Bioactive Lipid Mediators. Springer Japan, Tokyo, 237-252, 2015.

松原勇（単著）：統計及び情報の応用の研究事例. 非売品, 金沢, 2016. 1

6.2 学術論文

6.2.1 査読有

浅見洋, 中村順子, 伊藤智子, 彦聖美, 浅見美千江 : ルーラルエリアにおける住民の死生観と終末期療養希望の変容—秋田・島根の中山間地における経時的調査より—. 石川看護雑誌, 13, 33-43, 2016. 3

- *河端久美子, 浅見洋: 東海北陸地方における死産のグリーフケア —実施状況と使用されている用具—. 石川看護雑誌, 13, 95-104, 2016.3
- 阿部智恵子, 若林芳樹: 市町村合併にともなう保育サービスの変化—石川県かほく市と白山市の比較—. 日本都市学会年報, Vol. 48, 185-192, 2015.12
- 阿部智恵子, 若林芳樹: 石川県かほく市における子育て支援の現状と課題. 季刊地理学, Vol. 67, 176-190, 2015.12
- 辻村真由子, 石垣和子, 胡秀英: 中国帰国者 1 世・2 世とその中国人配偶者に必要な看護支援の検討—A 県在住者を対象とした健康状態と医療・看護・介護ニーズの実態調査から—. 文化看護学会誌, 6(1), 35-44, 2014.5
- 初田真人, 石垣和子: 訪問によるケアを提供している看護職者が認識する統合失調症を持つ人のエンパワメント. 日本赤十字豊田看護大学紀要, 10 (1), 109-121, 2015.3
- 石垣和子, 野口美和子, 大湾明美, 片倉直子, 細谷紀子: 島嶼における地域看護活動の展開方法に関する研究. 日本ルーラルナーシング学会誌, 11 (1), 27-42, 2016.3
- 山崎不二子, 野口美和子, 大湾明美, 石垣和子, 北村久美子: 看護学士課程における島嶼看護学教育の効果と課題. 日本ルーラルナーシング学会誌, 11 (1), 43-59, 2016.3
- 大湾明美, 石垣和子, 山崎不二子, 春山早苗, 北村久美子, 野口美和子: 島嶼看護学教育内容の体系化に関する研究. 日本ルーラルナーシング学会誌, 11 (1), 61-72, 2016.3
- Naho Sato, Akiko Araki, Ryuko Ito, Kazuko Ishigaki: Exploring the Beliefs of Japanese Mothers Caring for a Child With Disabilities. Journal of Family Nursing, 21 (2), 232-260, 2015.5
- 岩城直子, 牧野智恵: 外来で放射線療法中のがん患者への Purpose in Life Test を手がかりとした看護介入の効果. 日本がん看護学会誌, 29(2), 43-53, 2015.9
- 岩城直子, 牧野智恵: Purpose in Life Test を手がかりとした患者情報の共有に関する放射線治療部門医療関係者の評価—情報共有の効果と放射線治療部門におけるチーム医療の検討. 石川看護雑誌, 13, 45-54, 2016.3
- 大江真吾, 長谷川雅美: アスペルガー障害患児から暴言・暴力を受けた看護師の態度とかわりの様相. 看護実践学会誌, 28(1), 1-8, 2015
- Shingo Oe, Kazuyo Kitaoka, Kyoko Nagata: What patients with pervasive developmental disorders think of and expect from nurses. Journal of the Tsuruma Health Science Society, Kanazawa University, 39(1), 1-10, 2015
- 大木秀一: 多胎家庭における虐待死事例の検討 —多胎育児支援者の視点から—. 北陸公衆衛生学会誌, 42(1), 27-37, 2015.12
- 大木秀一, 彦聖美: 多胎家庭を対象とした育児支援と研究の両立. 石川看護雑誌, 13, 11-20, 2016.3
- Sun J., Kanagawa K., Sasaki J., Ooki S., Xu H., Wang L.: Tai chi improves cognitive and physical function in the elderly: a randomized controlled trial. Journal of Physical Therapy Science, 27(5), 1467-1471, 2015.5
- Silventoinen K., Jelenkovic A., Sund R., Honda C., Aaltonen S., Yokoyama Y., Tarnoki AD., Tarnoki DL., Ning F., Ji F., Pang Z., Ordoñana JR., Sánchez-Romera JF., Colodro-Conde L., Burt SA., Klump KL., Medland SE., Montgomery GW., Kandler C.,

McAdams TA., Eley TC., Gregory AM., Saudino KJ., Dubois L., Boivin M., Haworth CM., Plomin R., Öncel SY., Aliev F., Stazi MA., Fagnani C., D' Ippolito C., Craig JM., Saffery R., Siribaddana SH., Hotopf M., Sumathipala A., Spector T., Mangino M., Lachance G., Gatz M., Butler DA., Bayasgalan G., Narandalai D., Freitas DL., Maia JA., Harden KP., Tucker-Drob EM., Christensen K., Skytthe A., Kyvik KO., Hong C., Chong Y., Derom CA., Vlietinck RF., Loos RJ., Cozen W., Hwang AE., Mack TM., He M., Ding X., Chang B., Silberg JL., Eaves LJ., Maes HH., Cutler TL., Hopper JL., Aujard K., Magnusson PK., Pedersen NL., Aslan AK., Song YM., Yang S., Lee K., Baker LA., Tuvblad C., Bjerregaard-Andersen M., Beck-Nielsen H., Sodemann M., Heikkilä K., Tan Q., Zhang D., Swan GE., Krasnow R., Jang KL., Knafo-Noam A., Mankuta D., Abramson L., Lichtenstein P., Krueger RF., McGue M., Pahlen S., Tynelius P., Duncan GE., Buchwald D., Corley RP., Huibregtse BM., Nelson TL., Whitfield KE., Franz CE., Kremen WS., Lyons MJ., Ooki S., Brandt I., Nilsen TS., Inui F., Watanabe M., Bartels M., van Beijsterveldt TC., Wardle J., Llewellyn CH., Fisher A., Rebato E., Martin NG., Iwatani Y., Hayakawa K., Rasmussen F., Sung J., Harris JR., Willemsen G., Busjahn A., Goldberg JH., Boomsma DI., Hur YM., Sørensen TI., Kaprio J.: The CODATwins project: the cohort description of collaborative project of development of anthropometrical measures in twins to study macro-environmental variation in genetic and environmental effects on anthropometric traits. *Twin Research and Human Genetics*, 18(4), 348-360, 2015. 8

Ooki S.: Birth defects after assisted reproductive technology according to the method of treatment in Japan: nationwide data between 2004 and 2012. *Environmental Health and Preventive Medicine*, 20(6), 460-465, 2015. 11

大西陽子: クリティカルケア看護領域における人工呼吸器装着患者看護の変遷と今後の取り組みに関する文献的考察. *石川看護雑誌*, 13, 57-66, 2016. 3

加藤穰: 「アメリカ合衆国においてワクチン接種が拒否される理由」. 『医学哲学・医学倫理』日本医学哲学・倫理学会, 33, 41-51, 2015

金谷雅代, 西村真実子: 子どものグリーフケアに関する親の認識と実践の現状と困難性. *石川看護雑誌*, 13, 75-84, 2016. 3

金子紀子, 石垣和子, 阿川啓子: 農村地域で子育て中の母親が感じる母親自身の幼少期と現在における地域のつながり—ソーシャルキャピタルの検討—. *石川看護雑誌*, 13, 85-94, 2016. 3

川村みどり, 浅見洋, 塚田久恵, 北岡和代, 河村一海, 長田恭子, 森岡広美: 特別養護老人ホームの介護職員を対象とした“看取り”に関連する要因. *日本在宅ケア学会誌*, 19(2), 34-41, 2016. 3

森岡広美, 北岡和代, 川村みどり, 長田恭子, 河村一海: 外国人看護師の視点から見た海外からの看護労働力受け入れの定着化に向けた一考察—インドネシア人看護師受け入れ体制の実情調査から—. *看護実践学会誌*, 28(1), 46-54, 2016. 3

Keiko Kimori, Junko Sugama, Toshio Nakatani, Kazuya Nakayama, Tosiaki Miyati, and Hiromi Sanada: An observational study comparing the prototype device with the

- existing device for the effective visualization of invisible veins in elderly patients in Japan. SAGE Open Medicine , January–December 2015 vol. 3, 2015.11
- *笠井恭子, 小林宏光, 川島和代 : 要介護高齢者施設でのマット型睡眠計設置事例の紹介. 日本看護技術学会誌 , 14(2), 195–199, 2015.8
- *Nagaya S., Hayashi H, Fujimoto E, Maruoka N, Kobayashi H. : Passive ankle movement increases cerebral blood oxygenation in the elderly: an experimental study. BMC Nursing, 14, 14, 2015.4
- Kobayashi H., Miyazaki Y. : Distribution characteristics of salivary cortisol measurements in a healthy young male population. Journal of Physiological Anthropology, 11, 109, 2015.8
- Kobayashi H., Song C, Ikei H, Kagawa T, Miyazaki Y. : Analysis of individual variations in autonomic responses to urban and forest environments. Evidence based Complementary and Alternative Medicine, 2015, Article ID 671094, 7 , 2015.9
- Nakayama E, Kobayashi H, Kimura T, Kakihana W: Effects of continuous intervention for physical activity and walking for healthy older persons. International Journal of Nursing & Clinical Practices, 2, 133, 2015.7
- 曾山小織, 吉田和枝, 米田昌代 : 祖母の子育て経験と孫育てに対する意識との関連. 日本看護研究学会雑誌, 38(1), 139–150, 2015.4
- *米脇愛, 寺井梨恵子, 北山幸枝 : 手術中待機家族に対する術中訪問および看護援助の実態. 石川看護雑誌, 13, 105–113, 2016.3
- 中嶋知世, 大木秀一 : 石川県における外国人住民に対する支援の実態調査. 北陸公衆衛生学会誌, 42(2), 2016.3
- 中嶋知世, 大木秀一 : 石川県内外国人住民における健康課題の実態調査. 石川看護雑誌, 13, 115–125, 2016.3
- 中田弘子, 田村幸恵, 中嶋知世, 小林宏光, 川島和代 : 脳血管障害患者の拘縮手における微酸性電解水による洗浄方法の効果. 看護実践学会誌, 28(2), 31–37, 2016
- *伊達岡五月, 西村真実子 : ファミリーサポートセンターにおける子育て支援の実態と利用者の認識. 石川看護雑誌, 13, 21–32, 2016.3
- 子吉知恵美, 田村須賀子 : 発達障害を危惧した子どもと家族への多職種による支援を視野に入れた看護援助の特徴. 保健師ジャーナル, 72(2), 146–154, 2016.2
- Mochizuki M., Hayashi E., Yoshimura A., Toyoda Y., Mei L., Hasegawa N. : Effects of aerobic exercise on the intramuscular lipid and glycogen content of fiber types in soleus muscles of non-alcoholic steatohepatitis model rats. Open Journal of Endocrine and Metabolic Disease, 5, 131–137, 2015.10
- Hasegawa N., Ohara M., Mochizuki M. : Activity of salivary 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase type 2 becomes the index for the continuous strength exercise to prevent locomotive syndrome in Japan. Health, 7, 1352–1356, 2015.11
- 彦聖美, 大木秀一 : 男性介護者の健康に関連する社会的決定要因と支援の方向性. 石川看護雑誌, 13, 1–10, 2016.3

- 鈴木みずえ, 丸岡直子, 加藤真由美, 他 10 名: 老人保健施設の看護師による認知症高齢者のための転倒予防看護質指標の実態とその関連要因. 日本転倒予防学会誌, 2(1), 9-18, 2015. 6
- 池田富三香, 丸岡直子: 排泄援助における看護師の日常倫理. 日本看護倫理学会誌, 8(1), 62-69, 2016. 3
- 森田聖子, 中村美穂, 落合庸子, 小高祥子, 久米真代, 小林宏光, 高山成子: 認知症高齢者における急性疼痛に対する唾液アミラーゼ活性値の反応～大腿骨転子部骨接合術後の移乗動作前後での比較～. 石川看護雑誌, 13, 67-73, 2016. 3
- 森田聖子, 中道淳子, 小林宏光: 認知症高齢者に対する唾液アミラーゼ活性値測定の信頼性の検討. 日本看護技術学会誌, 14(1), 72-77, 2015. 4
- 吉田和枝: 10 代で出産したタイ南部の女性の妊娠前から産褥期にかけての心理社会的側面の変化. 国際保健医療, 30 (3), 241-250, 2015. 9
- 野沢ゆり乃, 米田昌代: 妊婦と医療者の口腔衛生に対する意識と保健指導の実際に関する文献検討. 石川看護雑誌, 13, 127-136, 2016. 3
- Yoneda M., Yoshida K., Soyama S., Shimada Y.: Post-discharge perinatal grief care and tentative design of a regional cooperation system. Journal of the Tsuruma Health Science Society, Kanazawa University, 39(2), 103-112, 2016. 1

6.2.2 査読無

- 田代志門, 浅見洋, 福島智子, 斎藤美恵: 欧州における「良い死」の多元性とその文化的・宗教的背景. 医学哲学医学倫理, 33, 87-88, 2015. 9
- 浅見洋: 鈴木大拙を読み直す『禅と日本文化』. 在家仏教, 64(762), 46-68, 2015. 11
- 浅見洋: 女性哲学者の初穂・高橋ふみー知識に磨かれることー. 点から線へ, 65, 2-35, 2016. 3
- 大木秀一: ライフコース疫学. 実験医学 増刊, 33(7), 1190-1195, 2015. 4
- 川島和代, 橋本智江: 介護と看護のより良い連携に向けた教育デザイン. 地域ケアリング, 17 (13), 82-85, 2015

6.3 その他の原稿

- 浅見洋: 西田哲学会第13回年次大会シンポジウム報告. 西田哲学会会報, 13, 2-3, 2015. 11
- 浅見洋: 第 17 回心と魂のケアとホスピス研修旅行に参加して. スピリチュアルケア, 65, 17-18, 2015. 10
- 浅見洋: ドイツ語圏の医療福祉におけるゼールゾルゲの展開とその現在. 平和中島財団平成 26 年度国際学術研究助成研究成果報告書, 71-72, 2015. 10
- 浅見洋: 小野寺功『随想 西田哲学から聖霊神学へ』書評「日本哲学史上の一つの創造的胎動」. 図書新聞, 3237, 6, 2016. 1

- 岩城直子： FD・SD 研修会「がん経験者の在宅生活を支えるー能登地区の在宅における看取りの実際からー」を開催して．平成 27 年度北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告書，40-41，2016.3
- 大木秀一： 多胎を対象とした研究について．JAMBA メールマガジン，47，2015.10
- 大木秀一： 石川県における多胎家庭への育児支援ーいしかわ多胎ネット設立 10 周年を迎えてー．石川自治と教育 新春号，694，35-47，2016.1
- 大木秀一： 多胎児家庭の育児支援に役立つ図と表 2016（平成 28）年作成版，1-21，2016
- 大木秀一： 2015 年全国多胎サークル調査 結果報告（第 1 報），1-10，2016
- 川島和代，浅見洋，吉田和枝，垣花涉他 4 名： 平成 27 年度大学間連携共同教育推進事業 ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト．平成 27 年度大学間連携共同教育推進事業 事業報告書，別冊，3-6，2016.3
- 多久和典子： 着実に改訂された基礎から臨床へとつながる問題集．看護師国家試験 解剖生理学クリアブック（第 2 版） 書評，2015.12
- 塚田久恵： CCAC (Tronto Central Community Care Access Centre) 視察報告ーCCAC の役割とケアシステム、人材育成ー．北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告書，56-57，2015
- 林一美： ”現場の声”を参考にしよよりよい”在宅看護”実習をめざす．コミュニティケア，17(13)219，37-41，2015.11
- 山崎真理亜，舟田眞美，林一美： 封入体筋炎とともに生きるー封入体筋炎と診断を受けた患者の思いと経験ー(患者の手記より)．難病と在宅ケア，20(10)，43-47，2015.1
- 大黒理恵，林静子： アイカメラが教えてくれること．日本看護技術学会誌，14(1)，59-60，2015.4
- 牧野智恵： 親子の楽しい時間．平成 27 年度石川県立看護大学地域総合センター事業報告書，12，23，2015.11
- 牧野智恵： がん看護事例検討会．平成 27 年度石川県立看護大学地域総合センター事業報告書，12，9，2015.11
- 牧野智恵： 「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プランの概要と本学におけるがん看護専門看護師養成の取り組み」・インテンシブコースについてー「インテンシブ A」「地域がん看護師養成コース」「地域がん看護活性化コース」・「2015 カナダ緩和ケア視察研修～がんサバイバーとして生きる意味を問う～」・「Dr. Paul Wsong による ”Spiritual care in palliative nursing”の講義」・「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プランの発展に向けて」．平成 27 年度 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン事業報告書，3，9，53，54，59，2016.3
- 丸岡直子： 在宅療養移行支援研究会．石川県在宅医療推進事業活動事例集，57-58，2016.3

6.4 学会発表

- 浅見洋，彦聖美，浅見美千江： ルーラルエリアにおける住民の死生観と終末期療養希望の変容，日本ルーラルナーシング学会 第 10 回学術集会，栃木，2015.8，第 10 回日本ルーラルナーシング学会学術集会 講演集，44-45，2015

- *河端久美子, 浅見洋: 東海北陸地方における死産のグリーフケア～実施状況と使用されているもの～, 看護実践学会、第9回学術集会, 金沢, 2015.9, 第9回看護実践学会学術集会 講演集, 44-45, 2015
- 浅見美千江, 浅見洋, 彦聖美: 自宅で親を看取った経験について —ルーラルエリアの調査から—, 第20回日本在宅ケア学会学術集会, 東京, 2015.7, 第20回日本在宅ケア学会学術集会 講演集, 95, 2015
- 石川倫子, 小村三千代, 岩本郁子, 児玉菜桜: 新たな役割拡大を担う看護師が抱えている困難と対応の経時的変化, 第19回日本看護管理学会学術集会, 福島, 2015.8, 第19回日本看護管理学会学術集会抄録集, 221, 2015
- 石川倫子, 丸岡直子: 看護師の患者・家族に対する在宅療養移行支援における臨床判断, 第35回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2015.12, 第35回日本看護科学学会学術集会抄録集, 400, 2015
- 松本晶愛, 池田真弓, 山田良子, 津田朋子, 安田千鶴, 石川倫子: からだをみる力を育成する科目の構築(第2報), 第9回看護実践学会学術集会, 金沢, 2015.9, 第9回看護実践学会学術集会抄録集, 82-83, 2015
- Keiko Agawa, Kazuko Ishigaki, Katue Mihara: Investigation Regarding Support of Home-Visit Nurses for Mothers of Children having High Medical Dependency and Receiving Homecare: Comparison between Nurses With and Without Work Experience in Pediatric Wards, 12th International Family Nursing Conference, オーストラリア/デンマーク, 2015.08
- Akiko Araki, Kazuko Ishigaki, Naho Sato, Mayuko Tsujimura: The Intervention Trial in Discharge Planning Using the Family Support Guideline in Japan: Focusing on the Families' Constraining Beliefs, 12th International Family Nursing Conference, オーストラリア/デンマーク, 2015.08
- 野口美和子, 大湾明美, 石垣和子, 山崎不二子, 北村久美子: 島嶼看護学教育内容の体系化に関する研究—学士課程・博士前期課程・博士後期課程の教育目標・教育内容・教育方法—, 第10回ルーラルナース学会, 宇都宮, 2015.08, 第10回ルーラルナース学会抄録集, 66, 2015
- 石垣和子, 大湾明美, 宮崎美砂子, 山本春江, 塚田久恵, 米澤洋美, 阿川啓子, 金子紀子, 曽根志穂, 北野浩子, 角地孝洋: 近年の地域保健を取り巻く環境の変化と保健師活動の様相に関する研究, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015.11, 第74回日本公衆衛生学会抄録集, 515, 2015
- 辻村真由子, 佐藤奈保, 荒木暁子, 伊藤隆子, 石垣和子: 家族の拘束的ビリーフに着目した家族支援ガイドラインの評価: 病棟看護師による試用をとおして, 第35回日本看護科学学会, 広島, 2015.12, 第35回日本看護科学学会学術集会講演集, 560, 2015
- 井上智可, 林一美: 訪問看護師の精神科医師との円滑な連携に関連する要因, 日本在宅看護学会, 東京, 2015.11, 第5回日本在宅看護学会学術集会抄録集, 134, 2015
- Inoue C., Hayashi H.: Treating bodies and Minds: Creating a new partnership between home visiting nurses and psychiatrists, The 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, Chiba, Japan, 2016.3, 201-202, 2016

- Ooki S. : Maternal Age and Birth Defects after the Use of Assisted Reproductive Technology in Japan., The 21st COGI Innovation in Reproductive Medicine, Frankfurt Deutschland, 2015.5
- 大木秀一, 彦聖美 : 多胎育児支援者の視点からみた多胎家庭における虐待死事例の検討, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015.11, 日本公衆衛生学会誌、第74回日本公衆衛生学会総会抄録集, 62(10), 303, 2015
- 大木秀一 : 多胎家庭を対象とした育児支援と研究の両立 (シンポジウム:30周年を迎えた日本双生児緩急学会のこれまでとこれから), 日本双生児研究学会第30回学術講演会, 東京, 2016.1, 第30回日本双生児研究学会学術講演会 プログラム・抄録集, 6, 2016
- 大木秀一 : 国内での生殖補助医療と多胎出生の動向 -近年の多胎出生割合の減少傾向鈍化に関して-, 日本双生児研究学会第30回学術講演会, 東京, 2016.1, 第30回日本双生児研究学会学術講演会 プログラム・抄録集, 12, 2016
- 天羽千恵子, 山岸和美, 青木三枝子, 河原廣子, 玄田朋恵, 原範子, 糸井川誠子, 大木秀一 : 多胎育児支援者の視点からみた多胎家庭における虐待死事例の検討, 日本双生児研究学会第30回学術講演会, 東京, 2016.1, 第30回日本双生児研究学会学術講演会 プログラム・抄録集, 13, 2016
- Ooki S. : The Relationship between Single Embryo Transfer rate and Multiple Pregnancy Rate in Japan, Nationwide Data between 1992-2013, The 23th World Congress on Controversies in Obstetrics, Gynecology & Infertility (COGI) , Melbourne Australia, 2016.3
- 岡本修子, 織田初江 : 基本チェックリストによる属性別の健康課題の検討とその対策, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015.11, 日本公衆衛生学会誌、第74回日本公衆衛生学会総会抄録集, 62(10), 358, 2015
- 垣花渉 : 課題解決型授業で健康力を高める (シンポジウム:いしかわ発 健康な若者を育てる), 第2回いしかわ大学健康教育セミナー, 金沢, 2015.6
- 垣花渉 : 健康の課題解決学習を通じた生活意欲の向上-看護学生のセルフケア力を高める授業を目指して-, 初年次教育学会第8回大会, 立川, 2015.9, 初年次教育学会第8回大会発表要旨集, 82-83, 2015
- 垣花渉 : 地域の社会的ネットワークを活かした高齢者の健康づくり (シンポジウム:健康寿命延伸と健康科学), 第23回日本介護福祉学会大会, 金沢, 2015.9, 第23回日本介護福祉学会大会発表報告要旨集, 14, 2015
- 垣花渉 : 高齢者の転倒予防に係わる体力に及ぼす生活活動量の影響, 第23回日本介護福祉学会大会, 金沢, 2015.9, 第23回日本介護福祉学会大会発表報告要旨集, 93, 2015
- 垣花渉 : 看護学生と共につくる「健康のまち・むら」, 日本アダプテッド体育・スポーツ学会サマーセミナー, 金沢, 2015.9
- 垣花渉 : 「石川県立看護大学の初年次教育科目『フィードル実習』-地域を舞台にしたスタディ・スキル教育の実践と展開」 (シンポジウム:初年次教育科目におけるアクティブ・ラーニングの実践), 平成27年度初年次教育学会実践交流会, 金沢, 2015.12

垣花渉, 水本菜々, 羽左間成美, 新田明里 : 看護学生の“地域を守りたい”思いをカタチに—互惠と振り返りは限界集落に活気を与え、学生を自律させる—, 社会人基礎力育成グラ
ンプリ 2016 中部地区大会 , 尾張旭, 2015.12

KATO, Yutaka. : Genetically modified organisms (GMOs) as a prominent example of
unsuccessful public acceptance in Japan , VI French-Japanese International
Conference on Bioethics (International Association of Law, Ethics and Science),
Saint-Étienne, France, 2015.9, VI French-Japanese International Conference on
Bioethics , 6, 2015

KATO, Yutaka. : Foreseeing and preparing for ethical, legal, and social implications
of communication robots used in care settings, The 12th International Scientific
Conference of the International Society for Clinical Bioethics, Bol, Croatia, 2015.9,
The 12th International Scientific Conference of the International Society for
Clinical Bioethics, Book of Abstracts, 12, 21, 2015

金子紀子, 石垣和子, 浅村好恵, 尾蔵清佳 : 幼児を育てる母親の近所とのつながりと育児ス
トレス、育児マスターリーの関係, 日本地域看護学会第 18 回学術集会, 横浜, 2015.8, 日
本地域看護学会第 18 回学術集会講演集, 76, 2015

Kaneko N., Ishigaki K. : Research on the Family Form of Child-rearing Families,
Child-rearing Mastery, and Child-rearing Stress in Japan -Comparison of the Family
Form between the Current and the Mother’s Childhood, 12th International Family
Nursing Conference, Odense, Denmark, 2015.8, IFNC12_Final Poster_Abstract_Session2.pdf,
224, 2015

川島和代, 丸岡直子, 石垣和子, 田村幸恵 : 石川県における看護職員の離職・再就業の循環
を支援する方略, 第 9 回看護実践学会学術集会, 金沢, 2015.9, 第 9 回看護実践学会
学術集会講演集, 90-91, 2015

*北村晴菜, 三輪早苗, 川島和代 : 初めて患者を受け持つ学生の看護過程展開における困難
感と対処方法, 日本看護研究学会第 41 回学術集会, 広島, 2015.8, 日本看護研究学会
第 41 回学術集会抄録集, 2015

石本佑, 木森佳子, 古市佑哉, 久保守, 佐藤賢二 : 近赤外画像を用いた穿刺支援システム,
第 3 回看護理工学会学術集会, 京都, 2015.10, 第 3 回看護理工学会学術集会プログラ
ム・概要集, 31, 2015

澤由莉, 木森佳子, 谷内葵, 堀田紗弓 : 静脈穿刺による皮下出血に伴う症状と思い, 日本
看護技術学会第 14 回学術集会, 松山, 2015.10, 日本看護技術学会第 14 回学術集会講
演抄録集, 79, 2015

谷内葵, 木森佳子, 澤由莉, 堀田紗弓 : 高齢者の口腔内不快感の日内変動と症状, 日本看
護技術学会第 14 回学術集会, 松山, 2015.10, 日本看護技術学会第 14 回学術集会講演
抄録集, 85, 2015

堀田紗弓, 木森佳子, 谷内葵, 澤由莉 : 高齢者の皮膚バリア機能に関する基礎調査, 日本
看護技術学会第 14 回学術集会, 松山, 2015.10, 日本看護技術学会第 14 回学術集会講
演抄録集, 2015

- 小林宏光, 宮崎良文 : コルチゾール測定値の個人間変動の分布特性, 日本生理人類学会 第 72 回大会, 札幌, 2015.5, 日本生理人類学会誌, 20(suppl.1), 2015
- 清水暢子, 梅村朋弘, 松永昌宏, 平井一芳 : 軽度認知高齢者への鳴子を使用した音楽運動療法の効果, 第 20 回認知神経科学学会学術集会, 東京, 2015.8, 認知神経科学, 17(2), 102, 2015
- 下川幸蔵, 清水暢子, 梅村朋弘, 平井一芳, 堀敦志, 幸信歩 : 統合失調症患者におけるバーチャルリアリティゲームが及ぼす影響, 第 20 回認知神経科学学会学術集会, 東京, 2015.8, 認知神経科学, 17(2), 104, 2015
- 清水暢子 : 精神障害者の社会的孤立予防を目指した介入研究～二重課題が前頭葉機能に及ぼす影響の検討～, 第 18 回日本地域看護学会学術集会, 横浜, 2015.8, 第 18 回日本地域看護学会講演集, 119, 2015
- Nobuko Shimizu, Tomohiro Umemura, Takayoshi Hirai, Kozo Shimokawa, : Effect of the virtual reality sports game on the frontal lobe blood flow of resident schizophrenia patients., The International Congress on NeuroRehabilitation and Neural Repair, Netherlands, 2015.5, Congress on NeuroRehabilitation and Neural Repair2015 Programme and Proceedings Book, 110, 2015
- Nobuko Shimizu, Tomohiro Umemura, Masahiro Matsunaga, Takayoshi Hirai, : Effects of Movement Music Therapy with the Naruko Clapper on Physical and the Frontal Lobe Function of Elderly Individuals with Mild Cognitive Impairment, the 1st Asia-Oceanian Congress for NeuroRehabilitation, Korea, 2015.9, Asia-Oceanian Congress for NeuroRehabilitation ABSTRACT BOOK, 69, 2015
- Kozo Shimokawa, Nobuko Shimizu, Tomohiro Umemura, Takayoshi Hirai, Atsushi Hori, Shihou Yuki, : Effects of Virtual Reality Games on Schizophrenic Patients, the 1st Asia-Oceanian Congress for NeuroRehabilitation, Korea, 2015.9, Asia-Oceanian Congress for NeuroRehabilitation ABSTRACT BOOK, 46, 2015
- 曾根志穂, 石垣和子 : 被災地学生ボランティア活動の継続による看護学生の変化, 第 74 回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015.11, 日本公衛誌, 第 74 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 62(10), 507, 2015
- Saori S., Kazue Y., Masayo Y. : Midwifery Care Promoting Health-Related Behaviors Among Pregnant Women, The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015, 横浜, 2015.7, The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015 Program & Abstract Book, 191, 2015
- 曾山小織, 吉田和枝, 米田昌代 : 子どもがいない中年女性の語り : 子どもがいない人生の選択, 第 56 回日本母性衛生学会, 盛岡, 2015.10, 母性衛生, 第 56 回日本母性衛生学会学術集会抄録集, 56(3), 237, 2015
- 高山成子, 磯光江 : THE CHARACTERISTICS OF DIFFICULTY OF A NURSE FOR DEMENTIA ELDERLY NEEDING REST BY HEMODIALYSIS, 30TH International Conference of Alzheimer's Disease International, パース(オーストラリア), 2015. 10, 30TH International Conference of Alzheimer's Disease International Program, 72, 2015

- 高山成子, 竹村亜衣, 渡辺一美, 小林佐知子: 高齢者の下肢浮腫と下肢冷感の実態—車いす使用高齢者と独歩高齢者との比較, リハビリテーション・ケア合同研究大会, 神戸, 2015. 10, リハビリテーション・ケア合同研究大会プログラム, 260, 2015
- 安藝翔, 吉岡和晃, 岡本安雄, 多久和典子, 多久和陽: クラス II α 型 PI3K-C2 α はエンドソーム上での TGF β /Smad2/3 シグナリングに必須である, 第57回 日本脂質生化学会, 東京, 2015. 5, 脂質生化学研究, 57, 52-54, 2015
- Takuwa Y, Zhao J, Okamoto Y, Yoshioka K and Takuwa N: Role of S1P2 in inflammation and fibrosis, 14 th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation, and Related Diseases, Plenary Lecture (招待講演), Budapest, 2015. 7, Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, 14, 51, 2015
- Aki S, Yoshioka K, Okamoto Y, Takuwa N & Takuwa Y: Phosphatidylinositol 3-kinase class IIalpha isoform PI3K-C2alpha is required for transforming growth factor beta-induced receptor endocytosis and endosomal signaling in endothelial cells, 14th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, Budapest, 2015. 7, Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, 14, 140, 2015
- Okamoto Y, Cui H, Yoshioka K, Takuwa N and Takuwa Y: Sphingosine 1-phosphate receptor-2 plays a protective role against anaphylaxis and acute lung injury, 第10回スフィンゴセラピー (STC) 研究会, 石川県河北郡, 2015. 6, Proceedings of the 10th Congress on Sphingotherapy Research, 10, 23, 2015
- 安藝翔, 吉岡和晃, 岡本安雄, 多久和典子, 多久和陽: クラス II PI3-キナーゼ PI3K-C2 α はエンドソーム上での TGF β /Smad2/3 シグナリングに必須である, 第62回 中部日本生理学会, 富山市, 2015. 11, 第62回中部日本生理学会抄録集, 62, 15, 2015
- Zhao J, Okamoto Y, Yoshioka K, Aki S, Hoa PQ, Kabir Sarker AMD, Thuzar Aung K, Takuwa N, et al.: Deletion of sphingosine 1-phosphate (S1P) receptor-2 (S1P2) inhibits lung fibrosis through altering alveolar macrophage polarization and senescence in mice., BMB2015 第38回日本分子生物学会・第88回日本生化学会, 神戸市, 2015. 12, The Journal of Japanese Biochemical Society, 87 Suppl. 1, 108, 2015
- Aki S, Yoshioka K, Okamoto Y, Takuwa N & Takuwa Y: PI3K-C2 α is required for TGF β -induced receptor endocytosis and endosomal signaling in endothelial cells, 第93回日本生理学会大会 (シンポジウム招待講演), 札幌市, 2016. 3, The Journal of Physiological Sciences, 66 Suppl. 1, 56, 2016
- 武山雅志: 看護学生のコミュニケーションスキルの特徴 —看護学生と他大学学生の比較—, 日本パーソナリティ心理学会第24回大会, 札幌, 2015. 8, 日本パーソナリティ心理学会第24回大会発表論文集, 51, 2015

- 武山雅志, 曾根志穂, 金谷雅代, 石垣和子: 被災地ボランティア活動における看護学生の学び -被災地住民とともに学ぶ-, 日本災害看護学会第17回年次大会, 仙台, 2015.8, 日本災害看護学会誌第17回年次大会講演集, 17(1), 113, 2015
- Inoue M, Yayama S, Tanimoto C, Endo Y, Yamakawa M, Makimoto K: Characteristics of Patients Experiencing Aspiration or Asphyxiation in a Japanese Psychiatric Hospital, ICN (International Council of Nurses) Conference and CNR, Seoul, 2015.6, ICN Conference and CNR list of parallel sessions, 37, 2015
- 酒井伸隆, 南貴博, 松井諭, 大江真吾, 谷本千恵: 医療介護職の妻と未就学児を家族に持つ精神科男性看護師のワークライフバランスの充足度と支援ニーズの実態, 第46回日本看護学会-看護管理-学術集会, 福岡, 2015.9, 第46回日本看護学会-看護管理-学術集会抄録集, 148, 2015
- Tomomi Kajiwara, So Yayama, Chie Tanimoto, Kei Matoba, Sayaka Suga, Masue Inoue, Shunji Suto, Yoshimi Endo, Miyae Yamakawa, Kiyoko Makimoto: Analysis of incident reports of absconding behavior at a Japanese psychiatric hospital over a 12-year period, WANS(World Academy of Nursing Science) The 4th International Nursing Research Conference, Hannover, 2015.10, WANS The 4th International Nursing Research Conference, 6, 2015
- Kei Matoba, So Yayama, Chie Tanimoto, Tomomi Kajiwara, Masue Inoue, Sayaka Suga, Shunji Suto, Yoshimi Endo, Miyae Yamakawa, Kiyoko Makimoto: Long-term trend of medication errors in a Japanese psychiatric hospital, WANS(World Academy of Nursing Science) The 4th International Nursing Research Conference, Hannover, 2015.10, WANS The 4th International Nursing Research Conference, 8, 2015
- Sayaka Suga, Chie Tanimoto, So Yayama, Kei Matoba, Miyae Yamakawa, Kiyoko Makimoto: The pattern of fall incidents at a psychiatric hospital in Japan:a quantitative and qualitative analysis of incident reports, IAGG (International Association of Gerontology and Geriatrics) Congress 2015, Chian Mai, 2015.10, IAGG Congress 2015, P060,
- 谷本千恵, 矢山壮, 的場圭, 梶原友美, 周藤俊治, 井上万寿江, 遠藤淑美, 山川みやえ, 牧本清子: 精神科病院のインシデントレポートにおける自傷、自殺企図に関する分析, 第35回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2015.12, 第35回日本看護科学学会学術集会抄録集, 241, 2015
- 千原裕香, 西村真実子, 金谷雅代, 本部由梨, 伊達岡五月, 寺井孝弘, 成田みぎわ: 次世育成をめざした高校生対象の「親子交流授業プログラム」評価尺度の作成-第2報-, FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会 第18回全国学術集会, 弘前, 2015.10, FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会 第18回全国学術集会, 45, 2015
- 塚田久恵: 半島に暮らす人々のヘルスリテラシーの特徴と保健行動改善に向けての探索的研究, 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015.10, 第74回日本公衆衛生学会総会抄録集, 62(10), 300, 2015

- 藤野雅子, 時兼和美, 丹後晴美, 北野浩子, 塚田久恵: 珠洲市における高齢者の主体性を引き出す地域づくり型介護予防活動に関する取り組み—百歳体操を通して—, 第 43 回北陸公衆衛生学会, 金沢, 2015. 11, 第 43 回北陸公衆衛生学会講演集, 42, 16, 2015
- 中田弘子, 田村幸恵, 三輪早苗, 川島和代: 脳血管障害患者の拘縮手の洗浄における微酸性電解水の効果, 日本看護研究学会, 京都, 2016, 3, 5, 日本看護研究学会第 29 回近畿・北陸地方会学術集会抄録集, 26, 2016
- 中道淳子, 伊達ひかり, 村谷真菜, 藤野間剛, 森田聖子: 認知症高齢者の口腔状態・機能の向上を目指した笑いヨガの試み—第 1 報: 笑いヨガプログラムの作成と適応方法の検討—, 日本認知症ケア学会第 16 回大会, 札幌, 2015. 5, 日本認知症ケア学会誌, 14(1), 244, 2015
- 西村真実子, 米田昌代, 金谷雅代, 曾山小織, 千原裕香, 坂本洋子, *伊達岡五月, 永井章子, 塚脇京子, 柏木栄子, 加藤和子: 育児不安や困難をもつ乳児の母親が集う場「めばえ」の効果(第 1 報), 第 26 回石川県小児保健協会, 金沢, 2015. 9, 第 26 回石川県小児保健協会プログラム・講演集, 4, 2015
- 西村真実子, 米田昌代, 金谷雅代, 曾山小織, 千原裕香, *伊達岡五月, 永井章子, 塚脇京子, 柏木栄子, 加藤和子: 育児不安や困難をもつ乳児の母親が集う場「めばえ」の効果(第 2 報), FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会 第 18 回全国学術集会弘前大会, 弘前, 2015. 10, FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会 第 18 回全国学術集会弘前大会, 42, 2015
- 成田みぎわ, 西村真実子, 千原裕香, 金谷雅代, 本部由梨, *伊達岡五月, *寺井孝弘: いしかわ子育て支援財団親子交流プログラム検討会 次世代育成をめざした高校生対象の「親子交流プログラム」評価尺度の作成—第 1 報—, FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会 第 18 回全国学術集会弘前大会, 弘前, 2015. 10, FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会 第 18 回全国学術集会弘前大会, 44, 2015
- 西村真実子: 子どもの育ちとヘルスプロモーション～虐待予防の観点から考える～, 第 46 回日本看護学会ヘルスプロモーション学術集会(交流集会Ⅳ), 富山, 2015. 11, 第 46 回日本看護学会ヘルスプロモーション学術集会抄録集, 60, 2015
- Chiemi Neyoshi, Tamura sugako: Study on the types of tailored support public health nurses can provide to the parents of children with autism spectrum disorder, depending on the levels of parental acceptance of the disorder, 6th International Collaboration for Community Health Nursing Research, Seoul, 2015. 8, ICCHNR/2015 SEOUL, 41, 2015
- 子吉知恵美, 田村須賀子: 発達障害児と育児者に対して多職種による支援を視野に入れた保健師の援助, 第 18 回地域看護学会学術集会, 横浜, 2015. 8, 日本地域看護学会第 18 回学術集会, 191, 2015
- 子吉知恵美, 田村須賀子: 発達障害を危惧する子どもの保護者の受容状況に応じた保健師の支援, 第 74 回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015. 11, 日本公衆衛生雑誌, 62 (10), 322, 2015
- Chiemi Neyoshi, Tamura sugako: Support for parents of children with autism spectrum disorder, tailored to the level of parental acceptance studied from the perspective

- of support by public health nurses , 19th EAFONS, 千葉, 2016. 3, 19th EAFONS , 173, 2016
- Mochizuki M., Hasegawa N. : Effect of weekly 35-min 4.4 METs exercise (Choitore) on body composition and bone mineral density of assembly line women, 12th Asian Congress of Nutrition, Yokohama, 2015.5, ACN2015 Abstract book, 451, 2015
- 林一美, 井上智可 : 介護プロセスにおける在宅家族介護者の在宅移行の特徴, 日本在宅看護学会, 東京, 2015.11.21, 日本在宅看護学会誌, 4(1), 98, 2015
- 彦聖美 : 介護支援専門員が捉える男性介護者の特徴—北陸3県における質問紙調査より—, 第20回日本在宅ケア学会学術集会, 東京, 2015.7, 第20回日本在宅ケア学会学術集会講演集, 20, 94, 2015
- 彦聖美, 大木秀一 : 男性介護者に対する料理教室を通じての地域社会との交流促進と栄養評価, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015.11, 日本公衛誌, 第74回日本公衆衛生学会総会抄録集, 62(10), 391, 2015
- 彦聖美, 大木秀一 : 男性介護者と地域住民グループとの交流によるパートナーシップの発展とその高価に関する研究—「食の交流会」を通して—, 第43回北陸公衆衛生学会, 石川, 2015.11, 北陸公衆衛生学会誌, 第43回北陸公衆衛生学会講演集, 42, 14, 2015
- 菅谷洋子, 所ミヨコ, 牧野智恵 : 女子看護学生におけるコーピング・睡眠時間・自己効力感と精神健康状態の関係, 第46回日本看護学会, 富山, 2015.11.6, 第46回日本看護学会 (ヘルスプロモーション) 学術集会 抄録集, 118, 2015
- 佐伯千尋, 牧野智恵 : 術後膵臓がん患者の人生観—PILテストを通して—, 第20回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, 2015.6, 第20回日本緩和医療学会学術大会 抄録集, 225, 2015
- 原子裕子, 牧野智恵 : 抗EGFR抗体薬投与中の患者への看護師によるスキンケア指導の効果—セツキシマブ投与中のがん患者対象に—, 第20回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, 2015.6, 第20回日本緩和医療学会学術大会 抄録集, 394, 2015
- 牧野智恵, 岩城直子, 加藤亜妃子 : (交流集会) 看護実践におけるロゴセラピーの活用, 日本看護科学学会, 広島, 2015.12, 第35回日本看護科学学会学術集会 講演集, 200, 2015
- 上埜千春, 牧野智恵, 長谷川昇, 我妻孝則 : 化学療法中の造血器腫瘍患者に対する口腔ケアの有効性に及ぼす緑茶の効果, 第30回日本がん看護学会, 千葉, 2016.2, 第30回日本がん看護学会学術集会 講演集, 第30巻, 42, 2016
- 正源寺美穂, 北村和子, 中田晴美, 湯野智香子, 松本智里, 泉キヨ子, 高田大輔, 平松知子 : 高齢患者の転倒リスク軽減にむけた夜間の排泄と睡眠状況の解析 (第2報) 夜間頻尿のため転倒リスクのある高齢患者の夜間の排泄と睡眠, 第28回日本老年泌尿器科学会, 静岡, 2015.5, 第28回日本老年泌尿器科学会 プログラム・抄録集, 28, 2015
- 正源寺美穂, 湯野智香子, 松本智里, 泉キヨ子, 高田大輔, 平松知子 : 急性期病院において夜間頻尿のある高齢患者の排泄・睡眠状況, 日本老年看護学会第20回学術集会, 神奈川, 2015.6, 日本老年看護学会第20回学術集会 抄録集, 20, 2015
- 正源寺美穂, 北村和子, 中田晴美, 湯野智香子, 泉キヨ子, 松本智里, 平松知子 : 夜間頻尿に伴い転倒リスクのある高齢患者の排泄と睡眠状態の関係, 第28回北陸排尿障害研究会, 石川, 2015.7, 北陸排尿障害研究会プログラム, 2015

- 丸岡直子, 吉田千文, 石川倫子, 樋口キエ子: 外来-病棟連携による在宅療養移行支援システム構築における看護管理者の役割, 第19回日本看護管理学会学術集会, 福島, 2015.8, 第19回日本看護管理学会学術集会抄録集, 245, 2015
- 辻清美, 丸岡直子: 終末期がん患者の退院支援に対する看護師の姿勢と行動-緩和ケア病棟の看護師に焦点をあてて-, 第19回日本看護管理学会学術集会, 福島, 2015.8, 第19回日本看護管理学会学術集会抄録集, 246, 2015
- 栗津陽絵, 丸岡直子, 林静子: 看護学生の転倒リスク場面に対する資格による観察とアセスメント, 日本看護技術学会第14開学術集会, 松山, 2015.10, 日本看護技術学会第14開学術集会公園抄録集, 65, 2015
- 松井康一, 丸岡直子: 専従医療安全管理者の業務遂行上の負担感と影響要因-医療安全に関する職員研修に焦点をあてて-, 第10回医療の質・安全学会学術集会, 千葉, 2015.11, 第10回医療の質・安全学会学術集会プログラム・抄録集, 313, 2015
- 丸岡直子, 石垣和子, 川島和代, 田村幸恵, 浅見美千江, 田甫久美子: I県下で就労する看護師の退職・再就業の経緯とその背景要因, 第35回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2015.12, 第35回日本看護科学学会学術集会講演集, 354, 2015
- 南堀直之, 村井嘉子: 安静降圧療法を受ける急性大動脈解離患者に対する看護実践の構造, 第11回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 福岡, 2015.6, 第11回日本クリティカルケア看護学会学術集会抄録集, 11(2), 154, 2015
- 吉田和枝, 米田昌代, 長谷川昇, 曾山小織: 化粧に対する意識と化粧行動についての調査, 第9回看護実践学会学術集会, 金沢, 2015.9, 第9回看護実践学会学術集会講演集, 80-81, 2015
- 道谷内愛, 吉田和枝: 文献検討からみた就労女性の母乳育児継続の課題, 第30回日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3, 日本助産学会誌, 29(3), 661, 2016
- Yoneda M., Yoshida K., Soyama S., Shimada Y.: The suggestion of an inter-regional collaboration system model. in Japan, post-discharge grief support in Japanese Obstetrics Departments and NICUs for mothers and families following perinatal death, The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015, 横浜, 2015.7, The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015 Program & Abstract book, 214, 2015
- 野沢ゆり乃, 米田昌代: 妊婦の口腔衛生に関する文献検討, 第30回北陸母性衛生学会学術総会, 金沢, 2015.7, 第30回北陸母性衛生学会学術総会プログラム・講演集, 15-16, 2015
- 池田美音, 米田昌代: 災害が妊産婦や母親に及ぼす影響と必要な看護についての文献検討, 第30回北陸母性衛生学会学術総会, 金沢, 2015.7, 第30回北陸母性衛生学会学術総会プログラム・講演集, 18-19, 2015

6.5 社会活動・地域貢献

浅見洋: 西田哲学会理事

浅見洋: 日本宗教学会理事、学会賞選考委員

浅見洋：比較思想学会評議員、北陸支部会長
浅見洋：北陸宗教文化学会長、編集委員
浅見洋：日本医学哲学・倫理学会評議員、運営委員
浅見洋：石川県西田幾多郎記念哲学館運営委員（会長）
浅見洋：かほく市総合計画審議会委員
浅見洋：公益信託能登町エンデューバーファンド21 運営委員
浅見洋：西田幾多郎博士頌徳会理事
浅見洋：能登キャンパス構想推進協議会理事
浅見洋：北國新聞主催「新聞を読んで感想文コンクール」審査員
浅見洋：石川県民大学（専門講座）西田幾多郎講座「手で思索すること—高田博厚と西田哲学—」，石川県西田幾多郎記念哲学館 2015.4
浅見洋：在家仏教会「定期講演会」鈴木大拙を読み直す—鈴木大拙を学び、生き方を考える—「鈴木大拙全集「禅と日本文化」」，協和発酵キリン（東京）2015.4
浅見洋：西谷啓治の生涯と思想，金沢星稜大学 2015.6
浅見洋：市民公開講座「金沢学」「キャリア女性の先駆者—高橋ふみの生涯—」，北國新聞社 2015.7
浅見洋：平成27年度 感染管理看護師認定教育課程「生命倫理学」講師「Ⅰ. 看護倫理とは・Ⅱ. 看護実践における倫理理論の用い方」「Ⅲ. ケアの倫理と看護倫理・Ⅳ. 感染看護における倫理問題」，石川県立看護大学 2015.7
浅見洋：第35回夏期哲学講座「哲学と悲哀——『国文学史講話』の序を読む」，石川県西田幾多郎記念哲学館 2015.8
浅見洋：第35回夏期哲学講座「現代人の死生観——『終の棲家』を考える」，石川県西田幾多郎記念哲学館 2015.8
浅見洋：いしかわ長寿大学卒業式記念講演「人生の悲哀について～西田幾多郎の生き方を通して～」，石川県社会福祉会館 2015.9
浅見洋：高砂大学校「鈴木大拙にふれる」全3回，金沢中央公民館 2015.9～10
浅見洋：平成27年度石川県看護協会研修「看護者における倫理」，石川県地場産業振興センター2015.10
浅見洋：金沢検定講座（初・中級）「偉人と教育」，北國文化センター2015.10
浅見洋：志賀町富来郷土史研究会講演会「人生の悲哀について—西田幾多郎の生き方を通して—」，富来地域活性化センター2015.10
浅見洋：石川県民大学（専門講座）西田幾多郎講座「西田幾多郎の生涯—生涯を越えて—」，石川県西田幾多郎記念哲学館 2015.11
浅見洋：高齢者のエンドオブライフ・ケア「死生観とEOLケア」「日本人の死生観」，国立長寿医療研究センター（愛知県）2015.12
浅見洋：「死生観とケア」公開研究会「ドイツにおける看取りの諸相とその文化的背景」，石川県立看護大学 2016.2
浅見洋：鈴木大拙館「大拙を識る講座」「大拙と幾多郎の間—『日本的靈性』と『場所的論理と宗教的世界観』」，歌劇座（金沢）2016.3
浅見洋：志賀町富来郷土史研究会講演会「戸坂潤とその母」，富来地域活性化センター2016.3

浅見洋：江守クリニック公開講座「西田幾多郎 悲しみについて」，江守クリニック 2016. 3

浅見洋：「死生観とケア」公開研究会 全 5 回「ヨーロッパ諸国における看取りの諸相」，
石川県立看護大学 2015. 6～2016. 2

浅見洋，長谷川昇：来人喜人（きときと）里創りプロジェクト事業「第 29 回猿鬼歩こう走
ろう健康大会」健康キャンペーン実施「能登町健康特産品クライネメッセ」開催，能登町
石川県立看護大学 2015. 5 2015. 10

浅見洋：COC プラス事業「金沢・加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材養成」
地域学習科目映像教材作成，北陸放送テレビ 2016. 3

浅見洋：西田哲学会第 13 回年次大会 シンポジウム「創造」司会，京都工芸繊維大学 2015. 7

浅見洋：第 28 回北陸宗教文化学会「葬送儀礼の変容と死生観」コーディネーター、総合司
会，金沢大学サテライトプラザ 2015. 10

浅見洋：第 34 回医学哲学倫理学会 研究発表司会，新潟大学 2015. 11

阿部智恵子：能登町ボランティア連絡会研修会講演「地域と暮らしと健康ーいつまでも生き
生きと生活するためにー」講師，内浦福祉センター2015. 6. 22

石川倫子：厚生労働省看護教員養成講習会事業 評価委員

石川倫子：日本看護協会 特定行為研修管理委員会 委員

石川倫子：石川県准看護師試験委員

石川倫子：独立行政法人国立病院機構金沢医療センター「看護学校のあり方」検討委員会委
員

石川倫子：看護実践学会 査読委員

石川倫子：公益社団法人石川県看護協会 講演「特定行為の研修制度の経緯と実際」，石川
県地場産業センター2015. 6

石川倫子：全国自治体病院看護管理者研修会石川県支部講師「特定行為の研修制度の経緯と
実際」，石川県立中央病院 2015. 8

石川倫子：教務主任養成講習会講師（看護学教育評価），大阪府看護協会 2015. 8

石川倫子：教務主任養成講習会講師（看護学教育評価），東京慈恵医科大学 2015. 9～10

石垣和子：石川県医療審議会委員

石垣和子：石川県医療計画推進委員

石垣和子：大学コンソーシアム石川理事

石垣和子：石川県ユニセフ協会評議員

石垣和子：NPO 法人 地域保健研究会理事

石垣和子：NPO 法人 いしかわ在宅支援ねっと理事

石垣和子：かほく市介護保険運営協議会委員

石垣和子：沖縄県立看護大学外部評価委員

石垣和子：日本家族看護学会理事長

石垣和子：日本ルーラルナーシング学会副理事長

石垣和子：日本老年看護学会監事

石垣和子：大学評価・学位授与機構 機関別認証評価専門委員

井上智可：かほく市介護認定審査委員

井上智可：JICA パラグアイ日系研修 演習，石川県立看護大学 2015. 7

今井美和：日本病理学会学術評議員
今井美和：2015年春 LOVE49 全国街頭予防・啓発アクション 『子宮頸がんを予防する日』
集中キャンペーン，イオンタウン金沢市示野マックスバリュ棟前 2015. 4. 5
今井美和：3 学年進路研修，石川県立看護大学 2015. 7. 15
今井美和：感染管理認定看護師教育課程 「学内演習（微生物検査演習）」，石川県立看護
大学 2015. 10. 5-7
今井美和：がんを知ろう，石川県立七尾高等学校 2015. 11. 10
岩城直子：日本がん看護学会代議員
大木秀一：日本小児保健学会 査読委員
大木秀一：日本民族衛生学会 査読委員・評議員
大木秀一：日本双生児研究学会 幹事
大木秀一：The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, Reviewer
大木秀一：Journal of Epidemiology, Reviewer
大木秀一：日本衛生学会 双生児医学連携研究会 世話人
大木秀一：日本看護科学学会 和文誌統計担当査読委員
大木秀一：NPO 法人 日本多胎支援協会 理事
大木秀一：NPO 法人 いしかわ多胎ネット 副理事
大木秀一：東京大学教育学部附属中等教育学校 双生児特別検査委員
大木秀一：石川県公害審査会委員
大木秀一：国際ツインレジストリーネットワーク会議（INTR）準備委員会委員
大木秀一：一般財団法人北陸産業活性化センター北陸ライフサイエンスクラスター推進室
北陸ライフケアシステム研究会委員
大木秀一：「小児看護学方法論Ⅱ（小児疾患）」講義，金沢医療技術専門学校 2015. 5
大木秀一：ピアサポーター養成講座「多胎の基礎知識」講師，金沢市教育プラザ富樫 2015. 5
大木秀一：「公衆衛生学」講義，東邦大学 2015. 6
大木秀一：感染管理認定看護師教育課程「疫学と統計学」講義，石川県立看護大学 2015. 7
大木秀一：「多胎家庭への支援から考える」（第 1 部子育てボランティア養成講座）・「知
っておきたい多胎児の卵性と成長や発達」（第 2 部多胎育児座談会）講師，東神楽町ふ
れあい交流館 2015. 8
大木秀一：「Japanese Database of Families with Twins and Higher-order Multiples」第
4 回国際ツインレジストリーネットワーク会議 The 4th INTR (International Network of
Twin Registers) Consortium Meeting, 大阪大学 2015. 9
大木秀一：一般社団法人公立大学協会 公立大学政策・評価研究センターワークショップ(対
象校：山形県立保健医療学会) 評価担当者，山形県立保健医療大学 2015. 9
大木秀一：「多胎研究の可能性」岐阜聖徳学園大学研究会講師，岐阜聖徳学園大学 2015. 10
大木秀一：「多胎家庭をとりまく現状」多胎児家族と支援者のための育児講演会&交流会 講
師，クリエート浜松 2015. 12
大木秀一：「いしかわ多胎ネットの歩み」NPO 法人いしかわ多胎ネット 10 周年記念講演，
金沢市教育プラザ富樫 2015. 12

大木秀一：「活用できる文献レビューの方法」セミナー講師，慶應義塾大学三田キャンパス
2016.3

織田初江，金子紀子，井上智可：まめ宝；限界集落における高齢者を中心とした健康支援活動，宝達志水町、走入地区 2015.4～2016.3

炭谷靖子，織田初江：地域保健関係者キャリアアップ研修会，富山県民会館 2015.6～2016.1

織田初江：新任保健師研修会，石川県庁 2015.9.16～18

織田初江：新任保健師研修会，富山県民会館 2015.9.8～9

織田初江：津幡町健康推進協議会 委員，津幡町役場 2015.4～2016.3

織田初江：かほく市健康推進協議会 委員，かほく市役所 2015.4～2016.3

垣花渉：シティーカレッジ授業「石川の市町、かほく市・能美市」 授業コーディネーター

垣花渉：石川県地域スポーツ指導者養成講習会「中高齢者の体力とスポーツ指導」 講師

垣花渉：津幡町中条地区認知症安心ネットワーク推進委員会「高齢者の健康づくり」 講師

垣花渉：かほく市議会報告意見交換会 コーディネーター

垣花渉：羽咋市まちかど健康教室 講師

垣花渉：日本体力医学会 学会評議員

垣花渉：石川県大学健康教育研究会 委員

垣花渉：NPO 法人クラブパレット アドバイザー

垣花渉：石川県広域スポーツ支援センター「クラブネットいしかわ」運営委員会 委員

垣花渉：かほく市観光物産協会 理事

垣花渉：羽咋市国民健康保険運営協議会 委員

垣花渉：第2回いしかわ大学健康教育セミナー 実行委員長

垣花渉：初年時教育学会 選挙管理委員会副委員長

加藤穰：Reviewer: Global Public Health, Taylor & Francis

加藤穰：編集委員：丸善出版『生命倫理百科事典（第2版）』翻訳刊行

加藤穰：生命倫理学入門（リレー講義），岡山大学教養科目 2015.4.16

加藤穰：生命科学と倫理（J），立命館大学法学部 2015.9.26-2016.3.31

加藤穰：生命科学と倫理（L），立命館大学文学部 2015.9.26-2016.3.31

加藤穰：釧路国際生命倫理サマースクール 講師，釧路市観光国際交流センター2015.8.25

穴戸圭介，加藤穰，栗屋 剛：招待講演：岡山大学公開セミナー「生と死の倫理」，「出自を知る権利を点検する」，岡山大学大学院保健学研究科 2015.6.25

金谷雅代：「特別支援学校で医療的ケアを受ける子どもたちの医療的理解」講師，医療的ケア実践場面の観察・助言，石川県立いしかわ特別支援学校 2015.9.28、10.7、11.30

金谷雅代：医療的ケアに関する研修と医療的ケア演習の講師，石川県立小松瀬領特別支援学校 2015.11.16、12.21

金谷雅代：医療的ケアに関する研修の講師と医療的ケア実践場面の観察・助言，石川県立錦城特別支援学校 2016.1.14

金谷雅代：「小児保健コンサルテーション」講義，石川県立保育専門学園 2015.4～7

金谷雅代：看護研究指導・講評，浅ノ川総合病院 2015.5.16、6.20、10.3、11.28

金子紀子：かほく市介護認定審査会委員

川島和代： 大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローバル人材育成市システム」の構築」 地域連携委員

川島和代： 能登キャンパス構想推進協議会 幹事

川島和代： かほく市地域ケア推進会議 委員

川島和代： 津幡町認知症安心ネットワーク推進委員会 委員

川島和代： 看護科学研究学会 理事

川島和代： 看護実践学会 理事・査読委員

川島和代： 老人看護研究会 理事

川島和代： 日本看護科学学会 評議員

川島和代： 日本看護未病システム学会 評議員・査読委員

川島和代： 日本老年看護学会 評議員・査読委員

川島和代： 日本看護研究学会近畿・北陸地方会世話人

川島和代： NPO トトロの家 理事

川島和代： NPO まちかど倶楽部たかまつ 理事

川島和代： 石川県介護支援専門員協会 河北支部 運営支援

川島和代： 石川県における喀痰吸引等研修事業共通科目「人間と社会」講師，七尾市サンライフプラザ 2015.5

川島和代： 石川県における喀痰吸引等研修事業共通科目「人間と社会」講師，七尾市サンライフプラザ 2015.9

川島和代： 石川県介護福祉士会 ファーストステップ「介護職員の健康・ストレスの管理」講師，石川県社会福祉協議会 福祉総合センター 別館 2015.12

川島和代： 石川県社会福祉協議会 認知症高齢者施設開設者研修「認知症の基本的理解とケアのあり方」講師，石川県社会福祉協議会 福祉総合センター 別館 2016.1

川島和代： 院内研修「ナイチンゲール看護論」講師，春日井市民病院 2015.5

川島和代： 院内研修「看護過程展開能力を高めるⅠ」講師，春日井市民病院 2015.7

川島和代： 院内研修「看護過程展開能力を高めるⅡ」講師，春日井市民病院 2015.8

川島和代： 院内研修「看護の質評価」講師，春日井市民病院 2015.12

川島和代： 高齢者に多いおもしろい話，内灘町向陽台公民館 2015.12

川島和代： あかちゃんから高齢者まで住みやすいまちづくりとは，内灘町役場町民ホール 2015.11

川島和代，中道淳子： JICA 日系研修パラグアイフォローアップ調査ワークショップ講師，パラグアイ 2016.2～3

川村みどり： 看護研究指導・講評，公立宇出津総合病院

北山幸枝： 日本褥瘡学会 評議員

北山幸枝： 第17回日本褥瘡学会学術集会（H27.8月 仙台）座長

木森佳子： 看護理工学会 査読委員

木森佳子： 看護研究指導・講評，公立能登総合病院 2015.6.26、2016.2.6

小林宏光： 日本生理人類学会理事

小林宏光： Journal Physiological Anthropology associate editor

小林宏光： 「人間工学」講義，高岡市医師会看護専門学校 2015.4-9

小林宏光：出張講義「人間とはどんな生き物か」，富山県立上市高校 2015. 7. 3

小林宏光：出張講義「人間とはどんな生き物か」，石川県立金沢西高校 2015. 11. 25

小林宏光：講演「看護・介護用具のデザイン」，石川県立看護大学地域ケア総合センター 2015. 9. 20

清水暢子，鳥山弥生，横井美智子：永平寺町地域包括支援センター介護予防教室，永平寺町農業構造改善センター、吉野塚集落センター、永平寺町役場上志比支所 2015. 7-9

曾根志穂：かほく市介護保険認定審査会委員

曾根志穂：宝達志水町在宅医療・介護連携推進協議会委員

曾根志穂：看護研究指導・講評，国民健康保険志雄病院 2015. 5～11

曾根志穂：JICA 日系研修アクションプラン担当，石川県立看護大学 2015. 8

曾山小織：「統計学」講義，高岡市立看護専門学校 2015. 4～7

曾山小織：看護研究指導・講評，珠洲市総合病院 2015. 6. 27，11. 7，2016. 3. 13

高山成子：日本看護研究学会 評議員 編集委員

高山成子：日本看護科学学会 査読委員

高山成子：石川県後期高齢者医療懇話会副座長

高山成子：日本老年看護学会 評議員 査読委員

高山成子：講義 兵庫県看護協会認定看護師（認知症看護）援助方法論Ⅲ，清瀬看護研修学校 2015. 6. 2015. 118

高山成子：講義 日本看護協会認定看護師（認知症看護）（援助方法論Ⅲケアマネジメント），兵庫県看護協会 2015. 8

高山成子：認知症の予防最新情報，府中市会館 2015. 8

高山成子：「認知症高齢者の入浴困難に対する援助法を学ぶ」講義，すこやかシルバー病院 2015. 8

高山成子：認知症の人とのコミュニケーション，しいのき迎賓館 2015. 7

高山成子：島根大学「高齢者システム在宅論」講義，島根大学 2015. 11

多久和典子：科学研究費委員会専門委員

Takuwa, N.：Int. J. Mol. Sci.; Biomaterials; Stem Cell J. 査読者

多久和典子，石川倫子：人材育成事業「看護実践に活かすフィジカルアセスメント」，石川県立看護大学基礎看護学実習室 2015. 7. 4

多久和典子：人材育成事業「検査所見の見方・考え方」，石川県立看護大学基礎看護学実習室 2015. 8. 1

多久和典子：出張オープンキャンパス模擬授業「メタボリックシンドロームを知ろう」，石川県立鹿西高校 2015. 9. 16

多久和典子：かほく市民大学校「脳と心臓と腎臓」，七塚生涯学習センター 2015. 5. 15

多久和典子：日本生理学会副理事長，編集・広報委員長，日本生理学雑誌編集長 2012. 4～2016. 3)

多久和典子：日本生化学会北陸支部幹事 2014. 9～

多久和典子：金沢大学医学類「生体の機能と統合」講義，金沢大学 2015. 11

多久和典子：金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医科学修士課程「人体機能学」講義，金沢大学 2015.5

多久和典子：国家試験対策セミナー講師，石川県立看護大学中講義室4 2015.8

武山雅志：石川県精神保健福祉協会副会長

武山雅志：石川県精神保健福祉協会会報編集委員

武山雅志：石川県臨床心理士会会長

武山雅志：（財）いしかわ女性基金運営委員

武山雅志：（公）金沢こころの電話相談役

武山雅志：（公）石川被害者サポートセンター副理事長

武山雅志：石川県警察被害少年カウンセリングアドバイザー

武山雅志：金沢市保健審議会委員

武山雅志：かほく市不登校問題対策運営協議会委員

武山雅志：かほく市地域交通会議委員

武山雅志：学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会委員

武山雅志：日本臨床心理士会代議員

武山雅志：日本心理臨床学会代議員

武山雅志：日本心理臨床学会査読委員

武山雅志：北陸心理学会査読委員

武山雅志：上越教育大学非常勤講師

武山雅志：高岡市立看護専門学校非常勤講師

武山雅志：自主防災組織連絡協議会総会講師，かほく市高松産業文化センター

武山雅志：コミュニケーション講座講師，かほく市七塚健康福祉センター

武山雅志：平成27年度輪島市ゲートキーパー養成講座講師，輪島市ふくれあい健康センター

武山雅志：第12回かほく市社会福祉大会講師，かほく市七塚健康福祉センター

武山雅志：災害ボランティアコーディネーターフォローアップ研修会講師，金沢市みなと会館

武山雅志：犯罪被害者支援シンポジウム・パネリスト，鯉城センター

武山雅志：災害ボランティアコーディネーターフォローアップ研修会講師，石川県地場産業センター

武山雅志：平成27年度第2回ボランティア養成講座講師，七尾サンライフプラザ

武山雅志：かほく市民大学校講師，かほく市高松産業文化センター

武山雅志，曽根志穂，金谷雅代：被災地ボランティア活動支援，宮城県亘理町 2015.8、2016.3

谷本千恵：県立高松病院 看護研究指導，石川県立看護大学 2015.7.8

谷本千恵：山中温泉医療センター 看護研究指導，山中温泉医療センター 2015.6.16，9.16

谷本千恵：かほく市地域自立支援協議会委員，会長，かほく市 市民部健康福祉課 2015.4～2016.3

谷本千恵，大江真吾：実習指導に係る研修会 講師，石川県立高松病院 2015.9.14

谷本千恵：19th EAFONS 第19回東アジア看護学研究者フォーラム 査読委員，千葉市 2016.3

谷本千恵, 川村みどり, 大江真吾, 清水暢子: 看護研究指導・講評, 石川県立高松病院
2015. 7-2016. 2

田村幸恵: JICA 研修日系研修 講師, 石川県立看護大学 2015. 7

塚田久恵: 日本公衆衛生看護学会査読委員

塚田久恵: 北陸公衆衛生学会査読委員

塚田久恵: 厚生労働省介護予防事業石川県密着アドバイザー

塚田久恵: かほく市地域包括支援センター運営協議会委員

塚田久恵: 小松市健康づくり推進協議会委員

塚田久恵: 一般財団法人 北陸産業活性化センター北陸ライフサイエンスクラスター推進室
北陸ライフケアシステム研究会委員

塚田久恵: 地域づくりによる介護予防推進支援事業担当者研修会 講師, ワークパル七尾多
目的ホール 2015. 11. 20

塚田久恵: 地域づくりによる介護予防推進支援事業担当者研修会 講師, ①石川県庁②七尾
サンライフプラザ③石川県リハビリテーションセンター④石川県リハビリテーションセン
ター⑤石川県リハビリテーションセンター①2015. 5. 28②2015. 8. 19③2015. 10. 7④
2015. 12. 14⑤2016. 2. 3

塚田久恵: かほく市介護予防サポーター養成講座 講師, かほく市役所 2015. 7. 22

塚田久恵: 石川県生活支援サポーター養成研修会 講師, 石川県青少年総合研修センター
2016. 1. 21

塚田久恵: 高齢者の健康づくりと介護予防研修会 講師, ホテルゆのくに天翔大ホール
2016. 2. 7

塚田久恵: 新任者スキルアップ研修会 講師, 石川県南加賀保健福祉センター2016. 1. 27,
2. 24

塚田久恵: パラグアイ日系研修 講師, 石川県立看護大学 2015. 8. 4, 8. 7

塚田久恵: 中央アジア・コーカサス混成青年研修地域保健医療実施管理コース 講師・実施
者, 石川県立看護大学 2015. 11. 23-12. 10

塚田久恵: 大学間連携共同教育推進事業 韓国全北大学校看護大学研修 講師・実施者, 石
川県立看護大学 2016. 3. 20-27

中嶋知世: 第30回日本国際保健医療学会 学術大会準備委員

中嶋知世: 金沢マラソン 外国人ランナー受付, 金沢駅もてなしドーム地下イベント広場
2015. 11. 13~14

中田弘子: かほく市食育推進連絡会委員

中田弘子: 第2回「医療現場からの繊維製品に対するニーズの発表会」委員

中田弘子, 川島和代: 平成27年度石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業 看護
実践力向上セミナー 第1・2回ジェネラリストのための事例検討 講師, 石川県立看護大学
附属地域ケア総合センター2015. 7月, 11月

中田弘子: 平成27年度金沢学習会 チューター, 独立行政法人 地域医療機能推進機構 金沢
病院 2015. 6月, 2015. 3月

中田弘子, 川島和代, 小林宏光 : 平成 27 年度石川県立看護大学附属地域ケア総合センター
事業 第 1・2 回 ケアのデザイン 手のケアを見直す 講師, 石川県立看護大学 2015. 8 月, 9
月

中田弘子 : 独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院 院内研修 講師 , 地域医療機能推
進機構 金沢病院 2015. 5 月

中田弘子 : 独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院 平成 27 年度看護研究指導(年 4 回),
地域医療機能推進機構 金沢病院 2015. 7, 8, 10, 12 月

中田弘子 : 石川県立中央病院 看護部主催 実習指導委員会研修 講師, 石川県立中央病院
2015. 11 月

中田弘子 : 公立羽咋病院 平成 27 年度看護部研修 事例検討会 講師(年 3 回), 公立羽咋病院
2015. 10 月, 2016. 2 月, 3 月

中田弘子 : 独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院 平成 27 年度看護研究発表会 講評,
地域医療機能推進機構 金沢病院 2016. 2 月

中田弘子 : 福井県立大学看護科学研究学会北陸研修会 C コース研修会 チュータ, 福井県立
大学 2016. 3 月

中道淳子 : 看護実践学会 査読委員

中道淳子 : 日本認知症予防学会 評議員

中道淳子 : 日本認知症予防学会 第 5 回学術集会 一般演題座長, 神戸国際会議場 2015. 9. 25

中道淳子 : 津幡町介護予防メイト養成講座「高齢者の身体的特徴」講師, 津幡町役場 2015. 7. 23

中道淳子 : 津幡町介護予防メイト養成講座「回想法」講師, 津幡町役場 2015. 9. 17

中道淳子 : 地域見守りあいさつ運動報告会 (鶴が丘西), 鶴が丘西公民館 2016. 1. 18

中道淳子 : 地域見守りあいさつ運動発足会 (旭ヶ丘), 旭ヶ丘公民館 2016. 2. 3

中道淳子 : JICA 日系研修 講義 5 : 高齢者に多い健康障害と治療内容, 石川県立看護大学地
域ケア総合センター研修室 2015. 7. 24

中道淳子 : JICA パラグアイ国日系研修「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」F/U
協力調査団 団員, パラグアイ 2016. 2. 26-3. 9

西村真実子 : 日本看護科学学会和文誌 査読委員

西村真実子 : 日本小児看護学会誌 査読委員

西村真実子 : 日本小児保健学会 代議員

西村真実子 : 看護実践学会 理事

西村真実子 : 石川県小児保健協会 役員

西村真実子 : 石川県要保護児童対策協議会専門家チーム 委員

西村真実子 : 石川県奨学生選考審査会 委員

西村真実子 : 親子交流授業プログラム検討委員(公益財団法人いしかわ子育て支援財団、)

西村真実子 : かほく市子ども・子育て会議 委員・会長

西村真実子 : 北陸小児糖尿病サマーキャンプ運営委員会 委員

西村真実子 : 老人保健施設「なでしこの丘」まちの保健室事業実行委員会 委員

西村真実子 : 七尾児童相談所虐待進行会議 アドバイザー

西村真実子 : NPO 法人子どもの虐待防止ネットワーク石川 理事(副代表)

西村真実子：平成 26 年度児童福祉司養成研修「児童虐待援助論」講師，石川県庁行政庁舎
2015. 8. 17

西村真実子，米田昌代，金谷雅代，曾山小織，千原裕香，本部由梨：子育てどろっぷ・イン・
さろんの開催(どろっぷ・いん・るーむ&親育ち子育てを考える会、全 5 回)、および「親
育ち子育てを考える会」のファシリテーター，北陸スウェーデンハウス（金沢市）2015. 8
～12

西村真実子，米田昌代：「Nobody's Perfect 完璧な親なんかいない(NP)」親支援プログラ
ム(全 6 回) のファシリテーター，かほく市子ども子育てセンター「おひさま」2016. 2～3

西村真実子，金谷雅代，千原裕香，本部由梨：子どもの虐待・子育て支援の勉強会(事例検
討等)(全 5 回)，石川県立看護大学 2015. 8～12

西村真実子：平成 27 年度訪問看護研修「子どもの成長発達・子育てにかかわる看護「疾病
や障害を持つ小児の家族への支援」講師，石川県看護研修センター2015. 7. 27&7. 30

長谷川昇：かほく市ケーブルテレビ放送番組審議会 委員

長谷川昇：石川県食品技術者ネットワーク 幹事

長谷川昇：地域包括ケアポートフォリオ認定策定アソシエイト

長谷川昇：Health Care, Editor-in-Chief

長谷川昇：Journal of Ethnopharmacology 査読担当

長谷川昇：健康応援倶楽部，かほく市 2015. 4-2016. 3

長谷川昇：ロコモ予防と住民支援，能登町 2015. 4-2016. 3

長谷川昇：生理学・生理学実習・病態運動生理学，愛知医療学院短期大学 2015. 4-2016. 1

長谷川昇：個別教育プログラム報告 2「民泊型フィールド実習」，七尾サンライフプラザ
2016. 3. 3

林一美：石川県看護協会「退院調整看護養成研修」講師

林一美：平成 27 年介護職員等による喀痰吸引等の実施のための研修

林一美：日本災害看護学会 評議員

林一美：日本災害看護学会 座長

林一美：津幡町介護認定審査会委員

林一美：かほく市地域密着型サービス運営協議会委員長

林一美：高松訪問看護ステーション運営委員

林一美：石川県国民健康保険団体連合会介護サービス苦情処理委員会委員

林静子：院内看護研修会 研究指導，独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター2015. 6. 3,
7. 15, 7. 16, 10. 20, 10. 22

林静子：看護研究発表講評，白山市鶴来総合文化会館クレイン 2015. 10. 24

彦聖美：NPO 法人 いしかわ在宅支援ねっと理事

彦聖美：金沢市協働をすすめる市民団体登録任意団体 百万石介護メンズ倶楽部（男性介護
者の会）役員

彦聖美：白山市認知症家族の会レインボー 相談役

牧野智恵：日本がん看護学会誌投稿論文査読委員

牧野智恵：日本がん看護学会代議員

牧野智恵：日本看護科学学会代議員
牧野智恵：日本 IPR 研究会運営委員
牧野智恵：日本ロゴセラピー協会 特別会員
牧野智恵：北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン 運営協議会委員
牧野智恵：福井生と死を考える会 副会長
牧野智恵：緩和医療研究会 幹事
牧野智恵：第 30 回日本がん看護学会 座長
牧野智恵：第 8 回ロゴセラピスト講演会「病と共に生きた少女の意味への意志～”態度価値”に焦点をあてて～」，中野サンプラザ 2015. 9. 5
牧野智恵：平成 27 年度専門的看護実践力研修事業「がん看護」「がん終末期患者の心のケア」講師，金沢大学附属病院 2015. 10. 10
牧野智恵：北國健康生きがい支援事業平成 27 年度第 1 回石川県立看護大学プログラム「病を抱えても、自分らしく生きようーV.E フランクルの思想を手がかりにー」講師，北國新聞ホール 2015. 12. 19
牧野智恵，川端京子：おやこのたのしいじかん，金沢市立玉川図書館 2015. 8
牧野智恵，岩城直子他：がん看護事例検討会，石川県立看護大学 2015. 5～2016. 3
牧野智恵，吉田和枝：「がんになったら仕事を辞めざるを得ないのか!?!」座長，金沢都ホテル 2015. 11. 29
牧野智恵，高山成子：「多領域の専門看護師による公開事例検討会」座長，石川県立看護大学 2015. 9. 23
牧野智恵：2015 カナダ緩和ケア視察研修 団長，カナダ 2015. 9. 6-13
牧野智恵：「終末期」成人臨床看護学 講義(6 コマ)，福井医療短期大学 2015. 4. 1-2016. 3. 31
松原勇：富山赤十字看護専門学校非常勤講師(28 時間)，2015. 4-2015. 9
丸岡直子：石川県看護協会認定看護管理者教育制度運営委員
丸岡直子：日本看護学教育学会 評議員，専任査読委員，査読担当
丸岡直子：日本看護研究学会 査読委員
丸岡直子：日本看護管理学会 査読担当
丸岡直子：看護実践学会 専任査読委員・査読担当
丸岡直子：認定薬剤師研修制度委員会委員
丸岡直子：石川県立中央病院地域医療支援委員会委員
丸岡直子：日本看護学会(看護管理)準備委員長
丸岡直子：かほく市創生総合戦略推進計画策定に係る有識者会議会長
丸岡直子：大学基準協会 大学評価委員会大学評価分科会委員
丸岡直子：福井大学講師(認定看護師教育課程：リーダーシップ担当)，福井大学医学部看護学科 2015. 6. 8, 6. 15
丸岡直子：石川県看護協会認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程講師(看護サービス提供論-問題解決思考)，石川県看護研修センター2015. 11. 4
丸岡直子：石川県看護協会認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程講師(クオリティマネジメント)，石川県看護研修センター2015. 11. 7

丸岡直子：金沢大学大学院医薬保健学講師（看護管理特論），金沢大学つるまキャンパス
2015. 10. 22, 10. 29

丸岡直子：石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター（認定看護師教育課程：リーダーシップ），石川県立看護大学 2015. 7. 23, 7. 27, 7. 29

丸岡直子：石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター（認定看護師教育課程：看護管理），石川県立看護大学 2015. 8. 3, 8. 5

丸岡直子, 林一美, 石川倫子：退院支援セミナー（平成 27 年度石川県高度・専門医療人材養成支援事業），石川県立看護大学，石川県リハビリテーションセンター研修室 2015. 8. 22, 10. 10, 11. 28

丸岡直子, 林一美, 石川倫子：退院支援事例検討会（平成 27 年度石川県高度・専門医療人材養成支援事業），やわたメディカルセンター，公立松任石川中央病院，あへの風，石川県リハビリテーションセンター 2015. 9. 4, 10. 10, 10. 30, 12. 18

丸岡直子：北陸地区認定看護管理者会実践報告会 講師「入院する患者の在宅療養移行支援を考える」，金沢ニューグランドホテル 2016. 2. 20

三輪早苗：JICA 日系研修・介護技術の知識と技術 講師，石川県立看護大学 2015. 7

村井嘉子：日本救急看護学会 専任査読委員

村井嘉子：日本救急看護学会評議員

村井嘉子：日本クリティカルケア看護学会専任査読員

村井嘉子：日本クリティカルケア看護評議員

村井嘉子：国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第 6 回学術集会企画・実行委員

村井嘉子：看護研究指導，能美市立病院 2015. 7. 11, 2016. 2. 23, 3. 23, 3. 28

森田聖子：看護実践学会 査読委員

森田聖子：看護研究指導・講評

森田聖子：宝達志水町介護認定審査会委員

森田聖子：能登町老人保健ビジター会研修会 講師

森田聖子：看護研究指導・講評，河北中央病院 2015. 5. 27, 12. 9

森田聖子：婦人会健康講座 講師，柳田公民館 2015. 12. 13

山岸映子：第 30 回日本国際保健医療学会学術大会準備委員

吉田和枝：子育て女性健康支援センター石川，石川県立看護大学吉田研究室 2015. 4～2016. 3

吉田和枝, 米田昌代, 曾山小織：祖父母の楽しい上手な孫育て教室，石川県女性センター 2015. 8. 1

米田昌代：平成 27 年度石川県実習指導者講習会講師 母性看護学，2015. 7. 27～28

米田昌代, 吉田和枝, 曾山小織：ペリネイタル・グリーンケア検討会，7 月 石川県立看護大学 2 月 石川県女性センター 2015. 7. 14, 2016. 2. 9

米田昌代：あかちゃんをお空へみ送った方の自助グループに対するサポート活動，石川県立看護大学 通年

米田昌代：石川県助産師会 通常総会 議長，金沢市教育プラザ富樫 2015. 5. 15

米田昌代： SIDS 家族の会 医学アドバイザー

米田昌代： NPO 法人ワークライフバランス北陸 副理事長

6.6 その他（受賞等）

浅見洋： テレビ出演， テレビ金沢「そして、冬が来る、「五木寛之の新金沢百景」」， 2015.12

浅見洋： テレビ出演， テレビ金沢「シリーズ・わが街こころの風景⑦『哲学にふれる〜かほく市』」， 2015.8

浅見洋： 新聞掲載， 金沢学「女性研究者先駆け紹介」 北國新聞朝刊， 2015.7

浅見洋： 新聞掲載， 「座談会 戦後 70 年を迎えて」 北國新聞朝刊， 2015.8

浅見洋： 新聞掲載， 市民公開講座「金沢学」キャリア女性の先駆者〜高橋ふみの生涯〜 北國新聞朝刊， 2015.10

浅見洋： 新聞掲載， コメント「西田のノート発見」 北國新聞朝刊， 2016.2

浅見洋： 記事記載， 藤井満著、能登は哲学のゆりかご、「能登の里人ものがたりー世界農業遺産の里山里海からー」、2013.5.3 朝日新聞石川版掲載記事「能登の風」より， 2015.11

垣花涉： 受賞， 石川県立看護大学 ベストティーチャー賞， 2015.5

垣花涉， 水本菜々， 新田明里， 羽佐間成美， 池本美有紀： 受賞， 社会人基礎力育成グランプリ 2016 中部地区大会 準優秀賞， 2015.12

垣花涉： 新聞掲載， 北國新聞 「試行錯誤で健康に」， 2016.1

原子裕子， 牧野智恵： 受賞， 第 20 回日本緩和医療学会 ベストポスター賞 抗 EGFR 抗体薬投与中の患者への看護師によるスキンケア指導の効果ーセツキシマブ投与中のがん患者対象にー， 2015.6

6.7 研究助成金

6.7.1 科学研究費助成事業（日本学術振興会）

6.7.1.1 科学研究費補助金

1. 本学教員が研究代表者のもの

浅見洋， 諸岡了介， 伊藤智子， 中村順子： ルーラルにおける住民の死生観と終末期療養ニーズの変容に関する総合的研究， H23～H27， 科学研究費補助金基盤研究(B)

大木秀一： 双生児家系世代間データによるライフコース疫学モデルでの不妊治療の長期影響の検証， H27～H30， 科学研究費補助金基盤研究 (B)

林静子： 看護師の視覚に基づく観察時のヒューマンエラーにつながる見落とし現象の分析， H27～H28， 科学研究費補助金研究活動スタート支援

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

横山美江, 大木秀一 : 低体重で出生した多胎児の発育・発達過程と長期予後に関する国際共同研究, H27~H31, 科学研究費補助金基盤研究 (B)

鈴木みずえ, 丸岡直子, 寺井梨恵子, 他 9 名 : 認知症高齢者の転倒予防看護質指標による看護介入プログラムと実践継続システムの開発, 平成 26-29 年度, 科学研究費補助金基盤研究 (B)

6.7.1.2 学術研究助成基金助成金

1. 本学教員が研究代表者のもの

浅見洋, 志村恵, 谷山洋三, 彦聖美 : ドイツ語圏の医療・福祉におけるゼーゾルゲの展開とその現在, H26~H28, 学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

石垣和子, 大湾明美, 宮崎美砂子, 他 4 名 : 地域性に根ざした地域保健活動の探索に関する研究, H25~H27, 学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

今井美和 (赤祖父美和), 吉田和枝, 塚田久恵, 河原栄 : 女子高校生の子宮頸がん予防行動推進プロジェクト, H25~H28, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

大木秀一 : 多胎児に対する低出生体重児の概念の妥当性に関する実証研究, H26~H27, 学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

金谷雅代, 西村真実子 : 子どもに寄り添うデスエデュケーションの検討, H24~H27, 学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

金子紀子 : ソーシャルキャピタルの地域特性を踏まえた子育て支援の検討, H26~H27, 学術研究助成基金助成金若手研究 (B)

川島和代, 林一美, 橋本智江, 木森佳子, 中田弘子 : 看護と介護のより良い連携に向けた教育デザイン~感染防御策に焦点を当てて~, H25~27, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

木森佳子, 紺家千津子, 松本勝 : 高齢者の静脈穿刺後皮下出血における皮膚バリア機能の評価, H27~H28, 学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

清水暢子, 平井一芳, 梅村朋弘, 谷本千恵, 安倍博 : 軽度認知症者への前頭葉機能活性化効果の検討~マルチタスクトレーニングによる効果検討~, H26~H28, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

曾根志穂 : 神経難病患者と介護サービス事業者への保健師による在宅療養支援方法の検討, H24-27, 学術研究助成基金助成金若手研究 (B)

高山成子, 大津美香, 渡辺陽子, 森田聖子 : 血液透析をうける認知症高齢者の標準化, H26~H28, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

多久和典子 : 慢性炎症と臓器線維化に関わるスフィンゴ脂質シグナリングの解明と新規治療戦略, H26~H28, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

武山雅志, 岩脇陽子, 北岡和代, 丸岡直子, 塩谷亨 : 看護学生のコミュニケーション・スキルの特徴と変化, H26~H28, 学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

寺井梨恵子： 新人看護師の視覚情報に関する転倒リスクアセスメント教育プログラムの開発，H27～H30，学術研究助成基金助成金若手研究（B）

中道淳子，森田聖子： ストレス軽減および認知機能の維持向上を意図した笑いヨガプログラムの開発，H27～29，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

西村真実子，米田昌代，金谷雅代，曾山小織，千原裕香，伊達岡五月： 子ども虐待予防の段階的支援システムの研究：虐待リスクをもつ乳児の母が集う場の評価，H27～H29，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

子吉知恵美： 5歳児健診実施地の発達障害児の早期支援・継続支援への保健師の援助方法の実証的研究，H24～27，学術研究助成基金助成金若手研究（B）

長谷川昇，高山成子，他3名： 高齢者が自立した生活を維持するための非侵襲的評価指標の検討，H27～H29，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

彦聖美，大木秀一： 高齢期の妻や親を介護する男性介護者に対する地域特性に基づく支援のあり方，H25～H27，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

牧野智恵，川端京子，北本福美： がん患者とその子どもへの支援プログラムの開発ー芸術療法とPILテストの導入の試みー，H24～H27，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

松本智里： 女性人工股関節全置換術患者の歩容の自己評価と心理社会的側面の相互の影響，H27～H29，学術研究助成基金助成金若手研究（B）

丸岡直子，林一美，武山雅志，石川倫子，林静子，田村幸恵，中嶋知世，吉田千文，樋口キエ子： 外来-病棟一元化による看護師の患者・家族包括的在宅移行支援力育成プログラムの開発，平成26～29年度，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

村井嘉子： 大動脈解離患者のケアとケアの融合を基盤とする看護実践の構造，H25～27，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

山岸映子： 過疎地域における里帰り分娩に対するソーシャルサポートに関する研究，H24～H27，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

吉田和枝： 化粧行動と保健行動の関連性とヘルスプロモーションに向けての研究，H26～H27，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

米田昌代： 周産期の死を経験した母親・家族を社会全体で支えるシステムの実現可能性の検討，H26～H28，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

野口美和子，石垣和子，大湾明美，他3名： 島嶼看護学の学習指導書作成に関する研究，H27～H29，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

伊藤隆子，石垣和子，辻村真由子，他4名： 在宅療養の場における倫理的ビリーフの解明とケアマネジメント能力育成プログラムの開発，H27～H29，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

有田広美，小林宏光，藤本悦子： 心臓手術を受けた高齢患者の睡眠障害を改善する研究，H25～H27，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

永谷幸子，小林宏光，林久恵： 足関節運動を用いた患者のモビリティを拡大するための看護介入，H27～H29，学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

牧本清子, 周藤俊治, 遠藤淑美, 山川みやえ, 矢山壮, 谷本千恵: ネットワーク分析によるインシデントレポートの記述データの可視化と妥当性の検討, H25~H27, 学術研究助成基金助成金挑戦的萌芽研究

6.7.2 学内研究助成費

本学専任教員が行う「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を発展させることを目的とする。

井上智可, 林一美: 訪問看護師の連携に関する研究の文献レビュー

大木秀一, 彦聖美: 重点課題: 「少子高齢化に伴う課題」多胎育児支援の実態に関する全国調査とセルフヘルプグループの意義

垣花涉, 小林宏光, 長谷川昇, 徳佐憲一: 重点課題「少子高齢化に伴う課題」健常高齢者の体力維持を図る“ライフスタイル・プログラム”に関する研究

川島和代, 丸岡直子, 石垣和子, 林一美, 田村幸恵, 江藤真由美, 吉野幸枝, 近藤邦夫, 西村昭彦, 竹田昌代: 石川県における看護職員の離職・再就職の実態把握と背景要因～在宅療養を支える診療所・介護保険関連事業所に勤務する看護職員を中心に～

木森佳子, 紺家千津子, 松本勝: 高齢者の静脈穿刺後皮下出血における皮膚バリア機能の評価

清水暢子, 平井一芳, 堀敦志, 下川幸蔵, 梅村朋弘, 松永昌宏, 大江真吾: 重点課題「退院してからの在宅ケアに関する課題」長期入院経験のある精神疾患患者への社会復帰を目指した介入プログラムの効果

曽根志穂, 金谷雅代, 武山雅志, 石垣和子: 公立看護系大学における学生災害ボランティア活動の実態と課題に関する研究

多久和典子, 岡本安雄: 抗がん剤による進行性臓器傷害の分子機構とその予防に関する研究—個体レベル、細胞レベル、分子レベルにおける検討—

谷本千恵, 石井了恵, 坂上章, 岩尾貴, 角田雅彦, 大江真吾, 塚田久恵, 石垣和子: 石川県における長期入院精神障がい者の地域移行支援に関する実態調査

千原裕香, 西村真実子: 重点課題「少子高齢化に伴う問題」次世代育成をめざした高校生対象の「親子交流授業プログラム」の評価

塚田久恵: 半島に暮らす人々のヘルスリテラシーの特徴と保健行動改善に向けての探索的研究～前期高齢者に焦点を当てての考察～

中嶋知世, 大木秀一: 外国人住民の非集住地域において日本人男性と結婚した中国人女性の子育てにおける当事者間のつながりと社会的サポートの関係

中田弘子, 三輪早苗, 中嶋知世, 小林宏光: 嗜好性のある香りとハンドマッサージが脳血流と情動に及ぼす影響

子吉知恵美, 田村須賀子: 発達障害児の保護者の受容過程に応じた保健師による包括的な援助方法の実証的研究

長谷川昇, 垣花涉, 小原麻紀, 望月美也子: 糖尿病の予防指標に使用可能な尿中ビタミンD代謝産物の探索と簡易測定法の開発

林静子，丸岡直子，寺井梨恵子： 看護師の観察力向上のための教育内容・課題の実態
牧野智恵，時山麻美： 重点課題「がん看護に関する課題」ピアサポートを受けたがん患者
の体験

彦聖美，大木秀一，鈴木祐恵，宮下陽江，中村悦子： 重点課題「退院してからの在宅ケア
の課題」石川県能登地域における男性介護者と支援者のサポートネットワークシステム
(SNS)構築の効果

6.7.3 その他助成金等

1. 本学教員が研究代表者のもの

清水暢子，平井一芳，梅村朋弘，堀敦志，下川幸蔵： 統合失調症患者の社会復帰を目指し
た介入プログラムの効果，H26～H27，公益財団法人テルモ科学技術振興財団一般研究開発
助成金Ⅱ

千原裕香，西村真実子，金谷雅代，本部由梨，伊達岡五月，他2名： 次世代育成をめざし
た高校生対象の「親子交流授業プログラム」の効果，H27，公益財団法人いしかわ子育て支
援財団

子吉知恵美： がん終末期患者の支援の狭間を生めるために必要な支援に関する研究，H27
～H28，公益社団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 2015（後期）一般公募

丸岡直子，林一美，石川倫子，他6名： 在宅療養移行支援研究，平成27年度，平成27年
度石川県高度・専門医療人材養成事業

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

宮崎良文，李卿，小林宏光： 脳・内分泌・自律神経・免疫活動を用いた評価法の開発，H26
～H30，戦略的イノベーション創造プログラム ホメオスタシス維持機能をもつ農林水産
物・食品中の機能性成分多視点評価システムの開発と作用機序の解明

7. 国際交流

7.1 国際交流委員会

委員長：西村真実子 教授

委員：多久和教授、垣花准教授、岩城准教授、塚田准教授、木森講師

事務局：塚本課長補佐

活動内容：

1. 学生の夏期アメリカ看護研修(国際看護演習) (7.2 参照)

本学では、国際的に活躍できる人材の育成をめざし、夏期アメリカ看護研修(国際看護演習、2単位・45時間)が行われている。参加経費は学生の自費によることから、より多くの学生が参加できるように、研修プランの策定にあたっては、平成27年度も業者にプロポーザル方式でプランを提案させ、経費負担の抑制を図った。その結果、参加経費が338,000円(諸経費含む)となり、15名の学生が参加した。また、今年度の事前学習として、研修内容に応じて日本とアメリカの保健医療制度やその実情などの知識を自己学習させたり自己紹介の英会話を取り入れ充実させた。課題として、施設見学では看護職(特に専門看護師、ナースプラクティショナー等)による活動紹介などを入れること、ワシントン大学基礎看護学の実習室見学で取り上げられるフィジカルアセスメント事例の事前学習を深めること等が挙げられた。今後は、研修プログラムをより一層充実させるために、プログラムの評価方法を検討し、評価結果を基にした改善に取り組む必要がある。

2. 国際交流意識の向上をめざした取り組み

学生および教職員の国際交流意識の向上をめざし、以下について取り組んだ。

1) 国際交流の集い

日時：2015年12月21日(月)16:20～

場所：地域ケア総合センター研修室

ねらい：本学学生が留学生等の講演や対話を通して、異文化の中の多様な価値観に触れ、国際的視野を広げるとともに、海外で学ぶことへの動機付けの機会とする。

プログラム：学生部長挨拶、本学自治会長歓迎の言葉

講話&質疑応答1「日本への留学経験」

アンドレイ・エメリアノフさん(金沢星稜大学、ロシア)

講話&質疑応答2「海外青年研修とニカラグアでの活動」松井さん(本学4年生)

講師を囲んで小グループでフリートーク

参加者：学生36名(1年生23名、2年生4名、3年生6名、4年生3名)、教職員

学生の参加後の感想用紙をカテゴリー化してまとめたものによると、海外経験・留学等に動機付けられた/興味が高まった(アメリカ看護研修参加希望を含む)、価値観の違い(当たり前前なこと賀当たり前ではない)を実感することができた/視野が広がった、「人を理解することについて」考えた、「自分みつめ」になった、異文化を学び外国人を看護できる力をつけた、海外で学ぶときは強い意志が大切、発表した二人はすごい、文化に興味を持つことが海外で学ぶことのきっかけになる等が記載されていて、国際的視野を広げることや海外で学ぶこ

とへの動機付けの機会になったと思われた。今後はこのような国際交流を学生の地域活動として取り上げていくことも考えていく等、工夫が必要である。

2) 教職員向けの英会話の運営および方法の検討

教職員向けの英会話を毎週金曜日に以下のように実施した。主な参加者は20名ほどで、1回のクラスの参加者は「文法クラス」1~11名、「フリートーククラス」1~4名であった。後期は臨床実習のためか、参加者が少なくなっていた。委員会メンバー4名が交替で講師との連絡調整、教職員への周知、当日の準備を行った。

日時：毎週金曜日

(A) 18時~18時50分：グループレッスン(文法を交えた会話)

(B) 19時~19時50分：グループレッスン(フリートーク)

場所：3階演習室4

講師：Mr. Clive Ross

教職員の英語に対するニーズを把握し、英会話運営に活かすために、2016年2月に教職員を対象にアンケート調査を実施し、次年度からは2クラスのうちの一つをプライベートレッスン(予約制)を導入することになった。

3) 国際交流の掲示板の内容の更新

本学の国際交流活動を広く周知するために設けられた学内2か所に国際交流の掲示板の内容を平成27年度版に更新した。内容は、夏期アメリカ看護研修、JICAからの委託研修(パラグアイ等)およびフォローアップの現地視察、全北大学における保健医療福祉の研修である。また、平成28年3月末に訪問した、中国の中医薬大学(江蘇省)および吉林大学看護学部(吉林省)との提携覚書(Memorandum of Understanding)の締結場面も掲示する予定である。

なお、ワシントン大学や韓国の全北大学との学術交流に関する協定書や、昨年度のワシントン大学招聘教授の講義場面や、インドネシアのダルマプルサド大学等との交流写真は継続して掲示してある。

4) その他

英語のe-learning教材「eNetLibe」を活用しやすいように、不具合等への対応の調整を図った。今後はさらにe-learning教材の周知と学生の自学自習に向けた活用促進を検討していく必要がある。また、メール、掲示等により国際交流の機会の紹介を行ってきた。TOFELやTOEICへの挑戦の勧め等、国際交流への関心をより一層高めていく必要がある。

7.2 夏期アメリカ看護研修(学部科目「国際看護演習」)

2015年8月25日~9月7日の2週間にわたり、夏期アメリカ看護研修がワシントン州シアトルで行われ、学生15名(3年生11名、2年生4名)が参加した。

研修内容

1. 講義

1) テーマ：「アメリカのナース（NS）の役割・教育・保健医療システムについて」

講 師：上月頼子先生（ワシントン大学看護学部准教授）

内 容：①アメリカの保健医療システム

②アメリカのNSが働いている場（病院・クリニックやそれ以外の場）

③NSが提供しているサービス／メディカルスタッフの中での役割分担（Dr、SW、PT、OT、ST、NSのそれぞれの役割）、日本のNSとの違い

④看護教育制度（NP等のAPNの紹介、ライセンスを得るための教育、権限・責務など）

⑤労働条件、処遇、NSを志望する若者の割合など

2) テーマ：「病院におけるチーム医療について」

講 師：南立宏一郎先生（Harborview Hospital）

内 容：日米の医療システム、医師養成課程、訴訟、医療現場の違い

3) テーマ：「シアトルのホームヘルスケア」

講 師：上田大二郎先生（Providence Home Services）

内 容：アメリカの医療保険、年金制度、施設の種類や特徴、入院・退院システム、在宅で活動する専門職の役割

2. 語学研修

日常英会話、看護英語など

3. 保健医療・福祉施設の見学

1) University of Washington

2) University of Washington Medical Center

3) University of Washington School of Nursing

4) Seattle Children's Hospital

5) Harborview Hospital

6) Keiro Nursing Home

7) Nikkei Manor

国際看護プログラム 夏期アメリカ看護研修 2015

～ ワシントン大学キャンパスで学ぶ ～

| | 月日 (曜) | 都 市 名 | 発着 | 交通機関 | 時刻 | 日 程 | 宿泊・食事 (朝・昼・夕) |
|----|-------------|----------------------|-----|------------|------------------------------------|--|-------------------|
| 1 | 8/25 (火) | 小松空港 羽田空港 成田空港 | 発着 | NH-754 | 09:45 | 着後、リムジンバスにて成田空港へ 一路、シアトルへ 《日付変更線》 | (- - 機) |
| | | | 発着 | DL-166 | 11:00 16:45 | | |
| | | シアトル | 着 | 専用車 | 09:45 | 入国審査後、専用車でワシントン大学へ | ホームステイ (機 - ○) |
| 2 | 8/26 (水) | シアトル | | 市バス | 09:30 | ワシントン大学へ *大学への行き方、帰り方などホストファミリーから学ぶ バスでダウンタウンへ。Orca Card チャージ 昼 メジャーリーグ観戦 (シアトルマリナーズ 対 オークランド アスレティックス) | ホームステイ (○ ○ ○) |
| 3 | 8/27 (木) | シアトル | | 市バス | 09:30 | ワシントン大学へ オリエンテーション、 English Lesson (日常英語と看護英語) 13:00 Harborview Medical Center へ (通訳付き) ※ER, ICU, 第1級トラウマセンターなど視察 ※南立医師による講義 | ホームステイ (○ ○ ○) |
| 4 | 8/28 (金) | シアトル | | 市バス | 09:30 | ワシントン大学看護学部教員によるセミナー 「アメリカのナース (NS) の役割・教育・保健医療システムについて」 ワシントン大学附属病院、看護学部へ *Nursing Lab. ISIS など (通訳付き) | ホームステイ (○ ○ ○) |
| 5 | 8/29 (土) | シアトル | | 市バス | 10:00 | シアトルダウンタウン観光 パイプブレイスマーケット、シアトル図書館、ウオーターフロント など。 午後 フェリーで Bain Bridge Island へエクササイズ | ホームステイ (○ ○ ○) |
| 6 | 8/30 (日) | シアトル | | 市バス | 終日 | 終日フリータイム | ホームステイ (○ ○ ○) |
| 7 | 8/31 (月) | シアトル | | 市バス | 09:30 | ワシントン大学へ English Lesson (日常英語と看護英語) 13:30 Children's Hospital へ *病院内視察と看護師によるセミナー (通訳付き) | ホームステイ (○ ○ ○) |
| 8 | 9/1 (火) | シアトル | | 市バス | 09:30 | ワシントン大学へ English Lesson (日常英語と看護英語) 13:30 講演「シアトルのホームヘルスケア」 看護師と医療専門チームの在宅サービスについて日本語によるセミナー | ホームステイ (○ ○ ○) |
| 9 | 9/2 (水) | シアトル | | 市バス | 09:30 | ワシントン大学へ English Lesson (日常英語と看護英語) 午後 ワシントン大学キャンパスツアー | ホームステイ (○ ○ ○) |
| 10 | 9/3 (木) | シアトル | | 市バス | 09:30 | Keiro Nursing Home へ ボランティアスタッフとして入居者と触れ合い、ケアだけでなくアメリカの日系人の歴史について学ぶ 13:00 Nikkei Manor へ 軽介護施設での高齢者との触れ合いと看護ケアについて学ぶ。 | ホームステイ (○ ○ ○) |
| 11 | 9/4 (金) | シアトル | | 市バス | 09:30 | ワシントン大学へ English Lesson Presentation / Closing ceremony 午後 フリータイム | ホームステイ (○ ○ ○) |
| 12 | 9/5 (土) | シアトル | | 市バス | 終日 | フリータイム | ホームステイ (○ ○ ○) |
| 13 | 9/6 (日) | シアトル | 発着 | 市バス 専用車 | 午前 DL-167 13:00 | ワシントン大学に集合 シアトル空港へ 一路帰国の途へ | 機内泊 (○ - 機) |
| 14 | 9/7 (月) | 成田空港 小松空港 | 着発着 | 専用車 | NH-3119 15:55 18:40 19:55 | 入国審査 小松空港へ 着後、解散 | (機 - -) |

*現地の訪問予定先の都合や、飛行機の遅延により、日程が変更になる場合があります。 *NH: 全日空 *DL: デルタ航空

7.3 韓国 全北大学校看護大学との交流

7.3.1 提携覚書(MOU:Memorandum of Understanding)の締結

1. 経緯

本学では、文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」として平成24年度に採択された『学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築』の一プロジェクトとして、「ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト」事業に主体的に取り組んできた。

同事業において、学生の韓国派遣研修を実施することを企画し、韓国での研修受入先を模索していたところ、石川県の友好交流地域である韓国全羅北道から国立全北大学校の紹介を受けた。その後、同大学校看護大学との間で研修事業の調整を進める中で、先方より本学との提携覚書締結の打診があり、平成26年11月17日付けで締結を行った。

2. 覚書の内容

両大学間で学術・教育面での交流及び協力を推進する。具体的には、以下のことなどについて交流を発展させるよう互いに努力する。

- 1) 教職員及び研究者の交流
- 2) 学生の交流
- 3) 学術的資料、出版物及び情報等の交換
- 4) 共同研究プロジェクトの実施
- 5) 学術会議の企画

7.3.2 韓国 全北大学校看護大学看護研修

1. 研修内容

- 1) 実施時期：平成28年3月20日（日）～3月27日（日）
- 2) 参加人数：14人（1年1人、2年6人、3年1人、4年1人、院生2人、教員3人）
- 3) 内容
 - (1) 事前学習
講義：韓国の歴史・文化、暮らしについて
講師：石川県国際交流協会国際交流員
 - (2) 現地講義
内容：韓国の看護教育・健康課題と対策について
講師：全北大学校看護大学学長
 - (3) 全北大学校看護大学学生との交流
 - (4) 保健・医療・福祉施設の見学
 - ①都市部のフィールドワーク
 - ・医療機関（全北大学病院）
 - ・保健所（全州市保健所）
 - ・高齢者福祉関連施設（金堤老人専門療養院）
 - ・母子保健福祉関連施設（園光大学漢方病院内産後療養病棟）

②農村部のフィールドワーク

- ・保健診療所：処方権を持つ看護師が運営する保健診療所（金堤サンジョン保健診療所）
- ・高齢者福祉関連施設（敬老堂・グループホーム）

(5) その他

全羅北道内、ソウル市内の歴史文化施設等の見学・体験

(参 考)

国立全北大学校について

1951年設立の韓国西南部地域における中心的な役割を担う総合大学

学生数：約 32,000 人 教員数：約 2,700 人

7.4 中国 南京中医薬大学との交流

本学は2016年3月28日に南京中医薬大学と提携覚書(MOU:Memorandum of Understanding)を締結した。地域社会と国際社会に貢献する人材育成が推進されている中、アジア地域の健康に貢献すべく今後教職員および学生の交流を深め、ともに学術的に発展していくために努力することを確認した。

7.5 中国 吉林大学看護学院との交流

本学は2016年3月29日に吉林大学看護学院と提携覚書(MOU:Memorandum of Understanding)と学生交流プログラムの合意書(Student Exchange Program Agreement)を締結した。吉林大学では石垣学長の講演「Aging Asia and Innovation for the Elderly in Japan」があり、大学院生、教員が熱心に聴講した。

地域社会と国際社会に貢献する人材育成が推進されている中、アジア地域の健康に貢献すべく今後教職員および学生の交流を深め、ともに学術的に発展していくために努力することを確認した。

8. 大学施設の開放

| 実施年月日 | 内 容 | 主 催 者 | 参加人数 |
|---------------|---|----------------------------|------|
| 27. 4～28. 3 | | | 名 |
| 金曜 | フットサル練習 | F F A (フットサルクラブ) | 10 |
| 27. 4～28. 3 | 野球練習 | 石川ボーイズ | 30 |
| 土・日曜 | | | |
| 27. 4～28. 3 | バレーボール練習 | 二ツ屋病院 | 15 |
| 金曜 | | | |
| 27. 4～28. 3 | ドッチビー教室 | エトセトラ・ワークス | 20 |
| 火曜 | | | |
| 27. 12～28. 3 | バドミントン練習 | 岸 直樹 | 10 |
| 月曜 | | | |
| 27. 5～27. 12 | 介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修 (指導者養成講習及び基礎研修) | 社会福祉法人石川県社会福祉協議会福祉総合研修センター | 100 |
| 27. 12～28. 2 | フットサル練習 | 北陸モンベル | 10 |
| 27. 12～28. 2 | 陸上教室 | クラブパレット陸上教室 | 15 |
| 27. 4. 11 | 音楽コンサート | 山本伸子ピアノ教室 | 100 |
| 27. 4. 12 | 学園台自治会総会 | 学園台自治会 | 50 |
| 27. 5. 9・10 | 吹奏楽コンサート、リハーサル | かほく市吹奏楽団 | 600 |
| 27. 5. 16 | 教育研究集会発足集会 | 石川県教職員組合河北支部 | 200 |
| 27. 5. 24 | 学園台自治会総会 | 学園台自治会 | 50 |
| 27. 6. 20・21 | 第21回石川県紙ひこうき大会 in かほく | 石川県紙ひこうき大会 in かほく実行委員会 | 350 |
| 27. 7. 11 | 認知症高齢者サポートを考える会講演会 | エーザイ株式会社 | 300 |
| 27. 7. 29 | 教育研究集会中間集会 | 石川県教職員組合河北支部 | 100 |
| 27. 8. 20 | 食品衛生責任者研修会 | 河北食品衛生協会 | 200 |
| 27. 8. 25 | 教育研究集会総括集会 | 石川県教職員組合河北支部 | 200 |
| 27. 9. 16 | 作品展の審査 | MOA 美術館かほく児童作品展実行委員会 | 10 |
| 27. 9. 20・21 | 定期演奏会・リハーサル | かほく市立高松中学校 | 450 |
| 27. 9. 24～28 | かほく市防災訓練、準備 | かほく市防災環境対策課 | 150 |
| 27. 10. 4 | シャンソンコンサート | 羽咋シャンソン同好会 | 450 |
| 27. 10. 18 | 吹奏楽部定期演奏会 | 石川県立宝達高等学校 | 300 |
| 27. 10. 10・11 | 介護支援専門員実務研修 | 石川県社会福祉協議会 | 330 |
| 27. 10. 23・24 | 大学祭ブース出展 | 石川県選挙管理委員会 | 6 |
| 27. 11. 3 | 健康キャンペーン活動 | かほく市健康キャンペーン活動 | 10 |
| 27. 11. 28・29 | バレエ教室発表会、リハーサル | クラブパレット数馬好美 | 70 |
| 27. 12. 4～6 | にんかつ応援事業講演会、準備 | かほく市市民部健康福祉課 | 450 |
| 27. 12. 12 | クリスマス会 | 学園台子ども会 | 50 |
| 27. 12. 12 | ピアノ教室発表会 | 山本伸子ピアノ教室 | 20 |
| 28. 1. 23 | ロールプレイング大会 | 石川かほく農業協同組合 | 180 |
| 28. 2. 27 | 院内学会 | 石川県立高松病院 | 100 |
| 28. 3. 6 | 理容師美容師国家試験 | 理容師美容師試験研修センター東海ブロック事務所 | 350 |
| 28. 3. 20・21 | ピアノの発表会、リハーサル | 坂本裕美音楽教室 | 100 |

9. 附属図書館

9.1 図書館運営委員会

委員長：大木秀一 教授（附属図書館長）

委員：丸岡教授、小林教授、岩城准教授、織田准教授、金谷講師、青山総務課長

事務局：山本主幹

活動内容：

1. 図書館の事業活動、業務改善について審議および実施

1) データベースの見直し

データベースの高騰により、図書館の予算を大幅に超えてしまっていたため、契約データベースの見直しを行った。平成28年度より「JDreamⅢ」の契約を中止することに決定した。

2) 図書等整備状況

4月、8月に教職員の推薦による図書1,064冊、視聴覚資料16点を選定し整理した。

3) 附属図書館アンケート調査の実施

図書館業務の見直しを図るため、学生を対象にアンケートを実施した。

4) 企画展示

1. 「レポート・論文の書き方 ノートのとり方展」「あなたのスタート新生活応援！学び始める編、暮らし始める編」「はじめての洋書」
2. 開学記念「特別講演会：姜 尚中著作展」等の展示を行った。

5) わく・ワーク（work）体験事業について

かほく市立高松中学校生徒3名を2日間受け入れて、図書の装備、文献複写業務等の図書館業務を体験する「わくワーク（work）体験」事業を行った。

9.1.1 石川看護雑誌編集専門部会

部会長：小林宏光 教授

部会員：大木教授（附属図書館長）、長谷川教授、川島教授、山岸准教授、北山准教授、阿部准教授、曾根助教、三輪助手

事務局：山本主幹

活動内容：

第13巻を2016年3月に発行した。総説2編，原著論文3編，研究報告6編，資料2編の全13編を掲載した。

9.2 今年度の主な活動概況

9.2.1 図書館事業の実施

1. 「石川県立看護大学学術リポジトリ」運用開始

「石川看護雑誌」第1～12巻、博士論文等が閲覧できる「石川県立看護大学学術リポジトリ」の運用を平成27年4月3日から開始した。

(石川県立看護大学学術リポジトリのアクセス <https://ipnu.repo.nii.ac.jp/>)

2. 学生が利用することができる、図書館の様々なサービスの認知度を把握するために、図書館アンケートを実施した。

3. リユース図書の実施（年2回）

図書館が複本で所蔵する図書と、学生、教員から寄贈を受けた、リユース用図書を7月夏のオープンキャンパスと、10月秋のオープンキャンパスで学生と見学者に無料で提供した。

4. わく・ワーク（work）体験事業

かほく市立高松中学校2年生3名が、7月29日（水）～30日（木）の2日間「わく・ワーク（work）体験事業」に参加、図書の移動、配架、図書装備、カウンター業務等、図書館業務を体験した。

5. 企画展示の実施

テーマ別に図書を選定し展示する企画展示を行った。（カッコ内展示期間 冊数）

1) 大学生になったら洋書を読もう「はじめての洋書」（4/15～5/15 26冊）

2) 「あなたのスタート新生活応援！図書展」（4/11～5/15・学び始める編 21冊・暮らし始める編 21冊）

3) 開学記念「特別講演会：姜 尚中 著作展」（5/22～6/5 42冊）

4) 「ポスター、チラシ、新聞記事で見る大学の歴史展」（10/24～25 10点）

9.3 資料整備状況

資料整備状況（平成28年3月31日現在）（ ）内は平成27年度受入れ数

| コレクション別 | | 総数 | 内訳 | 合計 |
|---------|--------|-----------------|----------------------|------------------------|
| 図書 | 和書 | 49,742冊（1,419冊） | 購入：1,054冊 寄贈：365冊 | 合計 55,731冊 （1,429冊） |
| | 洋書 | 5,989冊（10冊） | 購入：10冊 | |
| 雑誌 | 和雑誌 | 453誌 | 継続購入99誌 | 合計 622誌 （内購入129誌） |
| | 洋雑誌 | 169誌 | 継続購入30誌 | |
| 新聞 | 日本紙 | 6紙 | — | 7紙 |
| | 英字紙 | 1紙 | — | |
| 視聴覚資料 | CD-ROM | 161点（0点） | — | 合計 2,176点 （16点） |
| | ビデオ | 1,376点 | — | |
| | DVD | 639点（16点） | 購入：16点 | |

9.3.1 分野別蔵書構成（平成28年3月31日現在）

○総冊数：55,731冊

| 分類 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4-480 | 49 | N | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|----|-------|-------|-----|-------|-------|--------|--------|-------|-----|-------|-------|-------|
| 標目 | 総記 | 哲学宗教 | 歴史 | 社会科学 | 自然科学 | 医学 | 看護学 | 技術・工学 | 産業 | 技術 | 言語 | 文学 |
| 冊数 | 4,363 | 2,790 | 656 | 7,967 | 1,593 | 18,760 | 13,379 | 1,137 | 228 | 1,307 | 1,226 | 2,325 |

9.3.2 医学分類蔵書構成（平成28年3月31日現在）

○医学書（看護学を除く）の総冊数：19,386冊

| 490 | 491 | 492 | 493 | 494 | 495 | 496 | 497 | 498 | 499 | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-----|
| 医学総記 | 基礎医学 | 臨床医学 | 内科学 | 外科学 | 周産期医学 | 耳鼻咽喉科 | 歯学 | 公衆衛生学 | 薬学 | |
| 冊数 | 1,553 | 2,876 | 1,437 | 6,242 | 1,966 | 991 | 234 | 165 | 3,661 | 261 |

9.3.3 看護系資料分類別構成（平成28年3月31日現在）

○看護学関係図書総冊数：13,760冊

| N0 | N1 | N2 | N3 | N4 | N5 | N6 | N7 | N8 | N9 | |
|------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|--------|-------|-----|
| 看護総記 | 看護理論 | 看護実践 | 母性看護 | 小児看護 | 成人看護 | 老年看護 | 精神看護 | 地域家族看護 | 状態別看護 | |
| 冊数 | 2,320 | 1,135 | 3,563 | 550 | 448 | 1,771 | 501 | 588 | 1,925 | 959 |

9.4 利用統計

9.4.1 開館日数・入館者数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 開館日数 | 25 | 23 | 26 | 26 | 23 | 22 | 27 | 22 | 22 | 21 | 23 | 20 | 275 |
| 入館者数 | 6,476 | 6,615 | 7,075 | 10,790 | 6,094 | 4,685 | 7,849 | 5,172 | 4,048 | 4,516 | 5,296 | 1,493 | 70,109 |
| 1日平均 | 259 | 288 | 272 | 415 | 265 | 213 | 291 | 235 | 184 | 215 | 230 | 75 | 255 |

9.4.2 館外利用者数及び冊数

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----|----|-------|-------|-----|-------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|--------|
| 学生 | 人数 | 491 | 596 | 497 | 557 | 286 | 363 | 548 | 293 | 277 | 351 | 187 | 51 | 4,497 |
| | 冊数 | 1,002 | 1,368 | 993 | 1,175 | 587 | 918 | 1,264 | 672 | 700 | 949 | 395 | 114 | 10,350 |
| 院生 | 人数 | 60 | 58 | 54 | 74 | 69 | 42 | 57 | 46 | 57 | 21 | 9 | 11 | 578 |
| | 冊数 | 198 | 166 | 164 | 198 | 196 | 113 | 152 | 129 | 176 | 147 | 80 | 35 | 1,754 |

| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|-----|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|--------|
| 教職員 | 人数 | 64 | 43 | 53 | 60 | 27 | 37 | 42 | 30 | 40 | 35 | 34 | 24 | 489 |
| | 冊数 | 174 | 120 | 146 | 142 | 72 | 99 | 120 | 102 | 108 | 90 | 96 | 81 | 1,350 |
| 一般 | 人数 | 40 | 66 | 74 | 73 | 92 | 61 | 92 | 88 | 89 | 56 | 59 | 43 | 833 |
| | 冊数 | 144 | 194 | 212 | 210 | 305 | 190 | 284 | 225 | 223 | 146 | 162 | 114 | 2,409 |
| 計 | 人数 | 655 | 763 | 678 | 764 | 494 | 503 | 739 | 457 | 463 | 463 | 289 | 129 | 6,397 |
| | 冊数 | 1,518 | 1,848 | 1,303 | 1,725 | 1,160 | 1,320 | 1,820 | 1,128 | 1,207 | 1,332 | 733 | 344 | 15,650 |

9.4.3 他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----|-----|-----|----|----|-----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-------|
| 教員 | 55 | 45 | 41 | 24 | 66 | 45 | 38 | 16 | 3 | 17 | 91 | 23 | 464 |
| 学生 | 51 | 61 | 24 | 74 | 127 | 19 | 56 | 31 | 17 | 5 | 7 | 22 | 494 |
| 計 | 106 | 106 | 65 | 98 | 193 | 64 | 94 | 47 | 20 | 22 | 98 | 45 | 1,072 |

9.4.4 他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----|-----|----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 教員 | 10 | 13 | 10 | 16 | 8 | 5 | 16 | 11 | 6 | 7 | 9 | 5 | 116 |
| 学生 | 93 | 58 | 78 | 66 | 79 | 79 | 64 | 73 | 59 | 37 | 60 | 35 | 781 |
| 一般 | 2 | 7 | 25 | 8 | 0 | 6 | 3 | 9 | 5 | 5 | 7 | 2 | 79 |
| 計 | 105 | 78 | 113 | 90 | 87 | 90 | 83 | 93 | 70 | 49 | 76 | 42 | 976 |

9.4.5 館内設置コピー機による複写件数・枚数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|--------|
| 件数 | 154 | 185 | 229 | 260 | 167 | 111 | 213 | 189 | 121 | 66 | 72 | 48 | 1,424 |
| 枚数 | 2,481 | 2,583 | 3,601 | 3,730 | 2,017 | 1,666 | 3,819 | 1,640 | 1,652 | 1,115 | 1,008 | 803 | 26,115 |

9.4.6 相互貸借貸出冊数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 公共 | 8 | 10 | 11 | 5 | 7 | 8 | 8 | 6 | 7 | 13 | 12 | 14 | 109 |
| 大学 | 0 | 0 | 1 | 5 | 1 | 0 | 2 | 1 | 2 | 4 | 5 | 5 | 26 |
| 合計 | 8 | 10 | 12 | 10 | 8 | 8 | 10 | 7 | 9 | 17 | 17 | 19 | 135 |

9.4.7 相互貸借借受冊数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 公共 | 31 | 44 | 56 | 62 | 48 | 39 | 56 | 39 | 50 | 50 | 21 | 28 | 524 |
| 大学 | 3 | 3 | 7 | 7 | 5 | 1 | 4 | 2 | 3 | 6 | 12 | 2 | 55 |
| 合計 | 34 | 47 | 63 | 69 | 53 | 40 | 60 | 41 | 53 | 56 | 33 | 30 | 579 |

9.4.8 データベースアクセス状況

○洋雑誌：CINAHL（EBSCO社）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-------|
| 件数 | 495 | 217 | 389 | 826 | 299 | 494 | 425 | 336 | 253 | 212 | 216 | 89 | 4,251 |

○和雑誌：メディカルオンライン（メテオゲート社）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----|-------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|--------|
| 件数 | 1,229 | 1,140 | 928 | 2,817 | 1,708 | 766 | 1,381 | 950 | 619 | 594 | 712 | 563 | 13,407 |

9.5 利用者サービス

9.5.1 学内向図書館サービス

新入生、新任教職員等を対象に、図書館の利用方法等について説明した。

| 実施時期 | 対象者 | 対象・参加人数 | 内容 |
|---------|-------------------------------------|----------------------------------|------------------------|
| 4月2日（木） | 新教職員 | 約10名 | 図書館の使い方 図書館の概要説明 |
| 4月3日（金） | 新入生ガイダンス 保護者説明会 編入生 新旧大学院生 | 約80名 約80名 編入生：約10名 約40名 | 図書館の使い方 図書館の概要説明 |
| 4月8日（水） | 大学院生 | 約10名 | 図書館の利用方法とオンラインデータベース講習 |
| 7月8日（水） | 感染管理認定看護師 教育課程リエンテーション | 受講生 約30名 | 図書館の利用方法とオンラインデータベース講習 |

9.5.2 学外向図書館サービス

県政バス、県内の中高生等を対象に、図書館の概要説明や、図書館の利用方法とオンラインデータベース講習会等を実施した。

| 日時 | 名称 | 対象・参加人数 | 内容 |
|-----------------------|----------------------------------|---------|----------------------------------|
| 7月15日（水） | 富山県立八尾高等学校 | 生徒12名 | 図書館の概要説明 |
| 7月18日（土） | オープンキャンパス | 高校生、保護者 | 図書館の開放、施設説明 図書リユースコーナー設置 |
| 7月29・30日 （水・木） | かほく市立高松中学校 「わく・ワーク（work）体験事業」 | 生徒3名 | 図書装備体験 カウンター業務体験 資料の複写業務体験 |
| 8月11日（火） | 県立田鶴浜高等学校 | 生徒35名 | 図書館の利用方法とデータベースの講習 |
| 9月18日（金） | 県立羽咋高等学校保護者会 | 保護者30名 | 図書館の概要説明 |
| 10月24・25日 （土・日） | 大学祭 秋のオープンキャンパス | 一般 | 図書館の開放 リユースコーナーの設置 |
| 5月22日（金） ～9月28日（月） | 県政バス（七尾市他） 計7回 | 約300名 | 図書館の概要説明 |

9.5.3 学内で利用できるデータベース

| | 内 容 | 同時 使用 |
|----------------------------|---|-------------|
| 最新看護 索引 web | 看護分野に限定した雑誌文献情報データベース。「日本看護学会論文集」平成23年度(第42回)より、電子版を掲載。全10領域の「論文集(電子版)」を閲覧・ダウンロードできる。収録件数、約20万件、収録誌数812誌。更新頻度月1回。 | 3 |
| PubMed | 医学分野の代表的文献情報データベース。米国NLM作成。医学・歯学・生命科学関係の4,800誌以上の雑誌から収録。収録データ数約1,600万件。 | フリー アクセス |
| メディカル オンライン | 医学文献の検索をはじめ、医薬品・医療機器・医療関連サービスの情報を幅広く提供。 | フリー アクセス |
| CINAHL | 看護学・保健学分野の文献情報データベース。約3,000誌の専門誌が対象。データ数約42万件。(EBSCO社) | 4 |
| PsycINFO | 心理学、行動科学、精神医学分野の文献情報データベース。29カ国、20以上の言語で出版されている2,400点の心理学関連資料から収録。 | フリー アクセス |
| 医学中央雑誌 | 日本国内の医学・歯学・薬学及び関連分野の文献を網羅した文献情報データベース。収録誌数約6,500誌。収録件数約630万件。 | 8 |
| Nii、CiNii (国立情報学研究所) | 国立情報学研究所主宰の資料検索、学術雑誌文献検索、研究成果論文検索等を収録した総合検索システム。 (主宰：国立情報学研究所) | フリー アクセス |
| ELSEVIER Science Direct | 購読タイトル(9誌)の2007年以降に出版された論文全て。購読誌「Applied Nursing Research」他9誌 サブジェクト・コレクションの論文すべて 対象サブジェクト：Nursing and Health Professions | 4 |

9.6 職員研修

9.6.1 附属図書館職員の研修

| 日 時 | 場 所 | 名 称 | 内 容 | 参加者名 |
|-------------------|-----|---|----------------------------------|-------|
| 4月10日(金) | 金沢市 | 第1回図書館協力業務・ネットワーク担当者会議 主催：石川県公共図書館協議会 | 県立図書館との相互協力について | 山田 志歩 |
| 6月4・5日 (木・金) | 名護市 | 公立大学協会図書館協議会事務長会・同総会、東海・北陸地区会議 主催：公立大学協会図書館協議会 | ・公立大学図書館の活動について ・東海・北陸地区会議の出席 | 山本 晃暢 |
| 7月29日(水) | 能美市 | 石川県大学図書館協議会定例会議及び講演会 主催：石川県大学図書館協議会 | 県内大学図書館の活動について | 山本 晃暢 |
| 8月26～28日 (水～金) | 静岡市 | 平成27年度目録システム地域講習会(図書コース)受講のため 主催：国立情報学研究所 静岡大学附属図書館 | 総合目録データベースの概要及び図書登録、修正の知識を習得 | 山本 晃暢 |
| 10月9日(金) | 金沢市 | 平成27年度日本図書館協会地方講習会 主催：石川県図書館協会 | 図書館サービス充実のための知識や技術を学ぶ | 山田 志歩 |

| | | | | |
|--------------------|-----|---|--|----------------|
| 10月15～16日 (水～金) | 東京都 | 「第101回全国図書館大会」 主催：日本図書館協会 | 大会テーマ：図書館は 地域の広場生きる力 | 山本 晃暢 |
| 11月6日(水) | 金沢市 | 平成27年度石川県図書館大会 主催：石川県図書館協会 | 生涯学習の拠点としての 図書館の役割を研究 討議・図書館の可能性 | 東 加奈子 |
| 11月25日(水) | 能美市 | 平成26年度石川県大学図書館協 議会特別研修会 主催：石川県大学図書館協議会 | 大学図書館が実施する 学習支援サービス：情 報リテラシーを中心と して | 山田 志歩 東 加奈子 |
| 12月11日(金) | 金沢市 | 平成27年度第5回図書館実務講習 会（レファレンス研修） 主催：石川県公共図書館協議会 | 図書館業務の専門的な 知識・技術の習得を図 る。 | 山田 志歩 |

10. 附属地域ケア総合センター

10.1 地域ケア総合センター運営委員会

委員長：長谷川昇 教授（地域ケア総合センター長）

委員：武山教授、川島教授、高山教授、林教授、山岸准教授、塚田准教授、中道講師、
中嶋助手、大西助手、金子助手、井上助手

事務局：塚本課長補佐

活動内容：

人材育成事業、地域連携・貢献事業、国際貢献事業の企画・立案と事業実施を行う。

平成27年度の具体的な実績、次年度の企画については以下に記す。

10.1.1 人材育成事業

10.1.1.1 主催事業

平成27年度、地域ケア総合センターが主催した公開講座「複数の専門看護師による公開事例検討会」においては、ホームページやちらし、がんプロ事業との共催により広報の充実を図った。「ケアのデザイン 手のケアを見直す」「訪問看護の現場に活かすフィジカルアセスメント」「看護実践に活かすやさしい検査のみかた」「看護実践に活かすフィジカルアセスメント」を実施した。次年度は、公開事例検討会は継続し、ホームページの更新と広報の効果について評価する方法も検討する。

10.1.1.2 本学教員主催の研究会・事例検討会

平成27年度は、「ジェネラリストのための事例検討」、「ペリネイタルグリーフケア」、「子育て支援・虐待予防に関する勉強会」、「高齢者ケア事例検討会」、「がん看護事例検討会」などの事例検討会を開催した。次年度も同様に開催する予定である。

10.1.1.3 講師派遣事業

平成27年度は、病院からの研究指導の要望が14件ほどあり、教員の派遣を実施し、現場の看護指導ニーズを把握した。また、学会発表等の支援も行っている。次年度も医療機関からのニーズを的確に把握し、講師派遣を継続的に行う予定である。

10.1.2 地域連携・貢献事業

10.1.2.1 地域連携事業

平成27年度は、能登町の来人喜人里創りプロジェクト、かほく市の健康づくりを支援する取り組み、防災事業への協力や1人暮らし高齢者に対する学生の訪問事業、宝達志水町の限界集落を支援する取り組みなど、地域の課題解決や地域おこし活動を引き続き実施した。

また、4月に行われた宝達志水町桜祭りでは、企画段階から学生が参加した。また、当日は、健康測定ブースの出展、本学茶道部と宝達高等学校茶道部と共催してのお茶会、ビンゴゲーム

の司会などにも参加した。次年度は、宝達志水町商工会だけでなく、健康福祉課事業への協力も予定されている。

10.1.2.2 生涯学習講座

平成 27 年度は、かほく市との共催で、「子育てしやすい街づくりフォーラム」でワークショップを行った。詳細は、「10.1.4かほく市との包括協定」の欄に記載した。3月に、地域ケア総合センター事業の広報と評価をいただくため、メールマガジン配信システムを構築し、平成 28 年度からの運用に備えた。これにより、本学が開催する生涯学習講座への参加者の増加が見込まれる。次年度も、公開フォーラムとして、「子育てしやすい街づくり」を継続して行い、住民とともに地域課題を解決していく場を提供する予定である。

10.1.3 国際貢献事業

平成 27 年 7～8 月は、独立行政法人国際協力機構（JICA）からの委託事業「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」について、パラグアイ共和国から日系研修生 2 名を受け入れ、25 日間の研修プログラムを羽咋市社会福祉協議会との連携の下、実施することができた。今年度末の 2 月下旬には 9 年間のパラグアイ共和国からの研修生 23 名ならびに現地の取り組み事業のフォローアップのため、本学から 2 名の教員を派遣し、研修事業の評価を行った。また、このフォローアップ調査団は、次のステップの取り組み（草の根技術協力事業）のニーズ把握を目的とした調査も兼ねている。

平成 27 年 11 月～12 月にかけて、JICA 青年研修事業、中央アジア・コーカサス混成「地域保健医療実施管理コース」について、研修員 12 名（キルギス 7 名、トルクメニスタン 2 名、グルジア 2 名、アゼルバイジャン 1 名）を受け入れた。予防医学・公衆衛生分野における実施体制の課題解決を担う青年層（将来のリーダー）の知識と意識の向上を目的に、主に石川中央・南加賀地区を研修モデル地区として実施した。平成 28 年度も青年研修の公募に応募し、研修事業（カンボジア）を引き受ける。

10.1.4 かほく市との包括的連携

平成 27 年度は、かほく市との包括連携協定締結に係る協議会の開催とさらなる事業の充実をはかる情報交換・意見交換を 2 回開催した。「市民の体力測定結果の集積事業」では、50 代をターゲットとして、健康ポイントキャンペーンを実施した。合計 60 名の参加者があり、そのうち、「毎日健康倶楽部」への登録者は、33 名であった（健康福祉課、保健医療課、生涯学習課、長寿介護課）。認知症にやさしい街づくりシンポジウム、介護予防サポーター養成講座、介護予防講座の効果的な展開事業（学校教育課）、道の駅活性化事業（産業振興課）、高齢者と看護大生との交流事業（長寿介護課）に協力した。また、かほく市（子育て支援課）との共催で「子育てしやすい街づくりフォーラム」を開催した。まちひとぷら座かんかこかん運営委員長の伊藤早苗氏の講演の後、5 名のファシリテーターと 52 名の参加者によるワークショップを実施した。その結果、幅広い年代の方が子育てを手伝いたいと考えていることが明らかとなった。

1 1. 附属看護キャリア支援センター

11.1 看護キャリア支援センター運営委員会

委員長：丸岡直子教授

委員：林一美教授、石川准教授、北山准教授、木森佳子講師、清水暢子助教、竹村美和特任講師、近藤祐子特任講師、小清水明子臨時講師

活動内容：平成 27 年度の活動目標として、感染管理認定看護師教育課程の運営と入学試験の実施、石川県委託事業（講習会・研修会）の実施、および石川県高度・専門医療人材育成事業の後援を行った。

11.2 感染管理認定看護師教育課程

11.2.1 受講生の応募・受講・修了状況

| | 定員 | 応募者数 | 入学者数 | 修了者数 |
|--------|----|------|------|------|
| 平成27年度 | 30 | 23 | 20 | 20 |

11.2.2 入学試験・入試説明会の実施

1) 入学試験の実施

平成 27 年 5 月 24 日（土）（平成 27 年度入学生・二次募集）

平成 28 年 2 月 27 日（土）（平成 28 年度入学生）

2) 入試説明会の実施

平成 27 年 7 月 18 日（土）と 10 月 31 日（土）に開催し、延べ 33 名が参加。

11.2.3 感染管理部会（入試委員会）

部会長：丸岡直子教授

部員：今井美和教授、石川倫子准教授、竹村美和特任講師、近藤祐子特任講師、北川洋子（富山大学附属病院）、室井洋子（福井大学医学部附属病院）、野田洋子（金沢医科大学感染制御室）、越野まゆみ（石川県立中央病院）

活動内容：1. 募集要項の検討（日程、入学資格要件、試験科目等）

2. 入学者の決定

11.2.4 感染管理教務委員会（教員会）

委員長：丸岡直子教授

委員：川島和代教授、石川倫子准教授、竹村美和特任講師、近藤祐子特任講師
飯沼由嗣（金沢医科大学）、吉野幸枝（石川県看護協会）
青木きみ代（国立病院機構金沢医療センター）
小森幸子（山中温泉医療センター）

活動内容：1. 教育課程の内容、教育環境整備に関する検討

2. 受講生の修了判定

11.3 石川県委託事業の開催

11.3.1 感染管理研修

①開催期間：平成27年6月3日～11日

②受講者：48名

(看護師実務経験5年以上で、自施設の感染管理対策活動が期待されている者)

③内容：感染管理におけるICTの役割・機能、感染管理に活かす感染症学・微生物学、感染防止対策の基本と実際、医療関連感染サーベイランスなど 30時間

11.3.2 実習指導者講習会（特定分野）

①開催期間：平成27年8月12日～9月18日の7日間

②受講者：24名

(看護師等経験5年以上で、病院以外の実習施設において学生の実習指導を担当している者、またはその役割を期待されている者)

③内容：教育方法・教育評価、看護教育課程、実習指導の実際・指導案の作成 など39時間

11.3.3 管理者経営研修

①開催期間：平成27年11月13日～28日の4日間

②受講者：27名（看護師長以上の職位にある者）

③内容：地域包括ケア時代における看護管理者の役割、看護管理者のための病院経営数字力、組織分析に基づく看護管理上の課題解決に向けた戦略 24時間

11.4 石川県高度・専門医療人材育成事業の後援

医療施設において入院患者に退院支援を行う看護師に対して、外来から始まる退院支援プロセス、多職種連携、在宅医療および家族看護の理解を深めるための4回の事例検討会と3回の退院支援セミナー開催を後援した。

12. 大学として取り組んでいる連携事業

12.1 北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン

実施団体名

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン(先進的医療イノベーション人材養成事業)
：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、石川県立看護大学

概要

高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上を推進することを目的とし、北陸では金沢大学、石川県立看護大学、金沢医科大学、富山大学、福井大学が申請し「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」として平成24年度に採択された。全国で15拠点が採択されている。本事業の特徴は、北陸地区における医科系4大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）と、看護系1大学（石川県立看護大学）より構成され、スキームは、①がん教育改革（本科8コース）、②地域がん医療（インテンシブ11コース）、③がん研究者養成（本科2コース）より構成されている。①教育改革については、IPEによるチームマインド養成カリキュラム、多職種連携によるチーム医療のリーダー養成カリキュラム、医科系大学連携による単位互換制度を特徴としている。②地域がん医療については、能登北部地区等の医療過疎地域を拠点とした地域がん医療研修、インテンシブコースによる地域がん医療の指導者養成、がん専門医の地域定着を狙いとするコースを設けている。地域がん医療に貢献できる看護師養成コースを設け、地域看護の活性化、休職中看護職復帰へ繋げている。③研究者養成については、国際機関連携教育、卒前・卒後一貫教育、MD-PhDによる学部・大学院一貫教育による高度な研究能力を有するがん研究者養成を図ることである。

12.1.1 がんプロ企画委員会

委員長：牧野智恵 教授

委員：石垣教授（学長）、吉田教授（研究科長）、今井教授、松原教授、彦准教授、
岩城准教授、浅田特任助教、松田教務学生課長（～H27.9）、
塚本課長補佐（H27.10～）

事務局：田淵主事

活動内容：

1. 本科生（がん看護専門看護師）の育成の検討

1) 昨年度から、共通科目B（指定履修）6単位と「がん看護学実習Ⅲ」4単位を追加し、38単位履修による教育を開始した。それに伴い、臨床薬理学、フィジカルアセスメント、病態生理学の強化、実習内容の強化（医師とのカンファレンスの実施による診断技術の強化）を行った。今年は、3名が修了し、1名の大学院生が入学した。

2) がん看護専門看護師として、国際的知識・技術の習得のため、緩和ケア発祥の地であるカナダを訪問した。がんプロ本科生・修了生（7名）、その他県外のCNSなど（7名）を

含め、13名が参加した。

2. 北陸3県の看護師へのがん看護に関する知識・技術の普及

1) インテンシブコースによる育成内容の検討・評価の実施

以下の4つのコースへの募集および成績判定を行った。

<インテンシブAコース>

本科生を修了した者へのがん看護専門看護師受験をサポートするために、インテンシブAコースを実施している。本コースは3名であった。

<地域がん看護師養成コース>

地域がん看護師養成コースⅠは、大学院での科目履修を目的とするもので、今年度は、申請者はいなかった。地域がん看護師養成コースⅡは、大学院への入学は予定していないが、最新のがん看護の知識を得たい人を対象としたものである。毎月1回実施しているテレビ会議システムによる事例検討の後、がん看護専門看護師によるミニレクチャーをのさんかを義務づけている。沿革の施設にいながらにして、事例の検討に参加し、他施設のがん看護の実践の様子を知ることができ、がん看護実践における知識や思考を支援している。今年度は、6名の看護師が参加した。

<地域がん看護活性化コース>

何らかの事情で現在休職あるいは退職している看護師を対象にしたコースで、がんプロ主催の公開講座や事例検討会などに参加することを通して、現在臨床で行われている様々な問題を聞き、再就業へのバリアを解消し、再就業しやすい環境を整えることを目的としたもの。今年度は、8名の看護師が申請した。

2) 「リンパ浮腫ケア症状マネージメントを学ぶ」研修の企画・評価

今年度は、京都大学医学部附属病院のがん看護専門看護師を講師として招き、8月22日、本学成人看護学実習室にて実施した。54名の看護師が参加した。概ね満足の評価が多かった。

3) 公開事例検討会の企画・評価

本学地域ケア総合センターとの共同企画で、「多領域の専門看護師による公開事例検討会」を開催した。

今年度は、進藤喜予氏（東大阪市立総合病院 緩和ケア内科長）と、5名専門看護師（がん2名、老人2名、精神1名）をお招きし、9月23日（水・祝）に本学大講義室にて実施した。44名の県内外の看護師、専門看護師が参加し、内容に「大変満足・満足」していた参加者は90%を占めていた。

4) FD・SD研修会の企画・評価

11月1日（日）本学大講義室にて、「がん経験者の在宅生活を支える ～能登地区の在宅における看取りの実際から～」と題して、研修会を実施した。講師には、秋山正子氏（株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーション統括所長）と、能登地区の医師1名、看護師2名をお呼びした。1部では講義、2部ではパネルディスカッションを行い、能登地域でのがん患者の在宅を支える上での課題について意見を出し合った。当日はおよそ108名の医師、看護師、がん体験者が集まった。90%以上の参加者が「参考にな

った・とても参考になった」の評価であった。

3. 各企画のアンケート内容の検討・評価

上記各コースおよび企画を実施後は、参加者からのアンケート集計を行い、次年度に向け評価を行った。リンパ浮腫ケア研修は、がんプロ事業によって知識・技術の普及も高まっていることから参加者が減ってきている。来年も1日実施とすることを決めた。また、公開事例検討会については、来年度も多領域の看護専門看護師との企画を検討していく予定であることを検討した。

12.1.1.1 がんプロ運営委員会

委員長：岩城直子 准教授

委員：金谷講師、子吉助教、寺井助教、川端助教、松本助教、浅田特任助教

事務局：田淵主事

活動内容：

1. 本学「北陸高度がんプロチーム養成基盤推進プラン」内容の実施

- 1) 「リンパ浮腫のケアについて一予防から発症初期までの看護介入を中心に」の準備・実施・アンケート集計

平成27年8月22日(土)開催に向け準備、実施、アンケート集計を行った。参加者は53名で、北陸3県全てから参加があった。参加者の多くは、リンパ浮腫患者と接する機会が多い病院勤務や訪問看護ステーションに在籍する看護師、作業療法士であった。アンケート結果から、「わかりやすい」内容であり、受講者の満足度も高く、リンパ浮腫ケアに関する自己評価も上昇する傾向であった。

- 2) 「多領域の専門看護師による公開事例検討会」準備・実施・アンケート集計

本学地域ケア総合センターと共同で、平成27年9月23日(水・祝)開催に向け準備、実施、アンケート集計を行った。多領域のCNSのアセスメントの視点や、他施設のスタッフの意見が参考になったとの意見がみられ、参加者は看護実践に活かせると回答していた。

- 3) 「がん体験者の在宅生活を支える一能登地区の在宅における看取りの実際から」FD・SD研修会の実施、アンケート集計

平成27年11月1日(日)の開催に向けて準備、実施、アンケート集計を行った。多職種(医師、看護師、介護福祉専門員等)108名の参加であった。講演会とパネルディスカッションの満足度は高く、具体的な事例や地域力の重要性についての意見が聞かれた。

- 4) 「がんになったら仕事を辞めざるを得ないのか!？」市民公開講座の実施、アンケート集計

平成27年11月29日(日)開催に向け準備、実施、アンケート集計を行った。参加者58名。講演、疑似体験・ロールプレイでの評価は、現場で活かしていけるとの意見も見られ、「参考になった」と答える人が85~95%以上という結果であった。

外部資金

研究拠点形成費等補助金(がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン) 連携大学の分担金

6,106千円

12.2 大学間連携共同教育推進事業 ―ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト―

実施団体名

大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型グローバル人材育成システムの構築」
石川県における高等教育機関 19 の大学・短期大学・高専（大学コンソーシアム石川加盟校）
統括本部は金沢大学が所掌。

概要

平成 27 年度、石川県立看護大学は、大学間連携共同教育推進事業の実施のため学内委員会（委員 9 名、事務局 1 名にて構成）を設置し、本格稼働 2 年目の事業として民泊型フィールド実習、海外研修（韓国全北大学校）に取り組んだ。民泊型フィールド実習は、能登町教育委員会との協議に基づき、能登町の柳田地区（柳田公民館）、宇出津地区（高倉公民館）、内浦地区（白丸公民館）3 地区において民泊型フィールド実習を展開した。また、グローバルな視野を広げるために保健・医療・福祉系の大学で学ぶ学生向け海外研修は、韓国全羅北道庁、全北大学校の協力・支援の下、実施できた。

活動内容

1. 民泊型フィールド実習

1) フィールド実習オリエンテーション：

4 月当初、フィールド実習の目的や方法について学内でオリエンテーションを実施、学生はオリエンテーション内容を聞き、希望する実習先を選択する。その結果、能登町における民泊型フィールド実習を 22 名の学生が主体的に選択した。

2) 能登町の概要等を知る：

4 月 25 日（土）午前、地域の特色を学ぶため、「能登町の概要と世界農業遺産を活用した町の取り組み」と題して能登町企画財政課係長吉田源一郎氏と西谷幸一氏から講義を受けた。その後、質疑応答・意見交換を行った。参加者は学生 22 名、教員 7 名。能登町の概要をパワーポイントならびに DVD を用いた能登町の人口・高齢化率をはじめとした人口動態に加え、産業、観光、伝統・文化などの講義内容は、学生の能登町に関する理解を深めることに有効であったと考える。

3) 能登町の視察：

同日午後、実習先となる能登町の 3 地域まで大型バスにて移動し、地区の公民館を拠点にフィールド探索し、公民館長等から地域に関する概要について講義を受けた。この日の体験に基づいて 6 月の民泊型フィールド実習の活動計画の立案に生かすことになった。実習計画を立案し、公民館の館長・主事等の助言を得た。民泊先は、公民館の協力によって各地区の家庭を推薦頂いた。

4) 3 地区における民泊型フィールド実習の実施：

- (1) 日時：平成 27 年 6 月 17 日～19 日の 2 泊 3 日
- (2) 場所：①柳田公民館と地域の住民宅（民泊）
②高倉公民館と地域の住民宅（民泊）
③白丸公民館と地域の住民宅（民泊）

3 地区に分かれて、「地域を知る」取り組みを実施した。主な実習体験は次の表の通りである。

民泊型フィールド実習における各地区の民泊先での実習体験

| 柳田地区：4 家庭 | 高倉地区：4 家庭 | 白丸地区：3 家庭 |
|--|---|--|
| ①地区の暮らしに関する講話 ・農家、高齢者世帯の暮らし ・特色ある地域行事や伝統 ・生活上の工夫や知恵 ②調理実習も含む、夕食と朝食での交流 ・伝統的な料理、地産のものを活かした料理について ・保存食の作り方と活用 ③農産物の収穫体験 ・ブルーベリーや梅の収穫 ④柳田地区の自然鑑賞、地域散策の引率 ・蛍鑑賞など | ① 地区の暮らしに関する講話 ・漁業を中心とした生活内容 ・買い物や交通の便、 ・医療機関へのアクセス ・地域住民の助け合い ・防災について ・祭りなどの地域行事 など ②夕食と朝食の調理実習 ・魚の鮮度の見極め ・魚のおろし方を教わる ・魚料理の仕方（煮魚、焼き魚、つくり） ③各家での生活習慣 ・神仏へのお参りやつながり ・農作業・魚釣り など | ①食を中心とした暮らしの講話 ・主な農産物 ・他の食料の調達方法 ・地域住民同士のつながり（日常的なつながりや祭りまで）における食の役割について ・季節による食生活の違い ② 夕食と朝食の調理実習 ・特産物、調理方法、盛り付け方、食器など、その実際 ・調理、食事を共にすることでの人間関係の形成 ③ 各家での日課、生活習慣 ・実習時における日課、暮らしぶりの実際 ・季節による変化 |

5) 民泊型フィールド実習の成果報告会：

(1) 日時・場所：平成 27 年 7 月 23 日（木）9:00～12:10 石川県立看護大学大講義室

(2) 参加者：1 年次学生 84 名、3 年次編入学生 6 名、教職員約 30 名

(3) 各地区の報告のテーマ：

- ① 柳田地区 「柳田地区の方々の暮らしと健康サポート」
- ② 高倉地区 「漁業を営む方々の生活や健康状態について」
- ③ 白丸地区 「能登町白丸地区における食の意味」

6) 各地区との交流継続：

能登町の白丸地区の祭礼や公民館イベントへの学生参加、柳田地区の住民健康調査等を継続実施している。

2. 韓国全北大学校における海外研修

大学間連携共同教育推進事業の中でグローバル人材育成においては、保健・医療・福祉系大学の学生向けのプログラムが必要と考え、「地域保健医療体制を学ぶ」研修を企画・提案した。今年度は 8 月下旬から実施予定であったが、韓国国内に MERS 感染の流行が見られ、参加者が辞退となり、実施できなかつた。12 月には追加感染の恐れなしとの宣言も出され、韓国全北大学校から受け入れ可能との連絡を頂いた。協議の結果、3 月末に 7 日間の短縮プログラムで受け入れ可能となり参加者を再募集したところ、学生 11 名（石川県立看護大学）の申込みがあり、2 名の引率教員、1 名の一般参加を得て、実施可能となった。研修スケジュール・内容は表の通りである。

韓国全羅북도・全北大学校看護大学 研修
2016. 3. 20～2016. 3. 27

| | | | AM | PM | 宿泊 |
|---|-------|---|--------------------------------------|---|--------------|
| 1 | 3月20日 | 日 | 9:45集合：小松空港発12:00→仁川空港14:05→全州市19:30 | | 全北大学校 宿舎 |
| 2 | 3月21日 | 月 | 全羅북도庁表敬訪問 全北大学校視察 | 全北大学校 学生との交流 講義(韓国の看護教育・健康課題と 対策) | 全北大学校 宿舎 |
| 3 | 3月22日 | 火 | 文化施設等視察 | 保健所等視察 | 全北大学校 宿舎 |
| 4 | 3月23日 | 水 | 高齢者保健福祉施設視察 | 保健診療所等視察 | 全北大学校 宿舎 |
| 5 | 3月24日 | 木 | 母子保健福祉施設視察 | 医療関係施設視察 | 全北大学校 宿舎 |
| 6 | 3月25日 | 金 | 文化施設等視察 | 全州市→ソウル市 | ソウル市内 ホテル |
| 7 | 3月26日 | 土 | ソウル市内歴史・文化施設視察 | | ソウル市内 ホテル |
| 8 | 3月27日 | 日 | 仁川空港発9:05→小松空港10:50 | | |

3. 石川県立看護大学におけるグローバル人材育成の実績

石川県立看護大学の4年次学生3名が修了証を申請したところ、全員修了が認められた。

外部報告

- 1) いしかわグローバル人材育成サミット in 七尾
- 2) 大学間連携共同教育推進事業 平成27年度事業報告書

外部資金

大学改革推進等補助金(大学間連携共同教育推進事業) 912千円

12.3 大学コンソーシアム石川関連事業

12.3.1 いしかわシティカレッジ「地域と災害(基礎および実践)」

講師

武山雅志(学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会会員)

概要

平成27年度シティカレッジ前期科目として「地域と災害(基礎)」と「地域と災害(実践)」を開講した。「地域と災害(基礎)」には14名の受講生があり、7回の講義を実施した。「地域と災害(実践)」には11名の受講生があり、宮城県石巻市における実践活動を実施するとともに最終回には「きずなフォーラム」を開催し、実践活動の振り返りを兼ねて発表を行った。

外部報告

「地域と災害(基礎)」と「地域と災害(実践)」の活動内容については当研究会の他事業と併せて「平成27年度学生等災害ボランティアリーダー育成事業活動報告書」としてまとめた。

外部資金

本講座の非常勤講師謝金は石川県公立大学法人と大学コンソーシアム石川および公益財団法人石川県県民ボランティアセンターの間の委託契約に基づいている。

12.4 能登キャンパス構想事業

実施団体名

能登キャンパス構想推進協議会：

石川県、金沢大学、石川県立大学、石川県立看護大学、金沢星稜大学、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町

概要

高等教育機関のない奥能登地区をキャンパスと捉え学びの場とすることで能登の活性化（交流人口の拡大や若者の移住・定着等）を目的とした能登キャンパス構想推進協議会に本学が正式加盟して3年目である。本協議会は、石川県(能登半島地震復興基金)、上記4大学、奥能登2市2町が出資して運営している。

活動内容

1. 協議会・幹事会への出席：

協議会は年1回（副学長、副市長相当の役職者）、幹事会は年10回開催
協議会で能登キャンパス構想推進協議会の翌年度の運営方針を審議・決定し、幹事会が実施する。

2. 能登の課題解決プログラム（ワークショップ）への学生参加：

本事業の目的は、奥能登の抱える共通の課題である移住促進に関し、学生がワークショップ形式で取り組み、成果報告を行うことである。

活動内容は、以下のようなものである。①奥能登2市2町へ移住した方を対象とした移住に関する調査、②調査結果のまとめと分析、③活動前後における地域で活躍したいという学生の意識の変化の比較。活動期間は、8月夏季休業開始後から10月17日成果報告会までの約2ヶ月間である。石川県立看護大学からは3年次学生1名が自発的に応募し、活動を行った。

学生は、活動の成果を平成27年10月17日に、のと里山空港4階会議室Aにおいて開催された「能登の課題解決プログラム活動報告会」で発表した。

石川県立看護大学は本事業の参加をヒューマンヘルスケア科目1単位分として認定した。

3. 能登「祭りの環プロジェクト」2015への参加：

石川県立大学と石川県立看護大学、金沢大学合同で珠洲市三崎町粟津「粟津の秋祭り」（平成27年9月12～13日）に総勢19名の学生が参加した。引率教員は2名である。奥能登珠洲の祭りでは神輿のお供といえ「太鼓山（たいこやま）」、消滅しつつある能登の祭りの原点である太鼓山に導かれた神輿とキリコが町内を巡行する、地域住民と交流しながら共に祭りを体験した。

外部報告

該当なし

12.5 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)

実施団体名

(参加大学) 金沢大学、金沢工業大学、石川県立看護大学、石川県立大学、金沢星稜大学、
北陸大学、金沢学院大学、金城大学、(協力大学) 7校

(自治体) 石川県はじめ県内すべての自治体 20

(企業・団体) 企業・団体 18

概要

本事業は文部科学省が募集した地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+) に金沢大学が中心となって応募した「金沢・加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材育成」が採択された。本事業の目的は、地方創生の鍵となる若者の定着と産業と地域の活性化をめざし、グローバルな視点で地域を思考できる学生を育成し、地方創生を担う次世代の人材の輩出、また、地域関係機関(企業・自治体等)と連携した雇用創出を含む地域定着モデルの構築である。平成31年度までに石川県内の学生の就職率10%向上、うち10%は起業等による雇用創出をめざす数値目標を掲げている。

活動内容

1. 地域創生概論の受講準備:

本学のCOC+担当教員と教務委員会委員長、事務局担当者が、今後、作成されるICT教材「地域創生概論」を授業での活用、単位認定等につなげるための方略について審議・意見交換を行った。

2. テレビ会議システムの導入準備:

参加大学間をテレビ会議システムでつなぐために本学の対応方針や準備について検討を行った。

3. 石川県立看護大学における卒業生・修了生の地元定着や起業等に関する支援:

石川県立看護大学の卒業生・修了生の80%近くが地元に進学・就職する現状である。これ以上の就職率アップには貢献できないが、現状の維持ならびに将来起業する人材、地元で働き続ける看護職の支援については今後の検討課題である。過疎地や僻地で働く卒業生等を招いて仕事の魅力と課題について語ってもらう機会を設け、理解を深める方向性が出された。

また、本事業で重視している地元石川県の歴史や文化、産業、暮らしなどに関する理解を深め、魅力を再発見し語れる人材を輩出するために、本事業の効果的な活用についても検討が必要である。

外部報告

該当なし

外部資金

大学改革推進等補助金(地(知)の拠点大学による地方創生推進事業) 1,125千円

編集後記

石川県立看護大学年報は、本学の教育・研究・地域貢献の実績を学外にわかりやすく提示することをめざしています。平成 26 年度に内容構成を見直したので、今年度(27 年度)は大きな変更はなく、一部の標記方法を見やすいようにしたくらいです。内容は、例年通り中期計画・年度計画の概要や、それらを基に看護学部、大学院看護学研究科、附属図書館、附属地域ケア総合センター、附属看護キャリア支援センターでどのような活動が行われたかについて、大学全体で他機関と連携し実施した活動、教職員個々の学内外での役割や活動等の報告です。平成 27 年度の特徴としては、次の新たな活動が挙げられるかと思います。本学は、国際交流の推進としてアメリカのワシントン大学、韓国の全北大学校看護大学と覚書を交わしていますが、新たに中国の吉林大学看護学院と南京中医薬大学と提携覚書を締結しました。また、新たに韓国の全北大学校看護大学・全羅北道庁の協力を基に学生対象の海外看護研修を実施しました。さらに、「金沢・加賀・能登で地域思考型による夢と志を持つ人材育成」(文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」採択事業/金沢大学を中心に本学を含む7協力大学で実施)が新たにスタートしたことも挙げられます。

年報作成により 1 年の諸活動を振り返り、課題を確認し、次年度の方向性を示すことを通して、皆様に本学をより知っていただき、皆様と本学との新たな接点が生まれ、交流が継続・深化していくことを期待しています。

本誌の編集にあたり各委員会、各附属施設の皆様から多大なご協力を頂きましたことにお礼を申し上げます。また、実質的な作業を担った田村幸恵委員、田淵幸幾主事の労をねぎらいたいと思います。皆様のご協力に感謝申し上げます。

2016 年 9 月 吉日 自己点検・評価委員会 西村真実子

平成27年度 石川県立看護大学年報 第16巻
2016年9月30日 発行

編集：石川県立看護大学 自己点検・評価委員会
年報編集部会

発行：石川県公立大学法人 石川県立看護大学
〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
tel.076-281-8300 fax.076-281-8319

「著作権は石川県公立大学法人に帰属する。」

(この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。)

